



ISSN 1881-8315

平成 27 年 度

総合福祉研究

Social Welfare Research Bulletin

特 集 号

淑徳大学社会福祉研究所共同研究報告書
—卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について—

2015 年 9 月

淑徳大学社会福祉研究所
総合福祉研究室

平成 27 年 度

総 合 福 祉 研 究

特 集 号

淑徳大学社会福祉研究所共同研究報告書

—卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について—

2 0 1 5 年 9 月

淑徳大学社会福祉研究所 総合福祉研究室

本学卒業生へのアンケート調査報告書の 刊行に寄せて

本学では、創立50周年を迎えて、さまざまな記念事業が進められているなかに、卒業生を対象とした今回の意識調査と他にインタビューによる「淑徳人紹介」といった二つの事業があります。いずれも本学の卒業生に共通する人生観や職業観などの価値観なり、行動形態なりを見出せるか否か、言い換えれば、「淑徳人」にみられる意識と行動の特徴とはどのようなものかを明らかにし、同時に、半世紀に及ぶ淑徳教育そのものの検証に資する資料としたい、といった思いが私にはあります。

このことは、本学の建学の精神や教育方針、人材育成目標やカリキュラムをはじめ、実際に展開される教育内容（授業・行事・課外活動等）、各種学生サポート、そして広報や施設環境等がどれだけ学生諸君にとって有効に機能したのか否かを反省的に問うばかりでなく、学祖が掲げた「同志の後継者」の育成という本学のミッションが息づいているかを確認するための作業でもあります。

一般に、大学に対する社会的評価は卒業生の活躍に負うところが大きいと言われる。受験生など外部の方から淑徳の良さや持ち味を尋ねられるような場合、時として私は「論より証拠」ですから、是非一度、淑徳の卒業生と会ってみてください、と申し上げることがあります。3万人を超える卒業生がいれば、3万様（ポジティブからネガティブまで）の受け止め方があるのは当然のことです。にもかかわらず、そこには本学で学んだことの証として、卒業生の間にある種の共通した意識傾向がうかがわれるのではないのでしょうか。

今回、本学の社会福祉研究所で実施した卒業生対象のアンケート調査は、これまでの本学の教育を振り返るとともに、まさに上記の傾向を読み取るための貴重な試みであります。先日、川瀬良美所長から調査結果の概要報告を受けたところですが、その折にも、調査の着目点として、「特に人生観および人生における価値の意識では、在学中に学んだ学祖長谷川良信先生の理念や思想がどのように意識されているか」を挙げられていました。

結果に関してですが、たとえば「仕事への意識」についての項目では、最も点数が

高かったのは「仕事をする上で、周りの人に支えられている」と「学祖の思想・理念に関する項目」で、性別や卒業期、学部、学科を問わず共通して高いことが示された。また、カテゴリー別の平均値でも、「学祖の思想・理念に関する項目」が最も高く、建学の精神である「利他共生の精神」は、本学の卒業生が仕事をする上での基礎になっていることが見受けられた、としているなど、報告書は興味深い分析や貴重な情報に満ちています。是非、今後における「自校教育」の充実、教育改革の推進に役立てていただきたいものです。

しばらく前のことですが、ある卒業生から、職場の職員間で自己紹介をし合うと、予想していた通り同じ淑徳の卒業生であることが多いと言い、「淑徳のにおいがする」といった表現を使って理由を説明してくれました。本件は、特別支援学校現場の例でしたが、この「淑徳のにおい」の内実を問わねばなりません。おそらく、今回の調査結果のなかに答えを見出すことが出来るのではないのでしょうか。

結びに、ご多忙の中を本調査にご協力くださった卒業生並びに同窓会の皆さまに厚く御礼申し上げます。併せて、調査の計画・実施・報告書作成に至るまでご尽力いただいた社会福祉研究所の本プロジェクト担当者各位に謝意を表し、ご挨拶といたします。

大乘淑徳学園
理事長 長谷川 匡 俊

目 次

はじめに

共同研究報告

I. 調査研究の目的	1
II. アンケート調査の概要	1
III. 調査結果	8
IV. 質問項目別調査結果	9
問1 回答者の性別人数	9
問2 回答者の年齢構成（平成26年4月1日現在の満年齢）	9
問3 回答者の卒業年別（卒期別）人数	10
問4 回答者の卒業月別人数	10
問5 回答者の卒業した学部と学科別人数	11
問6 回答者の現住所（居住都道府県）	11
問7 回答者の淑徳大学同窓会の支部活動への参加状況	12
問8 回答者の所属する同窓会地方支部名とその人数	13
問9 回答者の現在の就職の有無	14
問10 回答者の卒業時の進路と現在に至るまでの職歴	
問10-1 選択肢の選定	15
問10-2 結果の概要	16
問10-3 大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態	17
問10-4 1回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由	19
問10-5 2回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由	20
問10-6 3回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由	21
問10-7 4回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由	21
問10-8 性別による結果	21
問10-9 卒業年別による結果	38
問10-10 学部別による結果	41
問10-11 学科別による結果	44

問11	在学中、あるいは大学卒業後に取得した免許・資格について	
問11-1	結果の概要	47
問11-2	取得した資格の種類と取得時期	47
問11-3	本学で取得できる免許とそれ以外について	48
問11-4	性別による結果	50
問11-5	卒業年別による結果	52
問11-6	学部別による結果	56
問11-7	学科別による結果	59
問11-8	その他取得した免許の概要	62
問12	仕事について感じていること	
問12-1	項目の選定	64
問12-2	結果の概要	65
問12-3	性別による結果	68
問12-4	卒業年別による結果	70
問12-5	学部別による結果	74
問12-6	学科別による結果	77
問13	人生観について：あなたが生きていく上での意識について	
問13-1	項目の選定	80
問13-2	結果の概要	81
問13-3	性別による結果	83
問13-4	卒業年別による結果	85
問13-5	学部別による結果	89
問13-6	学科別による結果	91
問14	人生において重要だと考えていることについて	
問14-1	項目の選定	93
問14-2	結果の概要	94
問14-3	性別による結果	95
問14-4	卒業年別による結果	97
問14-5	学部別による結果	101
問14-6	学科別による結果	104
問14-7	淑徳大学時代の学びについて	106
問14-8	降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加	108
問15	淑徳大学を誇りに思うこと	
問15-1	項目の選定	111

問15- 2 結果の概要	111
問15- 3 性別による結果	113
問15- 4 卒業年別による結果	114
問15- 5 学部別による結果	117
問15- 6 学科別による結果	119
問16 卒業生として現在の淑徳大学へ要望すること（自由記述）	122
問17 卒業生として淑徳大学に協力できること	133
おわりに	137
V. 文 献	138
VI. 調査実施体制	138
附 「卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について」調査用紙	139

ー卒業後の動向および仕事・人生へ 向きあう意識についてー

共同研究報告

I. 調査研究の目的

社会福祉研究所は、1977年に「淑徳大学カウンセリングセンター」を改組して「相談治療研究室」「総合福祉研究室」「地域福祉研究室」の3部門で構成された。その後、1994年に「総合福祉研究室」「地域福祉研究室」を統合して「総合福祉研究室」とし、それに「発達臨床研究センター(児童臨床部門)」と「共同研究推進室」を加えた現在の三部門による構成となり、現在に至っている。

「総合福祉研究室」及び「共同研究推進室」は変貌する社会福祉の状況に対応する研究活動と、それを通して地域社会に貢献することを目的としており、その活動としては、シンポジウム・講演会、本学教員による共同研究や委託を受けての研究活動を行ってきた。

社会福祉に関する調査研究として、平成9年度からほぼ3年周期でテーマを決めて共同研究を実施している。これまでの研究テーマは、虐待問題、ホームレスの実態、社会福祉基礎構造改革と地域福祉、日米比較による社会福祉(専門職)大学院におけるソーシャルワークと経営学の統合、などが実施されてきた。

平成25年度から新たな研究をスタートさせるにあたり、淑徳大学が平成27年度に創立50周年を迎えることから、これまでの淑徳大学の教育を振りかえることを目的に、卒業生を対象として、「卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識」のテーマでアンケート調査を実施した。

社会福祉研究所ならびにこの調査に関わった関係者一同は、この調査結果が淑徳大学と卒業生をつなぎ、卒業生と淑徳大学の今後ますますの発展に寄与できることを祈念している。

II. アンケート調査の概要

1. アンケート調査の目的と背景

社会福祉研究所では、およそ3年周期で運営委員会で検討されたテーマについて、運営委員による研究が実施されてきた。この度、平成27年度に開学50周年を迎えるにあたって、開学後の50年間に輩出した卒業生は大学での学びをどのように生かして人生を構築しているかについて実態を明らかにすることについて検討された。この観点からの調査が有意義であると運営委員会で決

議されたことから、卒業生を対象としてアンケート調査を実施することが決定された。卒業生を対象としたアンケート調査は必要とされながらも、これまで大学内の機関・部門によって実施されていなかった。

そこで、卒業生を対象に、大学での学びが卒業後の人生にどのように生かされているかについて、1. 大学で取得した免許と職業生活の実態、2. 仕事への意識、3. 人生における価値への認識（人生観）、4. 母校への帰属意識、5. 同窓会活動への参加状況などについてのアンケート調査用紙を作成した。特に人生観および人生における価値の意識では、在学中に学んだ学祖長谷川良信先生の理念や思想がどのように意識されているかという点に着目した。

作成した調査用紙は、同窓会の協力を得て卒業生に発送した。その対象の選考、発送数などについては調査方法のところで詳細に述べるが、社会福祉学部・社会学部・総合福祉学部の卒業生の内、卒期奇数年の卒業生を対象とし、無記名での回答を依頼した。

2. アンケート調査用紙の構成（添付調査用紙参照）

2-1 調査設問一覧

調査設問は、問1～問17で構成された。

- 問1 あなたの性別
- 問2 あなたの年齢は
- 問3 あなたの卒業年
- 問4 あなたの卒業月
- 問5 あなたの卒業された学部と学科
- 問6 現在お住まいの都道府県
- 問7 淑徳大学同窓会の地方支部活動への参加の有無
- 問8 同窓会支部活動参加者の所属支部の都道府県名
- 問9 現在の就業の有無
- 問10 あなたの大学卒業後から現在に至るまでの職歴について
- 問11 大学在学中、あるいは大学卒業後に取得した免許・資格
- 問12 現在の仕事について感じていること
- 問13 人生観について：あなたが生きていく上での意識について
- 問14 人生において重要だと考えることへの認識
- 問15 母校である淑徳大学を誇りに思うこと
- 問16 卒業生として、現在の淑徳大学への要望
- 問17 卒業生としてご自身のご経験、社会的立場や専門性を生かして淑徳大学に協力できること

2-2 調査項目の選定

2-2-1 問1～問9までは基本的属性に関する項目である。内容は、性別、年齢、卒業年、

卒業月、卒業学部と学科、現在の居住都道府県名、淑徳大学同窓会の地方支部活動への参加の有無、同窓会支部活動参加者の所属支部の都道府県名、現在の就業の有無であった。これらの項目によって、回答者の基本情報を得ることを目的とした。

2-2-2 問10 回答者の卒業時の進路と現在に至るまでの職歴

卒業時の就職先については、キャリア支援室の協力を得て、これまでの淑徳大学の卒業生が就職した就職先のリストの提供を得た。それらを7つのカテゴリーにまとめ、加えて、「その他」、「大学院進学」、「就職も進学もしなかった」の10項目とした。

職種についても同様にキャリア支援室の協力を得て、現在把握できている卒業生の職種（含む専業主婦）の16種類と、「その他」を加えて17項目とした。

雇用形態についても同様に、キャリア支援室の協力を得て、8種類と「その他」を加えて9項目とした。

転職については、その理由として内閣府による平成24年版「子ども・若者白書：特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援の現状と課題」および厚生労働省、「平成23年第7回『中高年者の生活に関する継続調査票』」、および平成25年 厚生労働省「12回21世紀成年者縦断調査【平成14年成年者】」の調査項目を参考にして淑徳大学の卒業生が可能であると考えられる13項目を選定し、「その他」を加えて14項目とした。

2-2-3 問11 在学中、あるいは卒業後に取得した免許・資格

在学中に取得した免許・資格は、まず、淑徳大学において養成課程があった免許・資格を選定した。卒業後に取得した免許・資格は、就職先などから取得が可能と考えられた資格を選定して加えた。以上の結果、19資格・免許を選択肢として記述した。多くの者が履歴書に免許として記入する「運転免許」は、回答において混乱がない様に20番目に加えた。その他として、我々が事前に想定していない資格・免許が自由に記述できるように空欄を2カ所設けた。

2-2-4 問12 現在の仕事について感じていること

項目の選定において、学祖の思想・理念や在学中の教育がどのように意識されているかの実態を明らかにすることが目的とされた。学祖の思想・理念については、「ツウギャザーウイズヒムー長谷川良信の生涯」（長谷川、1992）および「シリーズ 福祉に生きる 24 長谷川良信」（長谷川、2005）を参考に学祖の思想・理念と考えられる記述を抜き出し、重複を整理した。それらの内容について長谷川良信先生の研究者として第一人者であり、両書の著者である長谷川匡俊理事長にインタビュー方式によって思想・理念となる項目について助言を受けた。それらの項目は、問12「仕事について感じていること」のみならず、問13「人生観について」および問14「人生において重要だと考えること」における項目選定にも使用された。

問12「現在の仕事について感じていること」の項目としては、淑徳大学在学中の学びが仕事に生かされていると意識しているかどうかに関する項目として、項目1「大学で学んだ理論が仕事に活かされている」、項目2「実習・演習で学んだことが仕事に活かされている」、項目3「『実

学』の精神が仕事に従事する中で生きている」、項目4「『共生』の理念が仕事に従事する中で生きている」、項目5「ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている」の5項目を選定した。

また、学祖の思想・理念に関しては、項目12「『他者とともに生きる』ことを意識して仕事をしている」、項目13「仕事をする上で、周りの人に支えられていると思う」、項目14「仕事をするときは常に相手のことを考えている」の3項目を選定した。

それに加えて、内閣府による平成24年版「子ども・若者白書：特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援の現状と課題」および厚生労働省、平成23年「第7回 中高年者の生活に関する継続調査票」、および「第12回21世紀青年縦断調査【平成14年成年者】国民の生活に関する継続調査〔女性票〕〔男性票〕平成25年11月6日調査」を参考に、項目6「現在の仕事は自分に向いている」、項目7「自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である」、項目8「職場の人間関係は良い」、項目9「賃金・収入は自分の仕事に見合っている」、項目10「就業時間・休日等の労働条件には満足している」、項目11「自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている」、の6項目を選定した。また独自に運営委員会での検討の結果、項目15「大学時代の仲間との繋がりが仕事に役立っている」、項目16「自分は人（社会）の役に立っている」、項目17「現在の仕事を長く続けたい」の3項目を加えた。

その結果、問12「仕事について感じていること」の調査項目は、合計17項目となった。

2-2-5 問13 人生観について：あなたが生きていく上での意識について

問13「人生観について」は、学祖の思想・理念と考えられる項目として、項目6「社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う」、項目7「社会制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う」、項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」、項目9「与えられた命に感謝して生きる気持ちが強い方だと思う」、項目10「社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちが強い方だと思う」、項目11「人間の本性は、本質的に『善』なる心性をもつと思う」の合計6項目を選定した。

それに加えて、平成25年 内閣府「社会意識に関する世論調査」（内閣府、2013）から項目1～5までの5項目を選定した。また、運営委員会での検討によって項目12～項目15までの4項目が加えられた。その内容は、項目12「自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う」、項目13「自分は生かされていると感じて生きる気持ちが強い方だと思う」、項目14「どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う」、項目15「他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う」であった。その結果、「人生観については」合計15項目で構成された。

2-2-6 問14 人生において重要だと考えることについて

問14「人生において重要だと考えること」については、学祖の思想・理念と考えられる項目として、項目13「一人ひとりが、自己実現を果たすことができるような社会づくりに貢献するこ

と」、項目14「全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること」、項目15「利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること」、の3項目を選定した。また大学への帰属意識として運営委員会で検討した結果、項目16「母校である淑徳大学を愛する気持ちをもって生きること」、項目17「淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること」、項目18「淑徳大学の卒業生としての連携やつながりを持ちつづけること」、項目19「淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識をもつこと」の4項目を選定した。

それらに加えて、内閣府による平成24年版「子ども・若者白書」[特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援の現状と課題]および厚生労働省、平成23年第7回「中高年者の生活に関する継続調査票」、および「第12回21世紀青年縦断調査【平成14年成年者】国民の生活に関する継続調査〔女性票〕〔男性票〕平成25年11月6日調査」を参考に、項目1～項目12までの12項目を加えた。その内容は、項目1「お金持ちになること」、項目2「自由にのんびりと暮らすこと」、項目3「世界で活躍すること」、項目4「多くの人に役に立つこと」、項目5「有名になること」、項目6「結婚して家庭をもつこと」、項目7「子どもを育てること」、項目8「親や家族を大切にすること」、項目9「健康であること」、項目10「常に学び続けること」、項目11「自分が専門としている領域で、有用な仕事をする事」、項目12「社会人として、同僚から高い評価を得られる人間であること」、であった。その結果、「人生において重要だと考えること」は、合計19項目で構成された。

2-2-7 問15 母校である淑徳大学を誇りに思うこと

問15「母校である淑徳大学を誇りに思うこと」については、淑徳大学の社会的評価として認識されている「福祉系大学としての歴史と伝統」を筆頭項目として、その他、大学の教学における目的、施設・設備、大学の将来性、大学への帰属意識の強さ、などについて、運営委員会で検討して10項目を設定した。

2-2-8 問16 卒業生として、現在の淑徳大学への要望

問16「卒業生として、現在の淑徳大学への要望」について自由記述で回答を求めた。大学卒業後、様々な機会に淑徳大学の卒業生であることを自覚する機会があり、卒業生として大学へ伝えたい意見、思いなどがあつたと考えられる。今回のアンケートへの回答として、これまでの大学への思いや意見を要望として伝えていただく機会とした。回答方法は、自由に忌憚のない意見を頂くために、自由記述での回答を求めた。

2-2-9 問17 卒業生として、ご自身のご経験、社会的立場や専門性を生かして、淑徳大学に協力いただけることがありますか。

問17「卒業生として大学へ協力できること」について、協力して頂ける領域として（1）講演会・講義などの講師、（2）「実習・インターンシップの場の提供」、（3）「後輩の採用」、（4）「卒業生のネットサークルづくり」の4つを設定して、先ず「はい」と「いいえ」で可能性について回答を求め、続いてその具体的内容について自由記述での回答を求めた。

3. 調査対象

この調査の実施において、同窓会の全面的なご協力をえて卒業生へのアンケートの発送が可能となった。

淑徳大学では、昭和44年（1969年）3月に社会福祉学部第1期卒業生を送り出してから、社会学部を経て現・総合福祉学部へ学部名改変を行った。その間、平成25年3月の第45卒期に至るまで、延21,583名の卒業生を輩出した。このうち、同窓会で連絡先を把握し郵便物を届けることが可能であったのは15,560名であった（平成25年12月5日現在）。

その中で、調査対象としたのは、社会福祉学部、社会学部、総合福祉学部の卒業生のうちで、昭和44年卒業：第1期生から平成25年卒業：第45期生までの、卒期が奇数年の7,778名の方々がであった。そのうち124名が宛所不明で返送されたことから実質対象数は7,654名であった。詳細な内訳は表Ⅱ-3-1のとおりであった。

学科別の人数は、社会福祉学科 延べ23期分で6,158名（内、有効数6,060名）、社会学科・人間社会学科（以下、社会学科）延べ9期分で968名（内有効数953名）、心理学科・実践心理学科（以下、心理学科）延べ5期分で652名（内有効数641名）であった。

表Ⅱ-3-1 アンケート調査対象者 学科・年度別 送付内訳

卒業年	卒業年度	卒期	社会福祉学科			社会学科			人間社会学科			心理学科			実践心理学科		
			送付	返送	実質数	送付	返送	実質数	送付	返送	実質数	送付	返送	実質数	送付	返送	実質数
昭和44年卒	43	1	48	0	48												
昭和46年卒	45	3	157	1	156												
昭和48年卒	47	5	160	3	157												
昭和50年卒	49	7	140	3	137												
昭和52年卒	51	9	201	3	198												
昭和54年卒	53	11	304	4	300												
昭和56年卒	55	13	280	6	274												
昭和58年卒	57	15	258	7	251												
昭和60年卒	59	17	294	9	285												
昭和62年卒	61	19	247	7	240												
平成元年卒	63	21	241	3	238												
平成3年卒	2	23	306	3	303												
平成5年卒	4	25	281	5	276												
平成7年卒	6	27	289	2	287												
平成9年卒	8	29	288	4	284	88	1	87									
平成11年卒	10	31	294	6	288	111	1	110									
平成13年卒	12	33	364	6	358	129	2	127									
平成15年卒	14	35	409	3	406	112	1	111									
平成17年卒	16	37	324	7	317	129	3	126				109	1	108			
平成19年卒	18	39	316	3	313				120	0	120				123	4	119
平成21年卒	20	41	323	2	321				138	3	135				147	0	147
平成23年卒	22	43	325	10	315				92	4	88				130	4	126
平成25年卒	24	45	309	1	308				49	0	49				143	2	141
計			6,158	98	6,060	569	8	561	399	7	392	109	1	108	543	10	533
全発送数			6,158						968						652		7,778
全返送数				98					15						11		124
実質発送数					6,060						953					641	7,654

4. 調査方法・実施時期

4-1 調査実施スケジュール

調査実施のスケジュールは、表Ⅱ-4-1の通りであった。

表Ⅱ-4-1 調査実施スケジュール

年 月	実 施 内 容
平成25年4月～12月	○研究計画・研究テーマ・調査内容、項目の選択について検討
平成26年1月～	○調査用紙印刷
平成26年3月末日	○調査用紙配布
平成26年4月～5月	○調査用紙回収
平成26年6月～9月	○調査用紙整理
平成26年10月～12月	○データ入力
平成27年1月～3月	○集計作業
平成27年4月～6月	○報告書原稿作成
平成27年7月～8月	○報告書印刷
平成27年9月	○報告書完成

4-2 アンケート調査用紙の発送

運営委員会で協議を重ねて完成したアンケート調査用紙は、平成26年3月末日に、対象者7,778名に返信用封筒を同封してクロネコメール便にて配送された。その際、アンケート用紙は、アドミッション・オフィスの協力を得て、淑徳大学のロゴマークの付いたクリアーシートに入れた。クリアーシートは、調査協力への感謝を込めた記念品とした。

4-3 アンケート調査用紙の回収

アンケートへの回答は、平成26年4月1日現在を基準として回答していただくことを依頼し、返送期限は平成26年5月31日までとした。

5. 集計方法とデータの見方・読み方

5-1 受付整理

返送された調査用紙は、通し番号をつけて整理した。調査用紙に付与された一連番号にそって電磁気録として入力を専門業者に依頼した。入力の段階で、我々が示した基準に従って判断の上、無効の調査用紙は除外した。

5-2 データ入力

5-2-1 有効回答票のデータを電磁的記録として入力する。自由記述部分は別途、電磁的記録として入力することを依頼した。

5-3 集計

発注者の指示した区分に従い、修正作業を終えたデータにつき、調査用紙の全項目について集計表を作成した。集計表はエクセル形式のファイルとアウトプットの両方で作成することを依頼した。

6. 図表作成の基本方針

6-1 基本変数は、総ての項目（27項目）について頻度を算出し、表図を作成する。

6-2 クロス集計変数は、問1性別、問3卒業年別、問5-1学部別、問5-2学科別の4変数とする。問1性別、問3卒業年別、問5-1学部別、問5-2学科別の結果は設問毎に結果を示した。基本集計およびクロス集計結果は、項目毎の有効回答のみを母数とした。

7. 倫理的配慮

調査にあたっては、個人情報の提供に際して同窓会の名簿管理方針に従い、個人情報は厳正に管理した。また、回答は無記名であったが、分析にあたっては必要に応じて個人が特定できないようにして集計したデータをもとに作業を進め報告書を作成した。

Ⅲ. 調査結果

Ⅲ-1 回答者の基本的属性の概要

Ⅲ-1-1 回答率

有効発送数7,654通について、総返送数は1,202通であった。回答率は15.7%であった。卒期別の発送数と回答率、学科別の発送数と回答率は表Ⅲ-1-1の通りであった。最も回答率が高

表Ⅲ-1-1 卒業年・学科・卒業年グループ別 回収率内訳

卒業年	卒業年度	卒期	全 体			社会福祉学科			社会学科			心理学科			卒業年グループ別			
			発送	返送	回収率%	発送	返送	回収率%	発送	返送	回収率%	発送	返送	回収率%	社会福祉学科	社会学科	心理学科	合計
昭和44年卒	43	1	48	14	29.2	48	14	29.2							送付：696	0	0	送付：696
昭和46年卒	45	3	156	47	30.1	156	47	30.1							返送：172			返送：172
昭和48年卒	47	5	157	43	27.4	157	43	27.4							率：24.7%			率：24.7%
昭和50年卒	49	7	137	40	29.2	137	40	29.2										
昭和52年卒	51	9	198	28	14.1	198	28	14.1										
昭和54年卒	53	11	300	62	20.7	300	62	20.7							送付：1,110	0	0	送付：1,110
昭和56年卒	55	13	274	56	20.4	274	56	20.4							返送：238			返送：238
昭和58年卒	57	15	251	61	24.3	251	61	24.3							率：21.4%			率：21.4%
昭和60年卒	59	17	285	59	20.7	285	59	20.7										
昭和62年卒	61	19	240	54	22.5	240	54	22.5							送付：1,344	0	0	送付：1,344
平成元年卒	63	21	238	57	23.9	238	57	23.9							返送：254			返送：254
平成3年卒	2	23	303	53	17.5	303	53	17.5							率：18.9%			率：18.9%
平成5年卒	4	25	276	42	15.2	276	42	15.2										
平成7年卒	6	27	287	48	16.7	287	48	16.7										
平成9年卒	8	29	371	53	14.3	284	36	12.7	87	17	19.5				送付：1,336	435	0	送付：1,771
平成11年卒	10	31	398	63	15.8	288	54	18.8	110	9	8.2				返送：191			返送：242
平成13年卒	12	33	485	67	13.8	358	54	15.1	127	13	10.2				率：14.3%			率：13.7%
平成15年卒	14	35	517	59	11.4	406	47	11.6	111	12	10.8				11.7%			
平成17年卒	16	37	551	71	12.9	317	44	13.9	126	15	11.9	108	12	11.1	送付：1,574			送付：2,733
平成19年卒	18	39	552	48	8.7	313	36	11.5	120	9	7.5	119	3	2.5	返送：173	518	61	返送：286
平成21年卒	20	41	603	55	9.1	321	34	10.6	135	9	6.7	147	12	8.2	率：11.0%			率：10.5%
平成23年卒	22	43	529	53	10.0	315	24	7.6	88	15	17.0	126	14	11.1				
平成25年卒	24	45	498	59	11.8	308	35	11.4	49	4	8.2	141	20	14.2				
未記入			未記入	10	0.1	未記入	9	0.9	未記入	0	0	未記入	1	0.2				
全 体			7,654	1,202	15.7	6,060	1,037	17.1	953	103	10.8	641	62	9.7				

かったのは卒期 3 期の 30.1% で、それに続いて卒期 1 期と卒期 7 期が 29.2% と 3 割近い回答率であった。全体として卒期 1 期から 45 期と進むに従って回答率が低下する傾向であった。

学科別の検討では、社会福祉学科 1,037 通 (17.1%)、社会学科・人間社会学科 (以下、社会学科) 103 通 (10.8%)、心理学科・実践心理学科 (以下、心理学科) 62 通 (9.7%) であった。社会福祉学科が最も高い回答率を示し、社会学科、心理学科と続いた。

以下の報告においては、設問ごとに回答者数が異なるのは、設問毎の有効回答数を対象にして集計・分析したことによる。

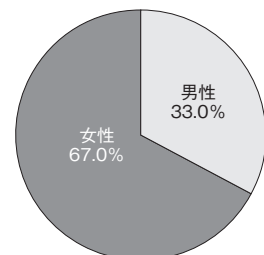
Ⅳ. 質問項目別調査結果

問 1 回答者の性別人数

回答者の性別人数は、図表 1 - 1 に示した通り、「女性」は 804 人 (67.0%)、「男性」は 396 人 (33.0%) であった。卒業期別の性別人数が明らかになっていないので発送数に対する性別回答率を検討することはできないが、女性の回答率が男性の 2 倍であった。

図表 1 - 1 回答者の性別人数

問 1. 性 別	件 数	比 率
男 性	396	33.0%
女 性	804	67.0%
合 計	1,200	100.0%



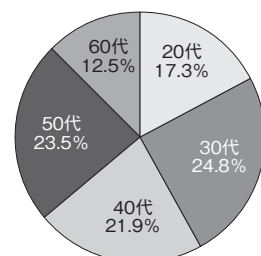
問 2 回答者の年齢構成 (平成 26 年 4 月 1 日現在の満年齢)

問 2 - 1 回答者の年齢別人数

回答者の年齢については、図表 2 - 1 に示したとおり、「30 代」が 297 人 (24.8%) で最も回答数が多く、2 番目に多いのは「50 代」が 282 人 (23.5%) で、それに続いて 3 番目は、「40 代」が 263 人 (21.9%) であった。

図表 2 - 1 回答者の満年齢 (平成 25 年 4 月 1 日現在)

問 2. 年齢 (4 月 1 日現在の満年齢)	件 数	比 率
20 代	208	17.3%
30 代	297	24.8%
40 代	263	21.9%
50 代	282	23.5%
60 代以上	150	12.5%
合 計	1,200	100.0%



問２－２ 回答者の「年齢別性別」人数

回答者の年齢別性別人数は、表２－２に示した通りであった。性別人数を多かった順にみると、女性では30代（28.6%）、50代（20.9%）、40代（20.6%）の順で、男性では50代（28.8%）、40代（24.5%）、30代（16.9%）と続いた。

表２－２ 年齢別性別人数

問２. 年齢（４月１日現在の満年齢）		男 性	女 性	合 計
20代	件 数	51	155	206
	比 率	12.9%	19.3%	17.2%
30代	件 数	67	230	297
	比 率	16.9%	28.6%	24.8%
40代	件 数	97	166	263
	比 率	24.5%	20.6%	21.9%
50代	件 数	114	168	282
	比 率	28.8%	20.9%	23.5%
60代以上	件 数	67	85	152
	比 率	16.9%	10.6%	12.7%
合 計	件 数	396	804	1,200
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問３ 回答者の卒業年別（卒期別）人数

卒業年別の人数は、卒期を基準にしておよそ10年毎にコード化した。その区分は、卒期１期生～卒期９期生、卒期11期生～卒期17期生、卒期19期生～卒期27期生、卒期29期生～卒期35期生、卒期37期生～卒期45期生までとした。

表３－１ 卒業年別（卒期別）人数

卒 業 区 分	件 数	比 率
卒期１期生～卒期９期生	172	14.4%
卒期11期生～卒期17期生	238	20.0%
卒期19期生～卒期27期生	254	21.3%
卒期29期生～卒期35期生	242	20.3%
卒期37期生～卒期45期生	286	24.0%
合 計	1,192	100.0%

（無記入数10）

結果は、表３－１に示した通り、「卒期37期生～卒期45期生」が286人（24.0%）で最も回答が多く、続いて、「卒期19期生～卒期27期生」が254人（21.3%）で、そして「卒期29期生～卒期35期生」が242人（20.3%）で３番目であった。

これは全体の回答数に対する割合であったが、発送数を勘案した回答率で検討してみると、表Ⅲ－１－１で示したとおり初期の卒期ほど高い回答率で、卒期１期生～卒期９期生から順にみていくと24.7%から21.4%、18.9%、13.7%と卒期が下がるに従って順次減少して、直近の卒期を含む卒期37期生～卒期45期生が最も低く10.5%であった。

問４ 回答者の卒業月別人数

「卒業月」については、表４－１に示した通りであった。回答があった中で「３月」は1,172人（99.9%）、「９月」は１人（0.1%）であった。

表４－１ 卒業月別人数

問４. 卒業月	件 数	比 率
３月	1,172	99.9%
９月	1	0.1%
合 計	1,173	100.0%

問5 回答者の卒業した学部と学科別人数

問5-1 回答者の卒業した学部別人数

「学部」については、表5-1に示した通り「社会福祉学部」が785人（65.5%）で最も回答が多く、続いて「社会学部」が270人（22.5%）で多く、そして、「総合福祉学部」が143人（11.9%）であっ

た。学部別の発送数は明らかではないが卒期から推察して算出すると社会福祉学部発送数3,150通、回答率24.9%、社会学部発送数2,874通、回答率9.4%、総合福祉学部発送数1,630通、回答率10.5%となった。回答率からみても社会福祉学部が最も高かった。

表5-1 学部別回答者数

問5-1. 学部	件数	比率
社会福祉学部	785	65.5%
社会学部	270	22.5%
総合福祉学部	143	11.9%
合計	1,198	100.0%

問5-2 回答者の学科別人数

学科別人数については、表5-2に示したとおり、「社会福祉学科」が1,028人（85.8%）で、続いて「社会学科・人間社会学科」が106人（8.8%）で多く、そして、「心理学科・実践心理学科」が64人（5.3%）であった。

表5-2 学科別回答者数

問5-2. 学科	件数	比率
社会福祉学科	1,028	85.8%
社会学科・人間社会学科	106	8.8%
心理学科・実践心理学科	64	5.3%
合計	1,198	100.0%

これらを調査対象者との比率から回答率をみると、社会福祉学科：送付数6,060人、回答数1,028人、回答率17.0%、社会学科・人間社会学科：送付数953人、回答数106人、回答率11.1%、心理学科・実践心理学科：送付数641人、回答数64人、回答率10.0%であった。いずれも10%台であったが、社会福祉学科が最も高かった。

問6 回答者の現住所（居住都道府県）

問6-1 現住所（居住都道府県）

回答者の現住所（居住都道府県）については、表6-1に示したとおり、和歌山県を除いた46都道府県にわたって居住しており、海外に居住している者は2名であった。居住者が多い順では、「千葉県」が441人（36.7%）で最も回答が多く、続いて「東京都」が169人（14.1%）で多く、そして、「埼玉県」が114人（9.5%）と続いた。海外は、マレーシアとインドネシアであった。

問6-2 回答者の現住所地域

現住所を地域別に見ると、表6-2のとおり、「関東地方」が892人（74.3%）で最も回答が多く、続いて「中部地方」が163人（13.6%）で多く、そして、「北海道・東北地方」が65人（5.4%）であった。

表 6-1 回答者の現住所（居住都道府県）

現住所都道府県	件数	比率	現住所都道府県	件数	比率
北海道	9	0.7%	京都府	1	0.10%
青森県	6	0.5%	大阪府	6	0.5%
岩手県	13	1.1%	兵庫県	5	0.4%
宮城県	9	0.7%	奈良県	2	0.2%
秋田県	3	0.2%	和歌山県	0	0.0%
山形県	7	0.6%	鳥取県	2	0.2%
福島県	18	1.5%	島根県	3	0.2%
茨城県	38	3.2%	岡山県	1	0.1%
栃木県	31	2.6%	広島県	4	0.3%
群馬県	19	1.6%	山口県	5	0.4%
埼玉県	114	9.5%	徳島県	3	0.2%
千葉県	441	36.7%	香川県	2	0.2%
東京都	169	14.1%	愛媛県	3	0.2%
神奈川県	80	6.7%	高知県	4	0.3%
新潟県	51	4.2%	福岡県	9	0.7%
富山県	12	1.0%	佐賀県	1	0.1%
石川県	8	0.7%	長崎県	2	0.2%
福井県	4	0.3%	熊本県	3	0.2%
山梨県	18	1.5%	大分県	4	0.3%
長野県	25	2.1%	宮崎県	9	0.7%
岐阜県	3	0.2%	鹿児島県	2	0.2%
静岡県	37	3.1%	沖縄県	1	0.1%
愛知県	5	0.4%	海外	2	0.2%
三重県	5	0.4%			
滋賀県	2	0.2%	合計	1,201	100.0%

表 6-2 回答者の現住所地域〔単位：人〕

問 6. 現住所地域	件数	比率
北海道・東北地方	65	5.4%
関東地方	892	74.3%
中部地方	163	13.6%
近畿地方	21	1.7%
中国・四国地方	27	2.2%
九州地方	31	2.6%
海外	2	0.2%
合 計	1,201	100.0%

問 7 回答者の淑徳大学同窓会の支部活動への参加状況

「淑徳大学同窓会の地方支部活動への参加」については、表 7-1 に示した通り、「いいえ」は 1,113 人（92.7%）、「はい」は 88 人（7.3%）で同窓会の地方支部活動に参加している回答者は 1 割にも満たない状況であった。

表 7-1 回答者の同窓会支部活動への参加状況

問 7. 淑徳大学同窓会の地方支部活動への参加	件数	比率
はい	88	7.3%
いいえ	1,113	92.7%
合 計	1,201	100.0%

問 8 回答者の所属する同窓会地方支部名とその人数

問 8－1 所属する同窓会地方支部名とその人数

同窓会の地方支部に所属していると回答したのは103名でその都道県名は19都道県にわたっており、その内訳は表 8－1 に示した通りで、「神奈川県」、「千葉県」が12人（11.7％）で最も回答が多く、続いて「栃木県」が8人（7.8％）で多く、そして、「新潟県」、「北海道」が7人（6.8％）であった。

問 8－2 所属する同窓会地方支部の地域とその人数

所属する大学同窓会の地方支部の地域については、表 8－2 に示した通り、近畿地方と海外を除いた5地域の103名であった。多い順にみても、「関東地方」が44人（42.7％）で最も回答が多く、続いて「北海道・東北地方」が32人（31.1％）で多く、そして、「中部地方」が23人（22.3％）であった。

表 8－1 回答者の所属する同窓会地方支部名とその人数

現住所都道府県	件 数	比 率	現住所都道府県	件 数	比 率
北海道	7	6.8%	京都府	0	0.0%
青森県	4	3.9%	大阪府	0	0.0%
岩手県	5	4.9%	兵庫県	0	0.0%
宮城県	5	4.9%	奈良県	0	0.0%
秋田県	0	0.0%	和歌山県	0	0.0%
山形県	6	5.8%	鳥取県	0	0.0%
福島県	5	4.9%	島根県	0	0.0%
茨城県	6	5.8%	岡山県	0	0.0%
栃木県	8	7.8%	広島県	0	0.0%
群馬県	4	3.9%	山口県	0	0.0%
埼玉県	0	0.0%	徳島県	0	0.0%
千葉県	12	11.7%	香川県	0	0.0%
東京都	2	1.9%	愛媛県	2	1.9%
神奈川県	12	11.7%	高知県	1	1.0%
新潟県	7	6.8%	福岡県	0	0.0%
富山県	0	0.0%	佐賀県	0	0.0%
石川県	0	0.0%	長崎県	1	1.0%
福井県	0	0.0%	熊本県	0	0.0%
山梨県	5	4.9%	大分県	0	0.0%
長野県	5	4.9%	宮崎県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	鹿児島県	0	0.0%
静岡県	6	5.8%	沖縄県	0	0.0%
愛知県	0	0.0%	海外	0	0.0%
三重県	0	0.0%			
滋賀県	0	0.0%	合 計	103	100.0%

表 8－2 回答者が所属する同窓会の地方支部の地域とその人数

問 8. 所属する大学同窓会の地方支部の地域	件 数	比 率
北海道・東北地方	32	31.1%
関東地方	44	42.7%
中部地方	23	22.3%
近畿地方	0	0.0%
中国・四国地方	3	2.9%
九州地方	1	1.0%
海外	0	0.0%
合 計	103	100.0%

問9 回答者の現在の就職の有無

問9-1 回答者の就職の有無

就職の有無については、表9-1に示したとおり「はい」は956人（80.3%）、「いいえ」は234人（19.7%）であった。

表9-1 回答者の現在の就職の有無

問9. 就職の有無	件数	比率
はい	956	80.3%
いいえ	234	19.7%
合計	1,190	100.0%

問9-2 回答者の性別の就職の有無

回答者の性別の就職の有無は、表9-2に示した通りであった。男性の89.1%は就職しており、女性は75.9%が就職していた。

表9-2 回答者の性別による就職の有無

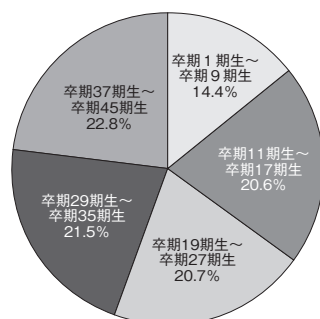
問9. 就職の有無	男性	女性
はい	件数 351	603
	比率 89.1%	75.9%
いいえ	件数 43	191
	比率 10.9%	24.1%
合計	件数 394	794
	比率 100.0%	100.0%

問9-3 回答者の卒業年別（卒期別）の就職の有無

卒業年（卒期別）の就職の有無は、図表9-3に示した通りであった。全体平均が80.5%であったが、卒期1期生～卒期9期生までが49.1%と低くなっていたが、その他は80%以上で、卒期37期生～卒期45期生が88.5%と最も高くなっていた。卒期1期生～卒期9期生までの就職割合が低いのは定年を迎える年齢を含むことによると考えられる。

図表9-3 卒業年別（卒期別）の就職の有無

問9. 就職の有無		卒期1期生～ 卒期9期生	卒期11期生～ 卒期17期生	卒期19期生～ 卒期27期生	卒期29期生～ 卒期35期生	卒期37期生～ 卒期45期生	合計
はい	件数	83	212	213	203	239	950
	比率	49.1%	86.9%	87.3%	80.2%	88.5%	80.5%
いいえ	件数	86	32	31	50	31	230
	比率	50.9%	13.1%	12.7%	19.8%	11.5%	19.5%
合計	件数	169	244	244	253	270	1,180
	比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問10 回答者の卒業時の進路と現在に至るまでの職歴

目 次

- 問10-1 選択肢の選定
- 問10-2 結果の概要
- 問10-3 大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態
- 問10-4 1回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由
- 問10-5 2回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由
- 問10-6 3回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由
- 問10-7 4回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由
- 問10-8 性別による結果
- 問10-9 卒業年別による結果
- 問10-10 学部別による結果
- 問10-11 学科別による結果

問10-1 選択肢の選定

問10-1 「職歴について：あなたが大学卒業後から現在に至るまでの職歴について」の項目の選定
(表10-1参照)

「職歴について」は、大学卒業時の進路から現在の仕事を含めた4回目までの転職（就労期間の長いもの）について、就職（進学）先10項目、職種17項目、雇用形態9項目、就労期間（コード記入）、転職（退職理由）14項目の回答項目が設定された。

「就職（進学）先」の回答項目は、①一般企業・団体 ②福祉系企業 ③福祉施設・団体 ④医療関係法人 ⑤国・地方公共団体 ⑥学校（幼稚園・大学を含む） ⑦自営業 ⑧その他（就職） ⑨大学院（進学） ⑩就職・進学をしなかったとした10項目を設定した。

「職種」の回答項目は、①事務系 ②営業・販売系 ③接客・サービス系 ④技術系 ⑤専門職系 ⑥農林漁業 ⑦公務員 ⑧議員 ⑨教育関係 ⑩医療関係 ⑪福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等） ⑫介護関係 ⑬指導員 ⑭セラピスト ⑮自営業・自由業 ⑯専業主婦（主夫）・家事手伝い ⑰その他（進学は斜線）とした17項目を設定した。

「雇用形態」の回答項目は、①経営者 ②会社・団体等の役員（管理職） ③正規の職員・従業員 ④派遣社員 ⑤契約社員・非常勤職員 ⑥パート・アルバイト ⑦嘱託職員 ⑧自営業の手伝い ⑨その他（進学は斜線）とした9項目を設定した。

「転職（退職）理由」の回答項目は、①定年のため ②倒産・解雇・希望退職・契約期間満了 ③病気や怪我の療養のため ④家族の介護・看護のため ⑤子・孫の育児のため ⑥人間関係がうまくいかなかったため ⑦より高い賃金・収入を得るため ⑧就業時間・休日等の労働条件改

善のため ⑨視野を広げる（経験を広げる）ため ⑩やりがいのある仕事に就くため ⑪能力を発揮できる仕事に就くため ⑫大学で取得した免許・資格を活かすため ⑬卒業後取得した免許・資格を活かすため ⑭その他とした14項目を設定した。

大学卒業時の進路から現在の仕事を含めた4回目までの転職（就労期間の長いもの）における各質問項目について当てはまる番号を記号で記入してもらい、就労期間については入力コードを記入してもらった。以上については表10-1にまとめて示した。

表10-1 「大学卒業後から現在に至るまでの職歴」の項目一覧とカテゴリー

【就職（進学）先】 ①一般企業・団体 ②福祉系企業 ③福祉施設・団体 ④医療関係法人 ⑤国・地方公共団体 ⑥学校（幼稚園・大学を含む） ⑦自営業 ⑧その他（就職） ⑨大学院等（進学） ⑩就職・進学をしなかった	
【職 種】 ①事務系 ②営業・販売系 ③接客・サービス系 ④技術系 ⑤専門職系 ⑥農林漁業 ⑦公務員 ⑧議員 ⑨教育関係 ⑩医療関係 ⑪福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等） ⑫介護関係 ⑬指導員 ⑭セラピスト ⑮自営業・自由業 ⑯専業主婦（主夫）・家事手伝い ⑰その他（進学は斜線）	
【雇用形態】 ①経営者 ②会社・団体等の役員（管理職） ③正規の職員・従業員 ④派遣社員 ⑤契約社員・非常勤職員 ⑥パート・アルバイト ⑦嘱託職員 ⑧自営業の手伝い ⑨その他（進学は斜線）	
【転職（退職）理由】 ①定年のため ⑧就業時間・休日等の労働条件改善のため ②倒産・解雇・希望退職・契約期間満了 ⑨視野を広げる（経験を広げる）ため ③病気や怪我の療養のため ⑩やりがいのある仕事に就くため ④家族の介護・看護のため ⑪能力を発揮できる仕事に就くため ⑤子・孫の育児のため ⑫大学で取得した免許・資格を活かすため ⑥人間関係がうまくいかなかったため ⑬卒業後取得した免許・資格を活かすため ⑦より高い賃金・収入を得るため ⑭その他	

問10-2 結果の概要

卒業生の就職先は、主に福祉施設・団体に就いており、職種では福祉関係や指導員、介護関係、そして事務系に就いている傾向があった。就労期間も1年～3年の期間で転職（退職）をおこなっていた。

学部、学科別にみるとそれぞれによって就職先や職種に違いが生じており学部学科の編成によって卒業生の進路に違いが生じ、福祉という点から離れた進路もあった。

問10-3 大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態

表10-3-1 大学卒業後から現在に至る職歴：就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：就職先		1. 大学卒業時の進路	2. 転職（1回目）	3. 転職（2回目）	4. 転職（3回目）	5. 転職（4回目）
一般企業・団体	件数	236	161	92	51	24
	比率	19.8%	22.2%	21.7%	23.2%	22.4%
福祉系企業	件数	36	24	16	16	5
	比率	3.0%	3.3%	3.8%	7.3%	4.7%
福祉施設・団体	件数	398	239	143	78	41
	比率	33.4%	33.0%	33.7%	35.5%	38.3%
医療関係法人	件数	112	76	46	21	8
	比率	9.4%	10.5%	10.8%	9.5%	7.5%
国・地方公共団体	件数	183	99	48	19	10
	比率	15.4%	13.7%	11.3%	8.6%	9.3%
学校（幼稚園・大学を含む）	件数	126	80	48	14	9
	比率	10.6%	11.0%	11.3%	6.4%	8.4%
自営業	件数	5	16	9	5	6
	比率	0.4%	2.2%	2.1%	2.3%	5.6%
その他（就職）	件数	18	24	16	10	2
	比率	1.5%	3.3%	3.8%	4.5%	1.9%
大学院等（進学）	件数	26	3	3	3	2
	比率	2.2%	0.4%	0.7%	1.4%	1.90%
就職・進学をしなかった	件数	50	3	3	3	0
	比率	4.2%	0.4%	0.7%	1.4%	0.0%
合 計	件数	1,190	725	424	220	107
	比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

大学卒業時の就職先は、福祉施設・団体398名（33.4%）、一般企業・団体236名（19.8%）、国・地方公共団体183名（15.4%）という結果であった。

表10-3-2 大学卒業後から現在に至る職歴：職種（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：職種		1. 大学卒業時の進路	2. 転職（1回目）	3. 転職（2回目）	4. 転職（3回目）	5. 転職（4回目）
事務系	件数	177	123	69	27	14
	比率	15.5%	17.2%	16.4%	12.6%	13.2%
営業・販売系	件数	84	32	18	9	3
	比率	7.4%	4.5%	4.3%	4.2%	2.8%
接客・サービス系	件数	60	48	27	15	5
	比率	5.3%	6.7%	6.4%	7.0%	4.7%
技術系	件数	12	15	8	4	0
	比率	1.1%	2.1%	1.9%	1.9%	0.0%
専門職系	件数	19	30	16	9	11
	比率	1.7%	4.2%	3.8%	4.2%	10.4%
農林漁業	件数	0	2	1	2	0
	比率	0.0%	0.3%	0.2%	0.9%	0.0%
公務員	件数	108	51	19	10	3
	比率	9.5%	7.1%	4.5%	4.7%	2.8%
議員	件数	0	0	0	1	0
	比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
教育関係	件数	108	62	36	12	10
	比率	9.5%	8.7%	8.6%	5.6%	9.4%

表10-3-2 大学卒業後から現在に至る職歴：職種（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：職種		1. 大学卒業時の進路	2. 転職（1回目）	3. 転職（2回目）	4. 転職（3回目）	5. 転職（4回目）
医療関係	件数	14	24	17	7	4
	比率	1.2%	3.4%	4.0%	3.3%	3.8%
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件数	211	140	88	41	28
	比率	18.5%	19.6%	20.9%	19.2%	26.4%
介護関係	件数	126	78	56	46	13
	比率	11.0%	10.9%	13.3%	21.5%	12.3%
指導員	件数	175	82	44	18	9
	比率	15.3%	11.5%	10.5%	8.4%	8.5%
セラピスト	件数	3	4	1	2	2
	比率	0.3%	0.6%	0.2%	0.9%	1.9%
自営業・自由業	件数	2	10	4	1	0
	比率	0.2%	1.4%	1.0%	0.5%	0.0%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件数	12	2	2	3	0
	比率	1.1%	0.3%	0.5%	1.4%	0.0%
その他	件数	12	11	13	6	4
	比率	1.1%	1.5%	3.1%	2.8%	3.8%
進学への回答	件数	19	2	2	1	0
	比率	1.7%	0.3%	0.5%	0.5%	0.0%
合 計	件数	1,142	716	421	214	106
	比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

職種については、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）211名（18.5%）、事務系177名（15.5%）、指導員175名（15.3%）という結果であった。

表10-3-3 大学卒業後から現在に至る職歴：雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：雇用形態		1. 大学卒業時の進路	2. 転職（1回目）	3. 転職（2回目）	4. 転職（3回目）	5. 転職（4回目）
経営者	件数	3	9	10	6	6
	比率	0.3%	1.3%	2.4%	2.8%	5.8%
会社・団体等の役員（管理職）	件数	13	31	26	11	3
	比率	1.1%	4.3%	6.3%	5.1%	2.9%
正規の職員・従業員	件数	953	440	230	101	47
	比率	83.6%	61.5%	55.3%	47.0%	45.2%
派遣社員	件数	6	14	9	10	3
	比率	0.5%	2.0%	2.2%	4.7%	2.9%
契約社員・非常勤職員	件数	81	99	60	41	17
	比率	7.1%	13.8%	14.4%	19.1%	16.3%
パート・アルバイト	件数	40	95	62	36	20
	比率	3.5%	13.3%	14.9%	16.7%	19.2%
嘱託職員	件数	6	14	12	6	7
	比率	0.5%	2.0%	2.9%	2.8%	6.7%
自営業の手伝い	件数	4	4	0	1	0
	比率	0.4%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%
その他	件数	12	7	4	2	0
	比率	1.1%	1.0%	1.0%	0.9%	0.0%
進学への回答	件数	22	2	3	1	1
	比率	1.9%	0.3%	0.7%	0.5%	1.0%
合 計	件数	1,140	715	416	215	104
	比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

雇用形態については、正規の職員・従業員953名（83.6%）、契約社員・非常勤職員81名（7.1%）、パート・アルバイト40名（3.5%）という結果であった。

問10-4 1回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

1回目の転職での就職先は、福祉施設・団体239名（33.0%）、一般企業・団体161名（22.2%）、国・地方公共団体99名（13.7%）という結果であった。

職種については、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）140名（19.6%）、事務系123名（17.2%）、指導員82名（11.5%）という結果であった。

雇用形態については、正規の職員・従業員440名（61.5%）、契約社員・非常勤職員99名（13.8%）、パート・アルバイト95名（13.3%）という結果であった。

表10-4-1 大学卒業後から現在に至る職歴：就労期間

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：就労期間		1. 大学卒業時の進路	2. 転職（1回目）	3. 転職（2回目）	4. 転職（3回目）	5. 転職（4回目）
1年未満	件数	168	85	48	28	8
	比率	19.8%	17.6%	17.9%	22.6%	24.2%
1年～3年	件数	313	186	103	42	14
	比率	36.9%	38.4%	38.4%	33.9%	42.4%
4年～6年	件数	126	83	49	22	6
	比率	14.9%	17.1%	18.3%	17.7%	18.2%
7年～9年	件数	45	31	21	12	2
	比率	5.3%	6.4%	7.8%	9.7%	6.1%
10年～12年	件数	37	19	13	5	0
	比率	4.4%	3.9%	4.9%	4.0%	0.0%
13年以上	件数	159	80	34	15	3
	比率	18.8%	16.5%	12.7%	12.1%	9.1%
合計	件数	848	484	268	124	33
	比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

1回目の転職までの就労期間は、1年～3年186名（38.4%）、1年未満85名（17.6%）、4年～6年83名（17.1%）という結果であった。

表 10-4-2 大学卒業後から現在に至る職歴：転職（退職）理由

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：転職（退職）理由		1. 大学卒業時の進路	2. 転職（1回目）	3. 転職（2回目）	4. 転職（3回目）	5. 転職（4回目）
定年のため	件数	44	12	8	2	1
	比率	5.8%	2.5%	2.9%	1.4%	2.2%
倒産・解雇・希望退職・契約期間満了	件数	112	83	49	21	8
	比率	14.8%	17.0%	17.8%	15.0%	17.4%
病気や怪我の療養のため	件数	37	21	14	6	1
	比率	4.9%	4.3%	5.1%	4.3%	2.2%
家族の介護・看護のため	件数	26	15	9	6	0
	比率	3.4%	3.1%	3.3%	4.3%	0.0%
子・孫の育児のため	件数	58	52	22	6	4
	比率	7.6%	10.7%	8.0%	4.3%	8.7%
人間関係がうまくいかなかったため	件数	21	17	8	6	1
	比率	2.8%	3.5%	2.9%	4.3%	2.2%
より高い賃金・収入を得るため	件数	19	16	18	12	3
	比率	2.5%	3.3%	6.5%	8.6%	6.5%
就業時間・休日等の労働条件改善のため	件数	41	22	14	8	0
	比率	5.4%	4.5%	5.1%	5.7%	0.0%
視野を広げる（経験を広げる）ため	件数	75	35	20	11	2
	比率	9.9%	7.2%	7.3%	7.9%	4.3%
やりがいのある仕事に就くため	件数	54	30	25	14	8
	比率	7.1%	6.1%	9.1%	10.0%	17.4%
能力を発揮できる仕事に就くため	件数	18	40	12	11	5
	比率	2.4%	8.2%	4.4%	7.9%	10.9%
大学で取得した免許・資格を活かすため	件数	27	17	11	4	0
	比率	3.6%	3.5%	4.0%	2.9%	0.0%
卒業後取得した免許・資格を活かすため	件数	8	14	5	7	1
	比率	1.1%	2.9%	1.8%	5.0%	2.2%
その他	件数	219	114	60	26	12
	比率	28.9%	23.4%	21.8%	18.6%	26.1%
合 計	件数	759	488	275	140	46
	比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

1 回目の退職理由としては、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了83名（17.0%）、子・孫の育児のため52名（10.7%）、能力を発揮できる仕事に就くため40名（8.2%）という結果であった。

問10-5 2回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

2 回目の転職での就職先は、福祉施設・団体143名（33.7%）、一般企業・団体92名（21.7%）、国・地方公共団体48名（11.3%）、学校（幼稚園・大学を含む）48名（11.3%）という結果であった。

職種については、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）88名（20.9%）、事務系69名（16.4%）、介護関係56名（13.3%）という結果であった。

雇用形態については、正規の職員・従業員230名（55.3%）、パート・アルバイト62名（14.9%）、契約社員・非常勤職員60名（14.4%）という結果であった。

就労期間は、1年～3年103名（38.4%）、4年～6年49名（18.3%）、1年未満48名（17.9%）、という結果であった。

退職理由としては、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了49名（17.8%）、やりがいのある仕事に就くため25名（9.1%）、子・孫の育児のため22名（8.0%）という結果であった。

問10-6 3回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

3回目の転職での就職先は、福祉施設・団体78名（35.5%）、一般企業・団体51名（23.2%）、国・地方公共団体19名（8.6%）という結果であった。

職種については、介護関係46名（21.5%）、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）41名（19.2%）事務系27名（12.6%）という結果であった。

雇用形態については、正規の職員・従業員101名（47.0%）、契約社員・非常勤職員41名（19.1%）、パート・アルバイト36名（16.7%）という結果であった。

就労期間は、1年～3年42名（33.9%）、1年未満28名（22.6%）、4年～6年22名（17.7%）という結果であった。

退職理由としては、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了21名（15.0%）、やりがいのある仕事に就くため14名（10.0%）、より高い賃金・収入を得るため12名（8.6%）という結果であった。

問10-7 4回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

4回目の転職での就職先は、福祉施設・団体41名（38.3%）、一般企業・団体24名（22.4%）、国・地方公共団体10名（9.3%）、医療関係法人8名（7.5%）という結果であった。

職種については、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）28名（26.4%）、事務系14名（13.2%）、介護関係13名（12.3%）という結果であった。

雇用形態については、正規の職員・従業員47名（45.2%）、パート・アルバイト20名（19.2%）、契約社員・非常勤職員17名（16.3%）、という結果であった。

就労期間は、1年～3年14名（42.4%）、1年未満8名（24.2%）、4年～6年6名（18.2%）という結果であった。

退職理由としては、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了8名（17.4%）、やりがいのある仕事に就くため8名（17.4%）、能力を発揮できる仕事に就くため5名（10.9%）、子・孫の育児のため4名（8.7%）という結果であった。

問10-8 性別による結果

問10-8-1 性別による大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態

性別による大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態についての結果は以下のとおりであった。

問10-8-1-1 性別による大学卒業時の就職先

男性は、福祉施設・団体139名（35.6%）、国・地方公共団体76名（19.5%）、一般企業・団体75名（19.2%）という結果であった。

女性は、福祉施設・団体258名（32.3%）一般企業・団体161名（20.2%）、国・地方公共団体107名（13.4%）という結果であった。

表10-8-1-1 性別による大学卒業時の就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：就職先		男 性	女 性	合 計
一般企業・団体	件 数	75	161	236
	比 率	19.2%	20.2%	19.9%
福祉系企業	件 数	10	26	36
	比 率	2.6%	3.3%	3.0%
福祉施設・団体	件 数	139	258	397
	比 率	35.6%	32.3%	33.4%
医療関係法人	件 数	26	86	112
	比 率	6.7%	10.8%	9.4%
国・地方公共団体	件 数	76	107	183
	比 率	19.5%	13.4%	15.4%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	38	88	126
	比 率	9.7%	11.0%	10.6%
自営業	件 数	1	4	5
	比 率	0.3%	0.5%	0.4%
その他（就職）	件 数	6	12	18
	比 率	1.5%	1.5%	1.5%
大学院等（進学）	件 数	8	18	26
	比 率	2.1%	2.3%	2.2%
就職・進学をしなかった	件 数	11	38	49
	比 率	2.8%	4.8%	4.1%
合 計	件 数	390	798	1,188
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-1-2 性別による大学卒業時の職種

男性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）64名（16.9%）、指導員74名（19.6%）、公務員50名（13.2%）という結果であった。

女性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）147名（19.3%）、事務系139名（18.2%）、指導員101名（13.3%）という結果であった。

表10-8-1-2 性別による大学卒業時の職種（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：職種		男 性	女 性	合 計
事務系	件 数	38	139	177
	比 率	10.1%	18.2%	15.5%
営業・販売系	件 数	41	43	84
	比 率	10.8%	5.6%	7.4%
接客・サービス系	件 数	18	42	60
	比 率	4.8%	5.5%	5.3%
技術系	件 数	7	5	12
	比 率	1.9%	0.7%	1.1%
専門職系	件 数	6	13	19
	比 率	1.6%	1.7%	1.7%
農林漁業	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	件 数	50	58	108
	比 率	13.2%	7.6%	9.5%
議員	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%

表10－8－1－2 性別による大学卒業時の職種（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：職種		男 性	女 性	合 計
教育関係	件 数	35	73	108
	比 率	9.3%	9.6%	9.5%
医療関係	件 数	3	11	14
	比 率	0.8%	1.4%	1.2%
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件 数	64	147	211
	比 率	16.9%	19.3%	18.5%
介護関係	件 数	34	91	125
	比 率	9.0%	11.9%	11.0%
指導員	件 数	74	101	175
	比 率	19.6%	13.3%	15.4%
セラピスト	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	0.4%	0.3%
自営業・自由業	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	0.3%	0.2%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	0	11	11
	比 率	0.0%	1.4%	1.0%
その他	件 数	3	9	12
	比 率	0.8%	1.2%	1.1%
進学への回答	件 数	5	14	19
	比 率	1.3%	1.8%	1.7%
合 計	件 数	378	762	1,140
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10－8－1－3 性別による大学卒業時の雇用形態

男性は、正規の職員・従業員329名（86.6%）、契約社員・非常勤職員22名（5.8%）、会社・団体等の役員（管理職）10名（2.6%）という結果であった。

女性は、正規の職員・従業員623名（82.2%）、契約社員・非常勤職員59名（7.8%）、パート・アルバイト32名（4.2%）という結果であった。

表10－8－1－3 性別による大学卒業時の雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：雇用形態		男 性	女 性	合 計
経営者	件 数	1	2	3
	比 率	0.3%	0.3%	0.3%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	10	3	13
	比 率	2.6%	0.4%	1.1%
正規の職員・従業員	件 数	329	623	952
	比 率	86.6%	82.2%	83.7%
派遣社員	件 数	0	6	6
	比 率	0.0%	0.8%	0.5%
契約社員・非常勤職員	件 数	22	59	81
	比 率	5.8%	7.8%	7.1%
パート・アルバイト	件 数	8	32	40
	比 率	2.1%	4.2%	3.5%
嘱託職員	件 数	1	5	6
	比 率	0.3%	0.7%	0.5%
自営業の手伝い	件 数	0	4	4
	比 率	0.0%	0.5%	0.4%
その他	件 数	2	9	11
	比 率	0.5%	1.2%	1.0%
進学への回答	件 数	7	15	22
	比 率	1.8%	2.0%	1.9%
合 計	件 数	380	758	1,138
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-2 性別による1回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

性別による1回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由についての結果は以下のとおりであった。

問10-8-2-1 性別による1回目の転職での就職先

男性は、福祉施設・団体94名（40.2%）、一般企業・団体53名（22.6%）、国・地方公共団体39名（16.7%）、という結果であった。

女性は、福祉施設・団体145名（29.6%）、一般企業・団体107名（21.8%）、学校（幼稚園・大学を含む）63名（12.9%）という結果であった。

表10-8-2-1 性別による1回目の転職での就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：2. 転職（1回目）： 就職先		男 性	女 性	合 計
一般企業・団体	件 数	53	107	160
	比 率	22.6%	21.8%	22.1%
福祉系企業	件 数	4	20	24
	比 率	1.7%	4.1%	3.3%
福祉施設・団体	件 数	94	145	239
	比 率	40.2%	29.6%	33.0%
医療関係法人	件 数	15	61	76
	比 率	6.4%	12.4%	10.5%
国・地方公共団体	件 数	39	60	99
	比 率	16.7%	12.2%	13.7%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	17	63	80
	比 率	7.3%	12.9%	11.0%
自営業	件 数	7	9	16
	比 率	3.0%	1.8%	2.2%
その他（就職）	件 数	4	20	24
	比 率	1.7%	4.1%	3.3%
大学院等（進学）	件 数	1	2	3
	比 率	0.4%	0.4%	0.4%
就職・進学をしなかった	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	0.6%	0.4%
合 計	件 数	234	490	724
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-2-2 性別による1回目の転職での職種

男性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）44名（19.0%）、指導員39名（16.8%）、事務系24名（10.3%）、公務員24名（10.3%）という結果であった。

女性は、事務系98名（20.3%）、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）96名（19.9%）、介護関係58名（12.0%）、という結果であった。

表10－8－2－2 性別による1回目の転職での職種

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：2. 転職（1回目）： 職種		男 性	女 性	合 計
事務系	件 数	24	98	122
	比 率	10.3%	20.3%	17.1%
営業・販売系	件 数	19	13	32
	比 率	8.2%	2.7%	4.5%
接客・サービス系	件 数	9	39	48
	比 率	3.9%	8.1%	6.7%
技術系	件 数	10	5	15
	比 率	4.3%	1.0%	2.1%
専門職系	件 数	12	18	30
	比 率	5.2%	3.7%	4.2%
農林漁業	件 数	1	1	2
	比 率	0.4%	0.2%	0.3%
公務員	件 数	24	27	51
	比 率	10.3%	5.6%	7.1%
議員	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
教育関係	件 数	13	49	62
	比 率	5.6%	10.1%	8.7%
医療関係	件 数	5	19	24
	比 率	2.2%	3.9%	3.4%
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件 数	44	96	140
	比 率	19.0%	19.9%	19.6%
介護関係	件 数	20	58	78
	比 率	8.6%	12.0%	10.9%
指導員	件 数	39	43	82
	比 率	16.8%	8.9%	11.5%
セラピスト	件 数	2	2	4
	比 率	0.9%	0.4%	0.6%
自営業・自由業	件 数	4	6	10
	比 率	1.7%	1.2%	1.4%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	0.4%	0.3%
その他	件 数	6	5	11
	比 率	2.6%	1.0%	1.5%
進学への回答	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	0.4%	0.3%
合 計	件 数	232	483	715
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10－8－2－3 性別による1回目の転職での雇用形態

男性は、正規の職員・従業員174名（75.7%）、会社・団体等の役員（管理職）20名（8.7%）、契約社員・非常勤職員14名（6.1%）という結果であった。

女性は、正規の職員・従業員266名（55.0%）、パート・アルバイト86名（17.8%）、契約社員・非常勤職員85名（17.6%）という結果であった。

表10-8-2-3 性別による1回目の転職での雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：2. 転職（1回目）： 雇用形態		男 性	女 性	合 計
経営者	件 数	8	1	9
	比 率	3.5%	0.2%	1.3%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	20	11	31
	比 率	8.7%	2.3%	4.3%
正規の職員・従業員	件 数	174	266	440
	比 率	75.7%	55.0%	61.6%
派遣社員	件 数	1	13	14
	比 率	0.4%	2.7%	2.0%
契約社員・非常勤職員	件 数	14	85	99
	比 率	6.1%	17.6%	13.9%
パート・アルバイト	件 数	8	86	94
	比 率	3.5%	17.8%	13.2%
嘱託職員	件 数	3	11	14
	比 率	1.3%	2.3%	2.0%
自営業の手伝い	件 数	1	3	4
	比 率	0.4%	0.6%	0.6%
その他	件 数	1	6	7
	比 率	0.4%	1.2%	1.0%
進学への回答	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	0.4%	0.3%
合 計	件 数	230	484	714
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-2-4 性別による1回目の転職での就労期間

男性は、13年以上301名（76.0%）、1年～3年36名（9.1%）、4年～6年24名（6.1%）という結果であった。

女性は、13年以上498名（61.8%）、1年～3年150名（18.6%）、1年未満67名（8.3%）という結果であった。

表10-8-2-4 性別による1回目の転職での就労期間（年数）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：2. 転職（1回目）： 就労期間（年数）		男 性	女 性	合 計
1年未満	件 数	17	67	84
	比 率	4.3%	8.3%	7.0%
1年～3年	件 数	36	150	186
	比 率	9.1%	18.6%	15.5%
4年～6年	件 数	24	59	83
	比 率	6.1%	7.3%	6.9%
7年～9年	件 数	8	23	31
	比 率	2.0%	2.9%	2.6%
10年～12年	件 数	10	9	19
	比 率	2.5%	1.1%	1.6%
13年以上	件 数	301	498	799
	比 率	76.0%	61.8%	66.5%
合 計	件 数	396	806	1,202
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-2-5 性別による1回目の転職での転職（退職）理由

男性は、視野を広げる・経験を広げるため17名（12.9%）、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了16名（12.1%）、能力を発揮できる仕事に就くため15名（11.4%）という結果であった。

女性は、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了66名（18.6%）、子・孫の育児のため50名（14.1%）、能力を発揮できる仕事に就くため25名（7.0%）という結果であった。

表10-8-2-5 性別による1回目の転職での転職（退職）理由

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：2. 転職（1回目）： 転職（退職）理由		男 性	女 性	合 計
定年のため	件 数	4	8	12
	比 率	3.0%	2.3%	2.5%
倒産・解雇・希望退職・契約期間満了	件 数	16	66	82
	比 率	12.1%	18.6%	16.8%
病気や怪我の療養のため	件 数	7	14	21
	比 率	5.3%	3.9%	4.3%
家族の介護・看護のため	件 数	2	13	15
	比 率	1.5%	3.7%	3.1%
子・孫の育児のため	件 数	2	50	52
	比 率	1.5%	14.1%	10.7%
人間関係がうまくいかなかったため	件 数	10	7	17
	比 率	7.6%	2.0%	3.5%
より高い賃金・収入を得るため	件 数	6	10	16
	比 率	4.5%	2.8%	3.3%
就業時間・休日等の労働条件改善のため	件 数	7	15	22
	比 率	5.3%	4.2%	4.5%
視野を広げる（経験を広げる）ため	件 数	17	18	35
	比 率	12.9%	5.1%	7.2%
やりがいのある仕事に就くため	件 数	8	22	30
	比 率	6.1%	6.2%	6.2%
能力を発揮できる仕事に就くため	件 数	15	25	40
	比 率	11.4%	7.0%	8.2%
大学で取得した免許・資格を活かすため	件 数	4	13	17
	比 率	3.0%	3.7%	3.5%
卒業後取得した免許・資格を活かすため	件 数	1	13	14
	比 率	0.8%	3.7%	2.9%
その他	件 数	33	81	114
	比 率	25.0%	22.8%	23.4%
合 計	件 数	132	355	487
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-3 性別による2回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

性別による2回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由についての結果は以下のとおりであった。

問10-8-3-1 性別による2回目の転職での就職先

男性は、福祉施設・団体43名（36.8%）、一般企業・団体31名（26.5%）、学校（幼稚園・大学を含む）17名（14.5%）、という結果であった。

女性は、福祉施設・団体100名（32.7%）、一般企業・団体60名（19.6%）、国・地方公共団体39名（12.7%）という結果であった。

表10-8-3-1 性別による2回目の転職での就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 就職先		男 性	女 性	合 計
一般企業・団体	件 数	31	60	91
	比 率	26.5%	19.6%	21.5%
福祉系企業	件 数	4	12	16
	比 率	3.4%	3.9%	3.8%
福祉施設・団体	件 数	43	100	143
	比 率	36.8%	32.7%	33.8%
医療関係法人	件 数	6	40	46
	比 率	5.1%	13.1%	10.9%
国・地方公共団体	件 数	9	39	48
	比 率	7.7%	12.7%	11.3%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	17	31	48
	比 率	14.5%	10.1%	11.3%
自営業	件 数	2	7	9
	比 率	1.7%	2.3%	2.1%
その他（就職）	件 数	4	12	16
	比 率	3.4%	3.9%	3.8%
大学院等（進学）	件 数	1	2	3
	比 率	0.9%	0.7%	0.7%
就職・進学をしなかった	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	1.0%	0.7%
合 計	件 数	117	306	423
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-3-2 性別による2回目の転職での職種

男性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）21名（17.9%）、事務系20名（17.1%）、教育関係14名（12.0%）、という結果であった。

女性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）67名（22.1%）、介護関係50名（16.5%）、事務系49名（16.2%）という結果であった。

表10-8-3-2 性別による2回目の転職での職種（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 職種		男 性	女 性	合 計
事務系	件 数	20	49	69
	比 率	17.1%	16.2%	16.4%
営業・販売系	件 数	10	8	18
	比 率	8.5%	2.6%	4.3%
接客・サービス系	件 数	7	19	26
	比 率	6.0%	6.3%	6.2%
技術系	件 数	5	3	8
	比 率	4.3%	1.0%	1.9%
専門職系	件 数	6	10	16
	比 率	5.1%	3.3%	3.8%
農林漁業	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	0.3%	0.2%
公務員	件 数	6	13	19
	比 率	5.1%	4.3%	4.5%
議員	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
教育関係	件 数	14	22	36
	比 率	12.0%	7.3%	8.6%

表10－8－3－2 性別による2回目の転職での職種（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 職種		男 性	女 性	合 計
医療関係	件 数	2	15	17
	比 率	1.7%	5.0%	4.0%
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件 数	21	67	88
	比 率	17.9%	22.1%	21.0%
介護関係	件 数	6	50	56
	比 率	5.1%	16.5%	13.3%
指導員	件 数	13	31	44
	比 率	11.1%	10.2%	10.5%
セラピスト	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	0.3%	0.2%
自営業・自由業	件 数	2	2	4
	比 率	1.7%	0.7%	1.0%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	0.7%	0.5%
その他	件 数	5	8	13
	比 率	4.3%	2.6%	3.1%
進学への回答	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	0.7%	0.5%
合 計	件 数	117	303	420
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10－8－3－3 性別による2回目の転職での雇用形態

男性は、正規の職員・従業員79名（68.7%）、会社・団体等の役員（管理職）17名（14.8%）、パート・アルバイト7名（6.1%）、という結果であった。

女性は、正規の職員・従業員151名（50.3%）、契約社員・非常勤職員58名（19.3%）、パート・アルバイト54名（18.0%）という結果であった。

表10－8－3－3 性別による2回目の転職での雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 雇用形態		男 性	女 性	合 計
経営者	件 数	6	4	10
	比 率	5.2%	1.3%	2.4%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	17	9	26
	比 率	14.8%	3.0%	6.3%
正規の職員・従業員	件 数	79	151	230
	比 率	68.7%	50.3%	55.4%
派遣社員	件 数	1	8	9
	比 率	0.9%	2.7%	2.2%
契約社員・非常勤職員	件 数	2	58	60
	比 率	1.7%	19.3%	14.5%
パート・アルバイト	件 数	7	54	61
	比 率	6.1%	18.0%	14.7%
嘱託職員	件 数	2	10	12
	比 率	1.7%	3.3%	2.9%
自営業の手伝い	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
その他	件 数	0	4	4
	比 率	0.0%	1.3%	1.0%
進学への回答	件 数	1	2	3
	比 率	0.9%	0.7%	0.7%
合 計	件 数	115	300	415
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-3-4 性別による2回目の転職での就労期間

男性は、13年以上329名（83.1%）、1年～3年30名（7.6%）、4年～6年14名（3.5%）という結果であった。

女性は、13年以上639名（79.3%）、1年～3年73名（9.1%）、1年未満39名（4.8%）という結果であった。

表10-8-3-4 性別による2回目の転職での就労期間（年数）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 就労期間（年数）		男 性	女 性	合 計
1年未満	件 数	9	39	48
	比 率	2.3%	4.8%	4.0%
1年～3年	件 数	30	73	103
	比 率	7.6%	9.1%	8.6%
4年～6年	件 数	14	35	49
	比 率	3.5%	4.3%	4.1%
7年～9年	件 数	8	13	21
	比 率	2.0%	1.6%	1.7%
10年～12年	件 数	6	7	13
	比 率	1.5%	0.9%	1.1%
13年以上	件 数	329	639	968
	比 率	83.1%	79.3%	80.5%
合 計	件 数	396	806	1,202
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-3-5 性別による2回目の転職での転職（退職）理由

男性は、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了13名（18.3%）、やりがいのある仕事に就くため9名（12.7%）、視野を広げる・経験を広げるため6名（8.5%）という結果であった。

女性は、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了36名（17.7%）、子・孫の育児のため22名（10.8%）、やりがいのある仕事に就くため15名（7.4%）という結果であった。

表10-8-3-5 性別による2回目の転職での転職（退職）理由（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 転職（退職）理由		男 性	女 性	合 計
定年のため	件 数	4	4	8
	比 率	5.6%	2.0%	2.9%
倒産・解雇・希望退職・契約期間満了	件 数	13	36	49
	比 率	18.3%	17.7%	17.9%
病気や怪我の療養のため	件 数	0	14	14
	比 率	0.0%	6.9%	5.1%
家族の介護・看護のため	件 数	2	7	9
	比 率	2.8%	3.4%	3.3%
子・孫の育児のため	件 数	0	22	22
	比 率	0.0%	10.8%	8.0%
人間関係がうまくいかなかったため	件 数	4	4	8
	比 率	5.6%	2.0%	2.9%
より高い賃金・収入を得るため	件 数	5	13	18
	比 率	7.0%	6.4%	6.6%
就業時間・休日等の労働条件改善のため	件 数	3	11	14
	比 率	4.2%	5.4%	5.1%

表10-8-3-5 性別による2回目の転職での転職（退職）理由（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：3. 転職（2回目）： 転職（退職）理由		男 性	女 性	合 計
視野を広げる（経験を広げる）ため	件 数	6	14	20
	比 率	8.5%	6.9%	7.3%
やりがいのある仕事に就くため	件 数	9	15	24
	比 率	12.7%	7.4%	8.8%
能力を発揮できる仕事に就くため	件 数	6	6	12
	比 率	8.5%	3.0%	4.4%
大学で取得した免許・資格を活かすため	件 数	0	11	11
	比 率	0.0%	5.4%	4.0%
卒業後取得した免許・資格を活かすため	件 数	0	5	5
	比 率	0.0%	2.5%	1.8%
その他	件 数	19	41	60
	比 率	26.8%	20.2%	21.9%
合 計	件 数	71	203	274
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-4 性別による3回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

性別による3回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由についての結果は以下のとおりであった。

問10-8-4-1 性別による3回目の転職での就職先

男性は、一般企業・団体19名（33.9%）、福祉施設・団体19名（33.9%）、医療関係法人6名（10.7%）、国・地方公共団体5名（8.9%）という結果であった。

女性は、福祉施設・団体59名（36.0%）、一般企業・団体32名（19.5%）、医療関係法人15名（9.1%）という結果であった。

表10-8-4-1 性別による3回目の転職での就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：4. 転職（3回目）： 就職先		男 性	女 性	合 計
一般企業・団体	件 数	19	32	51
	比 率	33.9%	19.5%	23.2%
福祉系企業	件 数	2	14	16
	比 率	3.6%	8.5%	7.3%
福祉施設・団体	件 数	19	59	78
	比 率	33.9%	36.0%	35.5%
医療関係法人	件 数	6	15	21
	比 率	10.7%	9.1%	9.5%
国・地方公共団体	件 数	5	14	19
	比 率	8.9%	8.5%	8.6%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	3	11	14
	比 率	5.4%	6.7%	6.4%
自営業	件 数	2	3	5
	比 率	3.6%	1.8%	2.3%
その他（就職）	件 数	0	10	10
	比 率	0.0%	6.1%	4.5%
大学院等（進学）	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	1.8%	1.4%
就職・進学をしなかった	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	1.8%	1.4%
合 計	件 数	56	164	220
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-4-2 性別による3回目の転職での職種

男性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）11名（20.0%）、介護関係9名（16.4%）、営業・販売員6名（10.9%）という結果であった。

女性は、介護関係37名（23.3%）、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）30名（18.9%）、事務系23名（14.5%）という結果であった。

表10-8-4-2 性別による3回目の転職での職種

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：4. 転職（3回目）： 職種		男 性	女 性	合 計
事務系	件 数	4	23	27
	比 率	7.3%	14.5%	12.6%
営業・販売系	件 数	6	3	9
	比 率	10.9%	1.9%	4.2%
接客・サービス系	件 数	3	12	15
	比 率	5.5%	7.5%	7.0%
技術系	件 数	3	1	4
	比 率	5.5%	0.6%	1.9%
専門職系	件 数	1	8	9
	比 率	1.8%	5.0%	4.2%
農林漁業	件 数	1	1	2
	比 率	1.8%	0.6%	0.9%
公務員	件 数	2	8	10
	比 率	3.6%	5.0%	4.7%
議員	件 数	1	0	1
	比 率	1.8%	0.0%	0.5%
教育関係	件 数	4	8	12
	比 率	7.3%	5.0%	5.6%
医療関係	件 数	1	6	7
	比 率	1.8%	3.8%	3.3%
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件 数	11	30	41
	比 率	20.0%	18.9%	19.2%
介護関係	件 数	9	37	46
	比 率	16.4%	23.3%	21.5%
指導員	件 数	4	14	18
	比 率	7.3%	8.8%	8.4%
セラピスト	件 数	1	1	2
	比 率	1.8%	0.6%	0.9%
自営業・自由業	件 数	1	0	1
	比 率	1.8%	0.0%	0.5%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	1.9%	1.4%
その他	件 数	3	3	6
	比 率	5.5%	1.9%	2.8%
進学への回答	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	0.6%	0.5%
合 計	件 数	55	159	214
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-4-3 性別による3回目の転職での雇用形態

男性は、正規の職員・従業員36名（64.3%）、会社・団体等の役員（管理職）8名（14.3%）、

契約社員・非常勤職員 6 名（10.7%）という結果であった。

女性は、正規の職員・従業員65名（40.9%）、パート・アルバイト36名（22.6%）、契約社員・非常勤職員35名（22.0%）という結果であった。

表10-8-4-3 性別による3回目の転職での雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：4. 転職（3回目）： 雇用形態		男 性	女 性	合 計
経営者	件 数	3	3	6
	比 率	5.4%	1.9%	2.8%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	8	3	11
	比 率	14.3%	1.9%	5.1%
正規の職員・従業員	件 数	36	65	101
	比 率	64.3%	40.9%	47.0%
派遣社員	件 数	1	9	10
	比 率	1.8%	5.7%	4.7%
契約社員・非常勤職員	件 数	6	35	41
	比 率	10.7%	22.0%	19.1%
パート・アルバイト	件 数	0	36	36
	比 率	0.0%	22.6%	16.7%
嘱託職員	件 数	1	5	6
	比 率	1.8%	3.1%	2.8%
自営業の手伝い	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	0.6%	0.5%
その他	件 数	1	1	2
	比 率	1.8%	0.6%	0.9%
進学への回答	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	0.6%	0.5%
合 計	件 数	56	159	215
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-4-4 性別による3回目の転職での就労期間（年数）

男性は、13年以上371名（93.7%）、1年～3年10名（2.5%）、1年未満7名（1.8%）という結果であった。

女性は、13年以上722名（89.6%）、1年～3年32名（4.0%）、1年未満21名（2.6%）、という結果であった。

表10-8-4-4 性別による3回目の転職での就労期間（年数）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：4. 転職（3回目）： 就労期間（年数）		男 性	女 性	合 計
1 年未満	件 数	7	21	28
	比 率	1.8%	2.6%	2.3%
1 年～3 年	件 数	10	32	42
	比 率	2.5%	4.0%	3.5%
4 年～6 年	件 数	4	18	22
	比 率	1.0%	2.2%	1.8%
7 年～9 年	件 数	2	10	12
	比 率	0.5%	1.2%	1.0%
10年～12年	件 数	2	3	5
	比 率	0.5%	0.4%	0.4%
13年以上	件 数	371	722	1,093
	比 率	93.7%	89.6%	90.9%
合 計	件 数	396	806	1,202
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-4-5 性別による3回目の転職での転職（退職）理由

男性は、やりがいのある仕事に就くため5名（15.2%）、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了3名（9.1%）、病気や怪我の療養のため3名（9.1%）、能力を発揮できる仕事に就くため2名（6.1%）という結果であった。

女性は、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了18名（16.8%）、より高い賃金・収入を得るため10名（9.3%）、やりがいのある仕事に就くため9名（8.4%）、能力を発揮できる仕事に就くため9名（8.4%）という結果であった。

表10-8-18 性別による3回目の転職での転職（退職）理由

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：4. 転職（3回目）： 転職（退職）理由		男 性	女 性	合 計
定年のため	件 数	1	1	2
	比 率	3.0%	0.9%	1.4%
倒産・解雇・希望退職・契約期間満了	件 数	3	18	21
	比 率	9.1%	16.8%	15.0%
病気や怪我の療養のため	件 数	3	3	6
	比 率	9.1%	2.8%	4.3%
家族の介護・看護のため	件 数	0	6	6
	比 率	0.0%	5.6%	4.3%
子・孫の育児のため	件 数	1	5	6
	比 率	3.0%	4.7%	4.3%
人間関係がうまくいかなかったため	件 数	0	6	6
	比 率	0.0%	5.6%	4.3%
より高い賃金・収入を得るため	件 数	2	10	12
	比 率	6.1%	9.3%	8.6%
就業時間・休日等の労働条件改善のため	件 数	2	6	8
	比 率	6.1%	5.6%	5.7%
視野を広げる（経験を広げる）ため	件 数	4	7	11
	比 率	12.1%	6.5%	7.9%
やりがいのある仕事に就くため	件 数	5	9	14
	比 率	15.2%	8.4%	10.0%
能力を発揮できる仕事に就くため	件 数	2	9	11
	比 率	6.1%	8.4%	7.9%
大学で取得した免許・資格を活かすため	件 数	0	4	4
	比 率	0.0%	3.7%	2.9%
卒業後取得した免許・資格を活かすため	件 数	0	7	7
	比 率	0.0%	6.5%	5.0%
その他	件 数	10	16	26
	比 率	30.3%	15.0%	18.6%
合 計	件 数	33	107	140
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-5 性別による4回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由

性別による4回目の転職での就職先・職種・雇用形態・就労期間・転職理由についての結果は以下のとおりであった。

問10-8-5-1 性別による4回目の転職での就職先

男性は、一般企業・団体9名（36.0%）、福祉施設・団体7名（28.0%）、学校（幼稚園・大学を含む）3名（12.0%）という結果であった。

女性は、福祉施設・団体34名（41.5%）、一般企業・団体15名（18.3%）、国・地方公共団体9名（11.0%）という結果であった。

表10-8-5-1 性別による4回目の転職での就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 就職先		男 性	女 性	合 計
一般企業・団体	件 数	9	15	24
	比 率	36.0%	18.3%	22.4%
福祉系企業	件 数	0	5	5
	比 率	0.0%	6.1%	4.7%
福祉施設・団体	件 数	7	34	41
	比 率	28.0%	41.5%	38.3%
医療関係法人	件 数	2	6	8
	比 率	8.0%	7.3%	7.5%
国・地方公共団体	件 数	1	9	10
	比 率	4.0%	11.0%	9.3%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	3	6	9
	比 率	12.0%	7.3%	8.4%
自営業	件 数	2	4	6
	比 率	8.0%	4.9%	5.6%
その他（就職）	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	2.4%	1.9%
大学院等（進学）	件 数	1	1	2
	比 率	4.0%	1.2%	1.9%
就職・進学をしなかった	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	件 数	25	82	107
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-5-2 性別による4回目の転職での職種

男性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）5名（20.8%）、介護関係4名（16.7%）、営業・販売員3名（12.5%）、接客・サービス系3名（12.5%）、教育関係3名（12.5%）という結果であった。

女性は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）23名（28.0%）、事務系12名（14.6%）、専門職系10名（12.2%）という結果であった。

表10-8-5-2 性別による4回目の転職での職種（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 職種		男 性	女 性	合 計
事務系	件 数	2	12	14
	比 率	8.3%	14.6%	13.2%
営業・販売系	件 数	3	0	3
	比 率	12.5%	0.0%	2.8%
接客・サービス系	件 数	3	2	5
	比 率	12.5%	2.4%	4.7%
技術系	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
専門職系	件 数	1	10	11
	比 率	4.2%	12.2%	10.4%
農林漁業	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	件 数	0	3	3
	比 率	0.0%	3.7%	2.8%

表10-8-5-2 性別による4回目の転職での職種（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 職種		男 性	女 性	合 計
議員	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
教育関係	件 数	3	7	10
	比 率	12.5%	8.5%	9.4%
医療関係	件 数	0	4	4
	比 率	0.0%	4.9%	3.8%
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件 数	5	23	28
	比 率	20.8%	28.0%	26.4%
介護関係	件 数	4	9	13
	比 率	16.7%	11.0%	12.3%
指導員	件 数	2	7	9
	比 率	8.3%	8.5%	8.5%
セラピスト	件 数	0	2	2
	比 率	0.0%	2.4%	1.9%
自営業・自由業	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
その他	件 数	1	3	4
	比 率	4.2%	3.7%	3.8%
進学への回答	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	件 数	24	82	106
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-5-3 性別による4回目の転職での雇用形態

男性は、正規の職員・従業員16名（69.6%）、経営者2名（8.7%）、嘱託職員2名（8.7%）という結果であった。

女性は、正規の職員・従業員31名（38.3%）、パート・アルバイト20名（24.7%）、契約社員・非常勤職員16名（19.8%）という結果であった。

表10-8-5-3 性別による4回目の転職での雇用形態（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 雇用形態		男 性	女 性	合 計
経営者	件 数	2	4	6
	比 率	8.7%	4.9%	5.8%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	1	2	3
	比 率	4.3%	2.5%	2.9%
正規の職員・従業員	件 数	16	31	47
	比 率	69.6%	38.3%	45.2%
派遣社員	件 数	1	2	3
	比 率	4.3%	2.5%	2.9%
契約社員・非常勤職員	件 数	1	16	17
	比 率	4.3%	19.8%	16.3%
パート・アルバイト	件 数	0	20	20
	比 率	0.0%	24.7%	19.2%
嘱託職員	件 数	2	5	7
	比 率	8.7%	6.2%	6.7%
自営業の手伝い	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%

表10-8-5-3 性別による4回目の転職での雇用形態（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 雇用形態		男 性	女 性	合 計
その他	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
進学への回答	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	1.2%	1.0%
合 計	件 数	23	81	104
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-5-4 性別による4回目の転職での就労期間

男性は、13年以上388名（98.0%）、1年～3年4名（1.0%）、4年～6年2名（0.5%）、という結果であった。

女性は、13年以上784名（97.3%）、1年～3年10名（1.2%）、1年未満7名（0.9%）、という結果であった。

表10-8-5-4 性別による4回目の転職での就労期間（年数）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 就労期間（年数）		男 性	女 性	合 計
1年未満	件 数	1	7	8
	比 率	0.3%	0.9%	0.7%
1年～3年	件 数	4	10	14
	比 率	1.0%	1.2%	1.2%
4年～6年	件 数	2	4	6
	比 率	0.5%	0.5%	0.5%
7年～9年	件 数	1	1	2
	比 率	0.3%	0.1%	0.2%
10年～12年	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
13年以上	件 数	388	784	1,172
	比 率	98.0%	97.3%	97.5%
合 計	件 数	396	806	1,202
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-8-5-5 性別による4回目の転職での転職（退職）理由

男性は、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了2名（18.2%）、定年のため1名（9.1%）人間関係がうまくいかなかったため1名（9.1%）、より高い賃金・収入を得るため1名（9.1%）、視野を広げる・経験を広げるため1名（9.1%）、やりがいのある仕事に就くため1名（9.1%）、能力を発揮できる仕事に就くため1名（9.1%）という結果であった。

女性は、やりがいのある仕事に就くため7名（20.0%）、倒産・解雇・希望退職・契約期間満了6名（17.1%）、子・孫の育児のため4名（11.4%）、能力を発揮できる仕事に就くため4名（11.4%）という結果であった。

表10-8-5-5 性別による4回目の転職での転職（退職）理由

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：5. 転職（4回目）： 転職（退職）理由		男 性	女 性	合 計
定年のため	件 数	1	0	1
	比 率	9.1%	0.0%	2.2%
倒産・解雇・希望退職・契約期間満了	件 数	2	6	8
	比 率	18.2%	17.1%	17.4%
病気や怪我の療養のため	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	2.9%	2.2%
家族の介護・看護のため	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
子・孫の育児のため	件 数	0	4	4
	比 率	0.0%	11.4%	8.7%
人間関係がうまくいかなかったため	件 数	1	0	1
	比 率	9.1%	0.0%	2.2%
より高い賃金・収入を得るため	件 数	1	2	3
	比 率	9.1%	5.7%	6.5%
就業時間・休日等の労働条件改善のため	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
視野を広げる（経験を広げる）ため	件 数	1	1	2
	比 率	9.1%	2.9%	4.3%
やりがいのある仕事に就くため	件 数	1	7	8
	比 率	9.1%	20.0%	17.4%
能力を発揮できる仕事に就くため	件 数	1	4	5
	比 率	9.1%	11.4%	10.9%
大学で取得した免許・資格を活かすため	件 数	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%
卒業後取得した免許・資格を活かすため	件 数	0	1	1
	比 率	0.0%	2.9%	2.2%
その他	件 数	3	9	12
	比 率	27.3%	25.7%	26.1%
合 計	件 数	11	35	46
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%

問10-9 卒業年別による結果

卒業年別による大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態についての結果は以下のとおりであった。

問10-9-1 卒業年別による大学卒業時の就職先

1期生～9期生は、国・地方公共団体53名（31.5%）、福祉施設・団体49名（29.2%）、学校（幼稚園・大学を含む）41名（24.4%）という結果であった。

11期生～17期生は、福祉施設・団体105名（43.4%）、国・地方公共団体37名（15.3%）、学校（幼稚園・大学を含む）30名（12.4%）、という結果であった。

19期生～27期生は、福祉施設・団体72名（29.5%）、一般企業・団体60名（24.6%）、国・地方公共団体48名（19.7%）という結果であった。

29期生～35期生は、福祉施設・団体87名（33.7%）、一般企業・団体70名（27.1%）、医療関係法人30名（11.6%）という結果であった。

37期生～45期生は、福祉施設・団体80名（29.7%）、一般企業・団体61名（22.7%）、医療関係法人28名（10.4%）という結果であった。

表10－9－1 卒業年別による大学卒業時の就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴: 1. 大学卒業時の進路: 就職先		卒期1期生～ 卒期9期生	卒期11期生～ 卒期17期生	卒期19期生～ 卒期27期生	卒期29期生～ 卒期35期生	卒期37期生～ 卒期45期生	合 計
一般企業・団体	件 数	12	29	60	70	61	232
	比 率	7.1%	12.0%	24.6%	27.1%	22.7%	19.6%
福祉系企業	件 数	1	2	0	10	23	36
	比 率	0.6%	0.8%	0.0%	3.9%	8.6%	3.0%
福祉施設・団体	件 数	49	105	72	87	80	393
	比 率	29.2%	43.4%	29.5%	33.7%	29.7%	33.3%
医療関係法人	件 数	5	21	28	30	28	112
	比 率	3.0%	8.7%	11.5%	11.6%	10.4%	9.5%
国・地方公共団体	件 数	53	37	48	23	22	183
	比 率	31.5%	15.3%	19.7%	8.9%	8.2%	15.5%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	41	30	23	13	19	126
	比 率	24.4%	12.4%	9.4%	5.0%	7.1%	10.7%
自営業	件 数	0	3	0	1	1	5
	比 率	0.0%	1.2%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%
その他（就職）	件 数	1	4	4	4	5	18
	比 率	0.6%	1.7%	1.6%	1.6%	1.9%	1.5%
大学院等（進学）	件 数	3	3	4	4	12	26
	比 率	1.8%	1.2%	1.6%	1.6%	4.5%	2.2%
就職・進学をしなかった	件 数	3	8	5	16	18	50
	比 率	1.8%	3.3%	2.0%	6.2%	6.7%	4.2%
合 計	件 数	168	242	244	258	269	1,181
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10－9－2 卒業年別による大学卒業時の職種

1期生～9期生は、指導員39名（23.8%）、教育関係36名（22.0%）、公務員31名（18.9%）、という結果であった。

11期生～17期生は、指導員60名（25.9%）、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）41名（17.7%）、事務系37名（15.9%）、という結果であった。

19期生～27期生は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）52名（21.9%）、事務系42名（17.7%）、指導員32名（13.5%）という結果であった。

29期生～35期生は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）46名（19.0%）、事務系43名（17.8%）、介護関係43名（17.8%）、指導員25名（10.3%）という結果であった。

37期生～45期生は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）54名（20.9%）、介護関係50名（19.4%）、事務系30名（11.6%）、という結果であった。

表10-9-2 卒業年別による大学卒業時の職種

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：職種		卒期1期生～ 卒期9期生	卒期11期生～ 卒期17期生	卒期19期生～ 卒期27期生	卒期29期生～ 卒期35期生	卒期37期生～ 卒期45期生	合 計
事務系	件 数	23	37	42	43	30	175
	比 率	14.0%	15.9%	17.7%	17.8%	11.6%	15.4%
営業・販売系	件 数	3	8	21	24	27	83
	比 率	1.8%	3.4%	8.9%	9.9%	10.5%	7.3%
接客・サービス系	件 数	3	8	11	22	15	59
	比 率	1.8%	3.4%	4.6%	9.1%	5.8%	5.2%
技術系	件 数	1	2	2	5	2	12
	比 率	0.6%	0.9%	0.8%	2.1%	0.8%	1.1%
専門職系	件 数	4	6	4	2	3	19
	比 率	2.4%	2.6%	1.7%	0.8%	1.2%	1.7%
農林漁業	件 数	0	0	0	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	件 数	31	28	24	11	14	108
	比 率	18.9%	12.1%	10.1%	4.5%	5.4%	9.5%
議員	件 数	0	0	0	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
教育関係	件 数	36	24	23	10	15	108
	比 率	22.0%	10.3%	9.7%	4.1%	5.8%	9.5%
医療関係	件 数	0	4	2	3	5	14
	比 率	0.0%	1.7%	0.8%	1.2%	1.9%	1.2%
福祉関係 (CW・MSW・ PSW・保育士等)	件 数	16	41	52	46	54	209
	比 率	9.8%	17.7%	21.9%	19.0%	20.9%	18.4%
介護関係	件 数	4	7	20	43	50	124
	比 率	2.4%	3.0%	8.4%	17.8%	19.4%	10.9%
指導員	件 数	39	60	32	25	18	174
	比 率	23.8%	25.9%	13.5%	10.3%	7.0%	15.4%
セラピスト	件 数	0	0	0	1	2	3
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	0.3%
自営業・自由業	件 数	0	1	0	0	1	2
	比 率	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.2%
専業主婦（主夫）・ 家事手伝い	件 数	3	2	1	2	4	12
	比 率	1.8%	0.9%	0.4%	0.8%	1.6%	1.1%
その他	件 数	0	2	1	4	5	12
	比 率	0.0%	0.9%	0.4%	1.7%	1.9%	1.1%
進学への回答	件 数	1	2	2	1	13	19
	比 率	0.6%	0.9%	0.8%	0.4%	5.0%	1.7%
合 計	件 数	164	232	237	242	258	1,133
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10-9-3 卒業年別による大学卒業時の雇用形態

1期生～9期生は、正規の職員・従業員148名（90.8%）、契約社員・非常勤職員8名（4.9%）、会社・団体等の役員（管理職）3名（1.8%）という結果であった。

11期生～17期生は、正規の職員・従業員191名（82.3%）、契約社員・非常勤職員18名（7.8%）、嘱託職員3名（1.3%）、自営業の手伝い3名（1.3%）、進学3名（1.3%）という結果であった。

19期生～27期生は、正規の職員・従業員211名（88.3%）、契約社員・非常勤職員14名（5.9%）、パート・アルバイト5名（2.1%）という結果であった。

29期生～35期生は、正規の職員・従業員201名（82.4%）、契約社員・非常勤職員18名（7.4%）、

パート・アルバイト13名（5.3%）という結果であった。

37期生～45期生は、正規の職員・従業員194名（76.7%）、契約社員・非常勤職員23名（9.1%）、パート・アルバイト14名（5.5%）という結果であった。

表10－9－3 卒業年別による大学卒業時の雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：雇用形態		卒期1期生～ 卒期9期生	卒期11期生～ 卒期17期生	卒期19期生～ 卒期27期生	卒期29期生～ 卒期35期生	卒期37期生～ 卒期45期生	合 計
経営者	件 数	0	0	0	2	1	3
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.4%	0.3%
会社・団体等の 役員（管理職）	件 数	3	5	4	0	1	13
	比 率	1.8%	2.2%	1.7%	0.0%	0.4%	1.1%
正規の職員・ 従業員	件 数	148	191	211	201	194	945
	比 率	90.8%	82.3%	88.3%	82.4%	76.7%	83.6%
派遣社員	件 数	0	0	0	4	2	6
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.8%	0.5%
契約社員・非常勤職 員	件 数	8	18	14	18	23	81
	比 率	4.9%	7.8%	5.9%	7.4%	9.1%	7.2%
パート・アルバイト	件 数	0	7	5	13	14	39
	比 率	0.0%	3.0%	2.1%	5.3%	5.5%	3.4%
嘱託職員	件 数	1	3	0	1	1	6
	比 率	0.6%	1.3%	0.0%	0.4%	0.4%	0.5%
自営業の手伝い	件 数	0	3	0	1	0	4
	比 率	0.0%	1.3%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%
その他	件 数	1	2	2	3	4	12
	比 率	0.6%	0.9%	0.8%	1.2%	1.6%	1.1%
進学への回答	件 数	2	3	3	1	13	22
	比 率	1.2%	1.3%	1.3%	0.4%	5.1%	1.9%
合 計	件 数	163	232	239	244	253	1,131
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10－10 学部別による結果

学部別による大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態についての結果は以下のとおりであった。

問10－10－1 学部別による大学卒業時の就職先

社会福祉学部は、福祉施設・団体273名（35.3%）、国・地方公共団体148名（19.1%）、学校（幼稚園・大学を含む）107名（13.8%）という結果であった。

社会学部は、一般企業・団体87名（32.2%）、福祉施設・団体86名（31.9%）、医療関係法人30名（11.1%）という結果であった。

総合福祉学部は、福祉施設・団体38名（26.8%）、一般企業・団体30名（21.1%）、国・地方公共団体14名（9.9%）という結果であった。

表10-10-1 学部別による大学卒業時の就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：就職先		社会福祉学部	社会学部	総合福祉学部	合 計
一般企業・団体	件 数	119	87	30	236
	比 率	15.4%	32.2%	21.1%	19.9%
福祉系企業	件 数	12	11	13	36
	比 率	1.6%	4.1%	9.2%	3.0%
福祉施設・団体	件 数	273	86	38	397
	比 率	35.3%	31.9%	26.8%	33.5%
医療関係法人	件 数	69	30	13	112
	比 率	8.9%	11.1%	9.2%	9.4%
国・地方公共団体	件 数	148	20	14	182
	比 率	19.1%	7.4%	9.9%	15.3%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	107	9	10	126
	比 率	13.8%	3.3%	7.0%	10.6%
自営業	件 数	3	1	1	5
	比 率	0.4%	0.4%	0.7%	0.4%
その他（就職）	件 数	9	5	4	18
	比 率	1.2%	1.9%	2.8%	1.5%
大学院等（進学）	件 数	12	5	8	25
	比 率	1.6%	1.9%	5.6%	2.1%
就職・進学をしなかった	件 数	22	16	11	49
	比 率	2.8%	5.9%	7.7%	4.1%
合 計	件 数	774	270	142	1,186
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10-10-2 学部別による大学卒業時の職種

社会福祉学部は、指導員148名（19.7%）、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）141名（18.8%）、事務系116名（15.5%）という結果であった。

社会学部は、介護関係52名（20.6%）、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）42名（16.6%）、事務系41名（16.2%）、という結果であった。

総合福祉学部は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）27名（19.9%）、介護関係23名（16.9%）、事務系20名（14.7%）という結果であった。

表10-10-2 学部別による大学卒業時の職種

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：職種		社会福祉学部	社会学部	総合福祉学部	合 計
事務系	件 数	116	41	20	177
	比 率	15.5%	16.2%	14.7%	15.5%
営業・販売系	件 数	38	35	11	84
	比 率	5.1%	13.8%	8.1%	7.4%
接客・サービス系	件 数	27	25	8	60
	比 率	3.6%	9.9%	5.9%	5.3%
技術系	件 数	5	6	1	12
	比 率	0.7%	2.4%	0.7%	1.1%
専門職系	件 数	15	1	3	19
	比 率	2.0%	0.4%	2.2%	1.7%
農林漁業	件 数	0	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	件 数	88	11	9	108
	比 率	11.7%	4.3%	6.6%	9.5%
議員	件 数	0	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
教育関係	件 数	92	7	9	108
	比 率	12.3%	2.8%	6.6%	9.5%
医療関係	件 数	6	7	1	14
	比 率	0.8%	2.8%	0.7%	1.2%
福祉関係 (CW・MSW・PSW・保育士等)	件 数	141	42	27	210
	比 率	18.8%	16.6%	19.9%	18.4%
介護関係	件 数	51	52	23	126
	比 率	6.8%	20.6%	16.9%	11.1%
指導員	件 数	148	18	8	174
	比 率	19.7%	7.1%	5.9%	15.3%
セラピスト	件 数	2	1	0	3
	比 率	0.3%	0.4%	0.0%	0.3%
自営業・自由業	件 数	1	0	1	2
	比 率	0.1%	0.0%	0.7%	0.2%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	7	1	4	12
	比 率	0.9%	0.4%	2.9%	1.1%
その他	件 数	6	3	3	12
	比 率	0.8%	1.2%	2.2%	1.1%
進学への回答	件 数	7	3	8	18
	比 率	0.9%	1.2%	5.9%	1.6%
合 計	件 数	750	253	136	1,139
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10-10-3 学部別による大学卒業時の雇用形態

社会福祉学部は、正規の職員・従業員646名（86.1%）、契約社員・非常勤職員51名（6.8%）、パート・アルバイト14名（1.9%）、という結果であった。

社会学部は、正規の職員・従業員207名（81.5%）、契約社員・非常勤職員19名（7.5%）、パート・アルバイト16名（6.3%）、という結果であった。

総合福祉学部は、正規の職員・従業員98名（73.7%）、契約社員・非常勤職員11名（8.3%）、パート・アルバイト10名（7.5%）という結果であった。

表10-10-3 学部別による大学卒業時の雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：雇用形態		社会福祉学部	社会学部	総合福祉学部	合 計
経営者	件 数	0	2	1	3
	比 率	0.0%	0.8%	0.8%	0.3%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	12	1	0	13
	比 率	1.6%	0.4%	0.0%	1.1%
正規の職員・従業員	件 数	646	207	98	951
	比 率	86.1%	81.5%	73.7%	83.6%
派遣社員	件 数	0	5	1	6
	比 率	0.0%	2.0%	0.8%	0.5%
契約社員・非常勤職員	件 数	51	19	11	81
	比 率	6.8%	7.5%	8.3%	7.1%
パート・アルバイト	件 数	14	16	10	40
	比 率	1.9%	6.3%	7.5%	3.5%
嘱託職員	件 数	4	1	1	6
	比 率	0.5%	0.4%	0.8%	0.5%
自営業の手伝い	件 数	4	0	0	4
	比 率	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
その他	件 数	9	0	3	12
	比 率	1.2%	0.0%	2.3%	1.1%
進学への回答	件 数	10	3	8	21
	比 率	1.3%	1.2%	6.0%	1.8%
合 計	件 数	750	254	133	1,137
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10-11 学科別による結果

学科別による大学卒業時の進路・就職先・職種・雇用形態についての結果は以下のとおりであった。

問10-11-1 学科別による大学卒業時の就職先

社会福祉学科は、福祉施設・団体376名（36.9%）、国・地方公共団体170名（16.7%）、一般企業・団体159名（15.6%）という結果であった。

社会学科・人間社会学科は、一般企業・団体53名（51.0%）、福祉施設・団体14名（13.5%）、就職・進学をしなかった9名（8.7%）という結果であった。

心理学科・実践心理学科は、一般企業・団体24名（37.5%）、福祉施設・団体8名（12.5%）、医療関係法人6名（9.4%）、大学院等（進学）6名（9.4%）、就職・進学をしなかった6名（9.4%）という結果であった。

表10-11-1 学科別による大学卒業時の就職先

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：就職先		社会福祉学科	社会学科・人間社会学科	心理学科・実践心理学科	合 計
一般企業・団体	件 数	159	53	24	236
	比 率	15.6%	51.0%	37.5%	19.9%
福祉系企業	件 数	29	2	5	36
	比 率	2.8%	1.9%	7.8%	3.0%
福祉施設・団体	件 数	376	14	8	398
	比 率	36.9%	13.5%	12.5%	33.6%
医療関係法人	件 数	100	6	6	112
	比 率	9.8%	5.8%	9.4%	9.4%
国・地方公共団体	件 数	170	7	5	182
	比 率	16.7%	6.7%	7.8%	15.3%
学校（幼稚園・大学を含む）	件 数	119	3	1	123
	比 率	11.7%	2.9%	1.6%	10.4%
自営業	件 数	3	1	1	5
	比 率	0.3%	1.0%	1.6%	0.4%
その他（就職）	件 数	12	4	2	18
	比 率	1.2%	3.8%	3.1%	1.5%
大学院等（進学）	件 数	15	5	6	26
	比 率	1.5%	4.8%	9.4%	2.2%
就職・進学をしなかった	件 数	35	9	6	50
	比 率	3.4%	8.7%	9.4%	4.2%
合 計	件 数	1,018	104	64	1,186
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10-11-2 学科別による大学卒業時の職種

社会福祉学科は、福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）206名（21.0%）、指導員170名（17.3%）、事務系143名（14.6%）という結果であった。

社会学科・人間社会学科は、営業・販売系24名（24.2%）、事務系18名（18.2%）、接客・サービス業15名（15.2%）という結果であった。

心理学科・実践心理学科は、事務系16名（28.1%）、営業・販売系7名（12.3%）、接客・サービス業6名（10.5%）という結果であった。

表10-11-2 学科別による大学卒業時の職種（その1）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：職種		社会福祉学科	社会学科・人間社会学科	心理学科・実践心理学科	合 計
事務系	件 数	143	18	16	177
	比 率	14.6%	18.2%	28.1%	15.6%
営業・販売系	件 数	53	24	7	84
	比 率	5.4%	24.2%	12.3%	7.4%
接客・サービス系	件 数	39	15	6	60
	比 率	4.0%	15.2%	10.5%	5.3%
技術系	件 数	5	7	0	12
	比 率	0.5%	7.1%	0.0%	1.1%
専門職系	件 数	15	2	1	18
	比 率	1.5%	2.0%	1.8%	1.6%
農林漁業	件 数	0	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	件 数	103	2	3	108
	比 率	10.5%	2.0%	5.3%	9.5%
議員	件 数	0	0	0	0
	比 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
教育関係	件 数	99	3	3	105
	比 率	10.1%	3.0%	5.3%	9.2%
医療関係	件 数	11	2	1	14
	比 率	1.1%	2.0%	1.8%	1.2%

表10-11-2 学科別による大学卒業時の職種（その2）

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：職種		社会福祉学科	社会学科・人間社会学科	心理学科・実践心理学科	合 計
福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等）	件 数	206	2	3	211
	比 率	21.0%	2.0%	5.3%	18.5%
介護関係	件 数	107	14	5	126
	比 率	10.9%	14.1%	8.8%	11.1%
指導員	件 数	170	1	4	175
	比 率	17.3%	1.0%	7.0%	15.4%
セラピスト	件 数	3	0	0	3
	比 率	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
自営業・自由業	件 数	1	0	1	2
	比 率	0.1%	0.0%	1.8%	0.2%
専業主婦（主夫）・家事手伝い	件 数	9	2	1	12
	比 率	0.9%	2.0%	1.8%	1.1%
その他	件 数	8	2	2	12
	比 率	0.8%	2.0%	3.5%	1.1%
進学への回答	件 数	10	5	4	19
	比 率	1.0%	5.1%	7.0%	1.7%
合 計	件 数	982	99	57	1,138
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10-11-3 学科別による大学卒業時の雇用形態

社会福祉学科は、正規の職員・従業員840名（85.5%）、契約社員・非常勤職員69名（7.0%）、パート・アルバイト25名（2.5%）という結果であった。

社会学科・人間社会学科は、正規の職員・従業員73名（74.5%）、パート・アルバイト10名（10.2%）、契約社員・非常勤職員6名（6.1%）という結果であった。

心理学科・実践心理学科は、正規の職員・従業員38名（66.7%）、契約社員・非常勤職員6名（10.5%）、パート・アルバイト5名（8.8%）という結果であった。

表10-11-3 学科別による大学卒業時の雇用形態

問10. 大学卒業後から現在に至る職歴：1. 大学卒業時の進路：雇用形態		社会福祉学科	社会学科・人間社会学科	心理学科・実践心理学科	合 計
経営者	件 数	2	0	1	3
	比 率	0.2%	0.0%	1.8%	0.3%
会社・団体等の役員（管理職）	件 数	13	0	0	13
	比 率	1.3%	0.0%	0.0%	1.1%
正規の職員・従業員	件 数	840	73	38	951
	比 率	85.5%	74.5%	66.7%	83.6%
派遣社員	件 数	2	3	1	6
	比 率	0.2%	3.1%	1.8%	0.5%
契約社員・非常勤職員	件 数	69	6	6	81
	比 率	7.0%	6.1%	10.5%	7.1%
パート・アルバイト	件 数	25	10	5	40
	比 率	2.5%	10.2%	8.8%	3.5%
嘱託職員	件 数	4	0	1	5
	比 率	0.4%	0.0%	1.8%	0.4%
自営業の手伝い	件 数	4	0	0	4
	比 率	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%
その他	件 数	10	1	1	12
	比 率	1.0%	1.0%	1.8%	1.1%
進学への回答	件 数	13	5	4	22
	比 率	1.3%	5.1%	7.0%	1.9%
合 計	件 数	982	98	57	1,137
	比 率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問11 在学中、あるいは大学卒業後に取得した免許・資格について

目 次

- 問11-1 結果の概要
- 問11-2 取得した資格の種類と取得時期
- 問11-3 本学で取得できる免許とそれ以外について
- 問11-4 性別による結果
- 問11-5 卒業年別による結果
- 問11-6 学部別による結果
- 問11-7 学科別による結果
- 問11-8 その他取得した免許の概要

問11-1 結果の概要

在学中、あるいは卒業後に取得した免許・資格については、以下の19の選択肢が設定された。加えて多くの者が履歴書に記入する「運転免許」は、混乱がないように20番目に加えた。その他の資格として記述欄を2つ設けた。

問11-1 取得した免許・資格の選択肢一覧

1. 社会福祉士	12. ホームヘルパー
2. 精神保健福祉士	13. 幼稚園教諭
3. 保育士	14. 小学校教諭
4. 社会教育主事	15. 中学校教諭
5. 図書館司書	16. 高等学校教諭
6. 認定心理士	17. 養護学校（特別支援学校）教諭
7. 福祉心理士	18. 盲学校又は聾学校（特別支援学校）教諭
8. 産業カウンセラー	19. PT・OT・STのどれか
9. 社会調査士	20. 運転免許
10. 介護福祉士	21. その他（1）
11. ケアマネージャー	22. その他（2）

問11-2 取得した資格の種類と取得時期

表11-2および図11-2より、在学中、卒業後を合計して取得率が高かった資格としては、高等学校教諭（42.7%）、中学校教諭（42.6%）、社会教育主事（43.2%）、社会福祉士（42.7%）と続いた。

在学中の取得率が高かったものは、中学校教員免許（40.1%）、高等学校教員免許（39.8%）をはじめ、社会教育主事（38.7%）、特別支援学校（33.8%）といった教育系の資格が中心であった。

一方、卒業後に取得率が高い傾向にあったものは、ケアマネージャー（27.0%）、社会福祉士（23.1%）、介護福祉士（23.0%）、ホームヘルパー（17.9%）といった福祉系の資格であった。

また、運転免許の取得率は、93.6%と高く、うち約7割は、在学中に運転免許を取得していた。

表11-2 取得した資格と取得時期：取得時期

問11. 資格取得時期：取得時期		在学中	卒業後	資格なし	合 計
社会福祉士	件 数	154	181	449	784
	比 率	19.6%	23.1%	57.3%	100.0%
精神保健福祉士	件 数	17	54	577	648
	比 率	2.6%	8.3%	89.0%	100.0%
保育士	件 数	67	36	545	648
	比 率	10.3%	5.6%	84.1%	100.0%
社会教育主事	件 数	288	27	430	745
	比 率	38.7%	3.6%	57.7%	100.0%
図書館司書	件 数	60	8	563	631
	比 率	9.5%	1.3%	89.2%	100.0%
認定心理士	件 数	20	24	580	624
	比 率	3.2%	3.8%	92.9%	100.0%
福祉心理士	件 数	1	1	602	604
	比 率	0.2%	0.2%	99.7%	100.0%
産業カウンセラー	件 数	1	9	599	609
	比 率	0.2%	1.5%	98.4%	100.0%
社会調査士	件 数	11	2	592	605
	比 率	1.8%	0.3%	97.9%	100.0%
介護福祉士	件 数	4	154	513	671
	比 率	0.6%	23.0%	76.5%	100.0%
ケアマネージャー	件 数	0	188	508	696
	比 率	0.0%	27.0%	73.0%	100.0%
ホームヘルパー	件 数	112	124	458	694
	比 率	16.1%	17.9%	66.0%	100.0%
幼稚園教諭	件 数	2	11	594	607
	比 率	0.3%	1.8%	97.9%	100.0%
小学校教諭	件 数	11	61	571	643
	比 率	1.7%	9.5%	88.8%	100.0%
中学校教諭	件 数	319	20	456	795
	比 率	40.1%	2.5%	57.4%	100.0%
高等学校教諭	件 数	317	23	457	797
	比 率	39.8%	2.9%	57.3%	100.0%
養護学校 (特別支援学校) 教諭	件 数	261	22	489	772
	比 率	33.8%	2.8%	63.3%	100.0%
盲学校又は聾学校 (特別支援学校) 教諭	件 数	5	15	590	610
	比 率	0.8%	2.5%	96.7%	100.0%
PT・OT・STのどれか	件 数	0	6	592	598
	比 率	0.0%	1.0%	99.0%	100.0%
運転免許	件 数	650	199	58	907
	比 率	71.7%	21.9%	6.4%	100.0%
その他 (1)	件 数	46	111	82	239
	比 率	19.2%	46.4%	34.3%	100.0%
その他 (2)	件 数	12	32	81	125
	比 率	9.6%	25.6%	64.8%	100.0%

問11-3 本学で取得できる免許とそれ以外について

現在、本学で取得可能な免許は、表11-3-1の表の通りである。また、それ以外の資格については、任用資格（表11-3-2）、受験資格が得られる資格（表11-3-3）、また、キャリア支援室が開催する講座、正課外講座などで取得できる資格（表11-3-4）、およびそれ以外の免許・資格をその他の資格（表11-3-5）として記載した。

図11-2 取得した資格と取得時期：取得時期



表11-3-1 本学で取得可能な資格

3. 保育士
4. 社会教育主事
5. 図書館司書
6. 認定心理士
9. 社会調査士
13. 幼稚園教諭
14. 小学校教諭
15. 中学校教諭
16. 高等学校教諭
17. 養護学校（特別支援学校）教諭

表11-3-2 任用資格

社会福祉主事
知的障害者福祉司
児童指導員

表11-3-3 受験資格が得られる資格

1. 社会福祉士国家試験
2. 精神保健福祉士国家試験
7. 福祉心理士
8. 産業カウンセラー

表11-3-4 課外講座を受講あるいは、当該団体の試験に合格することにより取得可能な資格

介護職員初任者研修
秘書検定（準1級・2級）
3級ファイナンシャル・プランニング技能士
マイクロソフトオフィススペシャリスト（Word、Excel）

表11-3-5 その他の資格

10. 介護福祉士
11. ケアマネージャー
12. ホームヘルパー
18. 盲学校又は聾学校（特別支援学校）教諭
19. PT・OT・ST
20. 運転免許

問11-4 性別による結果

性別を属性とするクロス集計の結果（表11-4）では、ホームヘルパー、ケアマネージャー、保育士、その他（１）（２）の取得時期に男女差が見られたが、それ以外の資格はおおむね取得時期に男女差は見られなかった。

男女差が見られたホームヘルパーは、男性の取得率が19.9%（在学中9.5%卒業後10.4%）であったのに対し、女性は、39.7%（在学中18.7%卒業後21.0%）となり、女性の方が19.8ポイント高くなっていた。逆に、ケアマネージャーは、男性の取得率が34.7%であったのに対し、女性は、23.4%となり、男性の方が11.3ポイント高くなっていた。ケアマネージャーは卒業後に取得する資格である。

保育士は、男性の取得率が2.8%（在学中1.7%卒業後1.1%）であったのに対し、女性は、20.0%（在学中13.7%卒業後7.3%）となり、女性の方が19.2ポイント高くなっていた。

また、その他（１）（２）の取得状況は、2つめの資格の取得率は、男性の取得率が20.0%（在学中2.5%卒業後17.5%）であったのに対し、女性は、42.3%（在学中12.9%卒業後29.4%）となり、女性の方が22.3ポイント高くなっていた。女性の方が、在学中も卒業後も積極的に2つめの資格を取得している様子がうかがえた。その他の資格の詳細は、後述する。

表11-4 性別による結果（その1）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
社会福祉士	男性	件 数	41	67	146	254
		比 率	16.1%	26.4%	57.5%	100.0%
	女性	件 数	113	114	302	529
		比 率	21.4%	21.6%	57.1%	100.0%
精神保健福祉士	男性	件 数	2	20	175	197
		比 率	1.0%	10.2%	88.8%	100.0%
	女性	件 数	15	34	401	450
		比 率	3.3%	7.6%	89.1%	100.0%
保育士	男性	件 数	3	2	174	179
		比 率	1.7%	1.1%	97.2%	100.0%
	女性	件 数	64	34	370	468
		比 率	13.7%	7.3%	79.1%	100.0%
社会教育主事	男性	件 数	86	11	129	226
		比 率	38.1%	4.9%	57.1%	100.0%
	女性	件 数	201	16	300	517
		比 率	38.9%	3.1%	58.0%	100.0%
図書館司書	男性	件 数	12	1	172	185
		比 率	6.5%	0.5%	93.0%	100.0%
	女性	件 数	48	7	390	445
		比 率	10.8%	1.6%	87.6%	100.0%
認定心理士	男性	件 数	4	5	176	185
		比 率	2.2%	2.7%	95.1%	100.0%
	女性	件 数	16	19	403	438
		比 率	3.7%	4.3%	92.0%	100.0%

表11-4 性別による結果（その2）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
福祉心理士	男性	件 数	0	0	179	179
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	女性	件 数	1	1	422	424
		比 率	0.2%	0.2%	99.5%	100.0%
産業カウンセラー	男性	件 数	0	2	179	181
		比 率	0.0%	1.1%	98.9%	100.0%
	女性	件 数	1	7	419	427
		比 率	0.2%	1.6%	98.1%	100.0%
社会調査士	男性	件 数	4	1	176	181
		比 率	2.2%	0.6%	97.2%	100.0%
	女性	件 数	6	1	416	423
		比 率	1.4%	0.2%	98.3%	100.0%
介護福祉士	男性	件 数	0	39	163	202
		比 率	0.0%	19.3%	80.7%	100.0%
	女性	件 数	4	115	349	468
		比 率	0.9%	24.6%	74.6%	100.0%
ケアマネージャー	男性	件 数	0	78	147	225
		比 率	0.0%	34.7%	65.3%	100.0%
	女性	件 数	0	110	360	470
		比 率	0.0%	23.4%	76.6%	100.0%
ホームヘルパー	男性	件 数	19	21	161	201
		比 率	9.5%	10.4%	80.1%	100.0%
	女性	件 数	92	103	296	491
		比 率	18.7%	21.0%	60.3%	100.0%
幼稚園教諭	男性	件 数	0	1	178	179
		比 率	0.0%	0.6%	99.4%	100.0%
	女性	件 数	2	10	415	427
		比 率	0.5%	2.3%	97.2%	100.0%
小学校教諭	男性	件 数	2	17	170	189
		比 率	1.1%	9.0%	89.9%	100.0%
	女性	件 数	9	44	400	453
		比 率	2.0%	9.7%	88.3%	100.0%
中学校教諭	男性	件 数	100	6	132	238
		比 率	42.0%	2.5%	55.5%	100.0%
	女性	件 数	219	14	323	556
		比 率	39.4%	2.5%	58.1%	100.0%
高等学校教諭	男性	件 数	103	9	130	242
		比 率	42.6%	3.7%	53.7%	100.0%
	女性	件 数	214	14	326	554
		比 率	38.6%	2.5%	58.8%	100.0%
養護学校(特別支援学校)教諭	男性	件 数	70	6	148	224
		比 率	31.3%	2.7%	66.1%	100.0%
	女性	件 数	191	16	340	547
		比 率	34.9%	2.9%	62.2%	100.0%
盲学校又は聾学校（ ）教諭	男性	件 数	1	7	174	182
		比 率	0.5%	3.8%	95.6%	100.0%
	女性	件 数	4	8	415	427
		比 率	0.9%	1.9%	97.2%	100.0%
PT・OT・STのどれか	男性	件 数	0	3	175	178
		比 率	0.0%	1.7%	98.3%	100.0%
	女性	件 数	0	3	416	419
		比 率	0.0%	0.7%	99.3%	100.0%

表11-4 性別による結果（その3）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
運転免許	男性	件 数	203	52	18	273
		比 率	74.4%	19.0%	6.6%	100.0%
	女性	件 数	446	147	40	633
		比 率	70.5%	23.2%	6.3%	100.0%
その他（1）	男性	件 数	10	37	31	78
		比 率	12.8%	47.4%	39.7%	100.0%
	女性	件 数	36	73	51	160
		比 率	22.5%	45.6%	31.9%	100.0%
その他（2）	男性	件 数	1	7	32	40
		比 率	2.5%	17.5%	80.0%	100.0%
	女性	件 数	11	25	49	85
		比 率	12.9%	29.4%	57.6%	100.0%

問11-5 卒業年別による結果

卒業年を属性とするクロス集計の結果（表11-5）では、卒業年（卒期）が進むにつれて、在学中の取得率が上昇した資格は、ホームヘルパーであった。逆に、卒業年（卒期）が進むにつれて在学中の取得率が低下していた資格は、社会教育主事、中・高等学校教諭、特別支援学校教諭、小学校教諭といった教育系の資格に顕著であった。

一方、卒業年が進むにつれて、卒業後の取得率が上昇した資格は、ほとんどみられなかった。逆に取得率の低下が顕著なものは、介護福祉士やケアマネージャー、小学校教諭であった。

また、注目するものに、37期～45期の学生によるその他（1）（2）の資格を在学中の取得（その他（1）は、37.9%その他（2）は18.2%）が多いことが特徴的であった。

表11-5 卒業年別による結果（その1）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
社会福祉士	卒期1期生～卒期9期生	件 数	30	10	45	85
		比 率	35.3%	11.8%	52.9%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	42	48	66	156
		比 率	26.9%	30.8%	42.3%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	12	55	97	164
		比 率	7.3%	33.5%	59.1%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	22	51	106	179
		比 率	12.3%	28.5%	59.2%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	47	15	132	194
		比 率	24.2%	7.7%	68.0%	100.0%
精神保健福祉士	卒期1期生～卒期9期生	件 数	0	2	61	63
		比 率	0.0%	3.2%	96.8%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	2	9	92	103
		比 率	1.9%	8.7%	89.3%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	4	23	118	145
		比 率	2.8%	15.9%	81.4%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	5	16	137	158
		比 率	3.2%	10.1%	86.7%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	6	4	164	174
		比 率	3.4%	2.3%	94.3%	100.0%

表11-5 卒業年別による結果（その2）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
保育士	卒期1期生～卒期9期生	件 数	3	8	51	62
		比 率	4.8%	12.9%	82.3%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	12	6	86	104
		比 率	11.5%	5.8%	82.7%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	15	7	117	139
		比 率	10.8%	5.0%	84.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	16	8	135	159
		比 率	10.1%	5.0%	84.9%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	20	7	152	179
		比 率	11.2%	3.9%	84.9%	100.0%
社会教育主事	卒期1期生～卒期9期生	件 数	27	6	45	78
		比 率	34.6%	7.7%	57.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	84	8	58	150
		比 率	56.0%	5.3%	38.7%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	84	5	77	166
		比 率	50.6%	3.0%	46.4%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	67	3	100	170
		比 率	39.4%	1.8%	58.8%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	22	5	147	174
		比 率	12.6%	2.9%	84.5%	100.0%
図書館司書	卒期1期生～卒期9期生	件 数	6	0	58	64
		比 率	9.4%	0.0%	90.6%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	7	2	93	102
		比 率	6.9%	2.0%	91.2%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	21	3	112	136
		比 率	15.4%	2.2%	82.4%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	11	1	140	152
		比 率	7.2%	0.7%	92.1%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	13	2	157	172
		比 率	7.6%	1.2%	91.3%	100.0%
認定心理士	卒期1期生～卒期9期生	件 数	0	1	61	62
		比 率	0.0%	1.6%	98.4%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	0	1	95	96
		比 率	0.0%	1.0%	99.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	0	0	128	128
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	8	7	139	154
		比 率	5.2%	4.5%	90.3%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	12	15	152	179
		比 率	6.7%	8.4%	84.9%	100.0%
福祉心理士	卒期1期生～卒期9期生	件 数	0	0	61	61
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	0	0	96	96
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	1	0	128	129
		比 率	0.8%	0.0%	99.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	0	0	146	146
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	0	1	166	167
		比 率	0.0%	0.6%	99.4%	100.0%

表11-5 卒業年別による結果（その3）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合計
産業カウンセラー	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	1	61	62
		比率	0.0%	1.6%	98.4%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	0	1	96	97
		比率	0.0%	1.0%	99.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	5	126	131
		比率	0.0%	3.8%	96.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	1	2	145	148
		比率	0.7%	1.4%	98.0%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	0	0	166	166
		比率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
社会調査士	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	0	61	61
		比率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	1	1	95	97
		比率	1.0%	1.0%	97.9%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	0	127	127
		比率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	1	0	146	147
		比率	0.7%	0.0%	99.3%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	9	1	158	168
		比率	5.4%	0.6%	94.0%	100.0%
介護福祉士	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	14	56	70
		比率	0.0%	20.0%	80.0%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	0	38	83	121
		比率	0.0%	31.4%	68.6%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	44	102	146
		比率	0.0%	30.1%	69.9%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	1	41	119	161
		比率	0.6%	25.5%	73.9%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	3	15	149	167
		比率	1.8%	9.0%	89.2%	100.0%
ケアマネジャー	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	17	55	72
		比率	0.0%	23.6%	76.4%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	0	56	71	127
		比率	0.0%	44.1%	55.9%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	61	95	156
		比率	0.0%	39.1%	60.9%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	0	47	119	166
		比率	0.0%	28.3%	71.7%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	0	5	164	169
		比率	0.0%	3.0%	97.0%	100.0%
ホームヘルパー	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	16	56	72
		比率	0.0%	22.2%	77.8%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	0	38	76	114
		比率	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	25	111	136
		比率	0.0%	18.4%	81.6%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	27	35	110	172
		比率	15.7%	20.3%	64.0%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	81	6	104	191
		比率	42.4%	3.1%	54.5%	100.0%
幼稚園教諭	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	2	59	61
		比率	0.0%	3.3%	96.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	0	2	96	98
		比率	0.0%	2.0%	98.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	1	128	129
		比率	0.0%	0.8%	99.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	1	2	144	147
		比率	0.7%	1.4%	98.0%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	1	4	162	167
		比率	0.6%	2.4%	97.0%	100.0%

表11-5 卒業年別による結果（その4）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合計
小学校教諭	卒期1期生～卒期9期生	件数	4	19	47	70
		比率	5.7%	27.1%	67.1%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	3	18	88	109
		比率	2.8%	16.5%	80.7%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	1	13	124	138
		比率	0.7%	9.4%	89.9%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	1	6	143	150
		比率	0.7%	4.0%	95.3%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	1	5	164	170
		比率	0.6%	2.9%	96.5%	100.0%
中学校教諭	卒期1期生～卒期9期生	件数	93	5	28	126
		比率	73.8%	4.0%	22.2%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	98	6	54	158
		比率	62.0%	3.8%	34.2%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	65	6	93	164
		比率	39.6%	3.7%	56.7%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	29	1	130	160
		比率	18.1%	0.6%	81.3%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	30	2	147	179
		比率	16.8%	1.1%	82.1%	100.0%
高等学校教諭	卒期1期生～卒期9期生	件数	86	6	32	124
		比率	69.4%	4.8%	25.8%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	92	7	55	154
		比率	59.7%	4.5%	35.7%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	79	7	87	173
		比率	45.7%	4.0%	50.3%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	25	1	133	159
		比率	15.7%	0.6%	83.6%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	32	1	146	179
		比率	17.9%	0.6%	81.6%	100.0%
養護学校（特別支援学校）教諭	卒期1期生～卒期9期生	件数	67	5	42	114
		比率	58.8%	4.4%	36.8%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	79	6	62	147
		比率	53.7%	4.1%	42.2%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	70	7	93	170
		比率	41.2%	4.1%	54.7%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	19	1	136	156
		比率	12.2%	0.6%	87.2%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	23	2	152	177
		比率	13.0%	1.1%	85.9%	100.0%
盲学校又は聾学校（々）教諭	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	7	57	64
		比率	0.0%	10.9%	89.1%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	1	4	94	99
		比率	1.0%	4.0%	94.9%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	1	2	125	128
		比率	0.8%	1.6%	97.7%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	1	0	146	147
		比率	0.7%	0.0%	99.3%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	2	1	163	166
		比率	1.2%	0.6%	98.2%	100.0%
PT・OT・STのどれか	卒期1期生～卒期9期生	件数	0	0	59	59
		比率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件数	0	1	96	97
		比率	0.0%	1.0%	99.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件数	0	1	127	128
		比率	0.0%	0.8%	99.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件数	0	2	142	144
		比率	0.0%	1.4%	98.6%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件数	0	2	163	165
		比率	0.0%	1.2%	98.8%	100.0%

表11-5 卒業年別による結果（その5）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
運転免許	卒期1期生～卒期9期生	件 数	39	78	7	124
		比 率	31.5%	62.9%	5.6%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	117	56	10	183
		比 率	63.9%	30.6%	5.5%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	157	28	8	193
		比 率	81.3%	14.5%	4.1%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	172	22	11	205
		比 率	83.9%	10.7%	5.4%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	160	14	21	195
		比 率	82.1%	7.2%	10.8%	100.0%
その他（1）	卒期1期生～卒期9期生	件 数	5	11	11	27
		比 率	18.5%	40.7%	40.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	6	21	11	38
		比 率	15.8%	55.3%	28.9%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	5	27	13	45
		比 率	11.1%	60.0%	28.9%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	6	38	19	63
		比 率	9.5%	60.3%	30.2%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	24	13	28	65
		比 率	36.9%	20.0%	43.1%	100.0%
その他（2）	卒期1期生～卒期9期生	件 数	1	3	12	16
		比 率	6.3%	18.8%	75.0%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	0	6	9	15
		比 率	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	1	7	12	20
		比 率	5.0%	35.0%	60.0%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	2	8	20	30
		比 率	6.7%	26.7%	66.7%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	8	8	28	44
		比 率	18.2%	18.2%	63.6%	100.0%

問11-6 学部別による結果

学部を属性とするクロス集計の結果（表11-6）では、すべての学部において、在学中の運転免許の取得率は70%を超えていた。以下、運転免許以外の資格取得時期を学部別に述べていく。

社会福祉学部において、在学中に取得率が高かった資格は、中学校教諭（52.2%）、高等学校教諭（52.0%）、社会教育主事（46.6%）、養護学校（特別支援学校）（45.7%）社会福祉士（21.4%）であった。

社会学部において、在学中に取得率が高かった資格が、社会教育主事（33.7%）、ホームヘルパー（27.4%）、その他1（19.4%）、中学校教諭（17.3%）、高等学校教諭（14.7%）であった。

総合福祉学部において、在学中に取得率が高かった資格は、ホームヘルパー（34.2%）、その他1（34.1%）、その他2（21.4%）社会福祉士（20.9%）養護学校（特別支援学校）（11.0%）であった。

一方、社会福祉学部において、卒業後に取得率が高かった資格は、その他1（50.8%）に続いて、ケアマネージャー（34.7%）、その他2（39.8%）、介護福祉士（27.1%）、社会福祉士（26.2%）であった。

社会学部において、卒業後に取得率が高かった資格は、その他 1（55.2%）、その他 2（31.3%）、社会福祉士（25.7%）、介護福祉士（25.1%）、ケアマネージャー（23.0%）、ホームヘルパー（26.2%）であった。

総合福祉学部において、卒業後に取得率が高かった資格は、その他 1（19.5%）、その他 2（10.7%）、認定心理士（10.6%）、社会福祉士（5.5%）であった。

表11-6 学部別による結果（その1）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
社会福祉士	社会福祉学部	件 数	104	127	254	485
		比 率	21.4%	26.2%	52.4%	100.0%
	社会学部	件 数	26	48	113	187
		比 率	13.9%	25.7%	60.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	23	6	81	110
		比 率	20.9%	5.5%	73.6%	100.0%
精神保健福祉士	社会福祉学部	件 数	11	36	331	378
		比 率	2.9%	9.5%	87.6%	100.0%
	社会学部	件 数	4	17	151	172
		比 率	2.3%	9.9%	87.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	2	1	94	97
		比 率	2.1%	1.0%	96.9%	100.0%
保育士	社会福祉学部	件 数	43	26	310	379
		比 率	11.3%	6.9%	81.8%	100.0%
	社会学部	件 数	17	7	143	167
		比 率	10.2%	4.2%	85.6%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	7	3	91	101
		比 率	6.9%	3.0%	90.1%	100.0%
社会教育主事	社会福祉学部	件 数	216	20	228	464
		比 率	46.6%	4.3%	49.1%	100.0%
	社会学部	件 数	60	4	114	178
		比 率	33.7%	2.2%	64.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	11	3	87	101
		比 率	10.9%	3.0%	86.1%	100.0%
図書館司書	社会福祉学部	件 数	37	5	323	365
		比 率	10.1%	1.4%	88.5%	100.0%
	社会学部	件 数	15	1	151	167
		比 率	9.0%	0.6%	90.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	8	2	88	98
		比 率	8.2%	2.0%	89.8%	100.0%
認定心理士	社会福祉学部	件 数	3	5	344	352
		比 率	0.9%	1.4%	97.7%	100.0%
	社会学部	件 数	7	8	152	167
		比 率	4.2%	4.8%	91.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	10	11	83	104
		比 率	9.6%	10.6%	79.8%	100.0%
福祉心理士	社会福祉学部	件 数	1	0	347	348
		比 率	0.3%	0.0%	99.7%	100.0%
	社会学部	件 数	0	1	158	159
		比 率	0.0%	0.6%	99.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	0	0	96	96
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%

表11-6 学部別による結果 (その2)

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
産業カウンセラー	社会福祉学部	件 数	0	8	345	353
		比 率	0.0%	2.3%	97.7%	100.0%
	社会学部	件 数	1	1	157	159
		比 率	0.6%	0.6%	98.7%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	0	0	96	96
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
社会調査士	社会福祉学部	件 数	1	1	345	347
		比 率	0.3%	0.3%	99.4%	100.0%
	社会学部	件 数	4	0	157	161
		比 率	2.5%	0.0%	97.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	6	1	89	96
		比 率	6.3%	1.0%	92.7%	100.0%
介護福祉士	社会福祉学部	件 数	1	109	292	402
		比 率	0.2%	27.1%	72.6%	100.0%
	社会学部	件 数	2	43	126	171
		比 率	1.2%	25.1%	73.7%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	1	1	94	96
		比 率	1.0%	1.0%	97.9%	100.0%
ケアマネージャー	社会福祉学部	件 数	0	147	277	424
		比 率	0.0%	34.7%	65.3%	100.0%
	社会学部	件 数	0	40	134	174
		比 率	0.0%	23.0%	77.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	0	1	96	97
		比 率	0.0%	1.0%	99.0%	100.0%
ホームヘルパー	社会福祉学部	件 数	22	88	284	394
		比 率	5.6%	22.3%	72.1%	100.0%
	社会学部	件 数	51	33	102	186
		比 率	27.4%	17.7%	54.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	38	2	71	111
		比 率	34.2%	1.8%	64.0%	100.0%
幼稚園教諭	社会福祉学部	件 数	1	5	344	350
		比 率	0.3%	1.4%	98.3%	100.0%
	社会学部	件 数	0	4	156	160
		比 率	0.0%	2.5%	97.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	1	2	93	96
		比 率	1.0%	2.1%	96.9%	100.0%
小学校教諭	社会福祉学部	件 数	11	52	320	383
		比 率	2.9%	13.6%	83.6%	100.0%
	社会学部	件 数	0	5	156	161
		比 率	0.0%	3.1%	96.9%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	0	4	94	98
		比 率	0.0%	4.1%	95.9%	100.0%
中学校教諭	社会福祉学部	件 数	270	18	229	517
		比 率	52.2%	3.5%	44.3%	100.0%
	社会学部	件 数	30	0	143	173
		比 率	17.3%	0.0%	82.7%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	17	2	84	103
		比 率	16.5%	1.9%	81.6%	100.0%
高等学校教諭	社会福祉学部	件 数	272	22	229	523
		比 率	52.0%	4.2%	43.8%	100.0%
	社会学部	件 数	25	0	145	170
		比 率	14.7%	0.0%	85.3%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	18	1	83	102
		比 率	17.6%	1.0%	81.4%	100.0%

表11-6 学部別による結果（その3）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
養護学校（特別支援学校）教諭	社会福祉学部	件 数	230	19	254	503
		比 率	45.7%	3.8%	50.5%	100.0%
	社会学部	件 数	18	1	148	167
		比 率	10.8%	0.6%	88.6%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	11	2	87	100
		比 率	11.0%	2.0%	87.0%	100.0%
盲学校又は聾学校（ ）教諭	社会福祉学部	件 数	3	15	336	354
		比 率	0.8%	4.2%	94.9%	100.0%
	社会学部	件 数	1	0	158	159
		比 率	0.6%	0.0%	99.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	1	0	95	96
		比 率	1.0%	0.0%	99.0%	100.0%
PT・OT・STのどれか	社会福祉学部	件 数	0	2	343	345
		比 率	0.0%	0.6%	99.4%	100.0%
	社会学部	件 数	0	4	154	158
		比 率	0.0%	2.5%	97.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	0	0	94	94
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
運転免許	社会福祉学部	件 数	385	167	31	583
		比 率	66.0%	28.6%	5.3%	100.0%
	社会学部	件 数	178	24	14	216
		比 率	82.4%	11.1%	6.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	84	7	13	104
		比 率	80.8%	6.7%	12.5%	100.0%
その他（1）	社会福祉学部	件 数	18	66	46	130
		比 率	13.8%	50.8%	35.4%	100.0%
	社会学部	件 数	13	37	17	67
		比 率	19.4%	55.2%	25.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	14	8	19	41
		比 率	34.1%	19.5%	46.3%	100.0%
その他（2）	社会福祉学部	件 数	3	19	43	65
		比 率	4.6%	29.2%	66.2%	100.0%
	社会学部	件 数	3	10	19	32
		比 率	9.4%	31.3%	59.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	6	3	19	28
		比 率	21.4%	10.7%	67.9%	100.0%

問11-7 学科別による結果

表11-7より、学科を属性とするクロス集計の結果では、社会福祉学科に在学中に取得率が高かった資格は、中学校教諭（44.1%）、高等学校教諭（43.7%）、社会教育主事（41.7%）、養護学校（特別支援学校）（38.9%）社会福祉士（21.9%）であった。

社会学科・人間社会学科において、在学中に取得率が高かった資格は、社会教育主事（29.6%）、ホームヘルパー（21.1%）、中学校教諭（15.9%）、高等学校教諭（15.9%）、社会福祉士（14.7%）であった。

心理学科・実践心理学科において、在学中に取得率が高かった資格は、認定心理士（22.6%）、ホームヘルパー（19.6%）、図書館司書（14.6%）、社会福祉士（2.6%）、幼稚園教諭（2.6%）であった。

一方、社会福祉学科において、卒業後に取得率が高かった資格は、ケアマネージャー（30.7%）、介護福祉士（26.1%）、社会福祉士（26.0%）であった。

社会学科・人間社会学科において卒業後取得率が高かった資格は、ホームヘルパー（12.7%）、介護福祉士（7.7%）、社会福祉士（5.7%）であった。

心理学科・実践心理学科において卒業後取得率が高かった資格は、認定心理士（30.2%）、図書館司書（4.9%）社会福祉士（2.6%）であった。

すべての学科において、運転免許（社会福祉学科93.3%、社会学科・人間社会学科83.9%、心理学科・実践心理学科83.0%）とその他の資格（その他（1）社会福祉学科67.6%、社会学科・人間社会学科61.3%、心理学科・実践心理学科54.5%、その他（2）社会福祉学科37.2%、社会学科・人間社会学科33.3%、心理学科・実践心理学科23.1%）の取得率が高い傾向にあった。

表11-7 学科別による結果（その1）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
社会福祉士	社会福祉学科	件 数	147	175	350	672
		比 率	21.9%	26.0%	52.1%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	5	4	61	70
		比 率	7.1%	5.7%	87.1%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	1	1	37	39
		比 率	2.6%	2.6%	94.9%	100.0%
精神保健福祉士	社会福祉学科	件 数	16	54	470	540
		比 率	3.0%	10.0%	87.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	1	0	65	66
		比 率	1.5%	0.0%	98.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	0	39	39
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
保育士	社会福祉学科	件 数	67	34	439	540
		比 率	12.4%	6.3%	81.3%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	1	65	66
		比 率	0.0%	1.5%	98.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	1	38	39
		比 率	0.0%	2.6%	97.4%	100.0%
社会教育主事	社会福祉学科	件 数	262	26	341	629
		比 率	41.7%	4.1%	54.2%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	21	0	50	71
		比 率	29.6%	0.0%	70.4%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	3	1	38	42
		比 率	7.1%	2.4%	90.5%	100.0%
図書館司書	社会福祉学科	件 数	46	5	466	517
		比 率	8.9%	1.0%	90.1%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	8	1	61	70
		比 率	11.4%	1.4%	87.1%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	6	2	33	41
		比 率	14.6%	4.9%	80.5%	100.0%
認定心理士	社会福祉学科	件 数	8	8	487	503
		比 率	1.6%	1.6%	96.8%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	0	65	65
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	12	16	25	53
		比 率	22.6%	30.2%	47.2%	100.0%

表11-7 学科別による結果（その2）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
福祉心理士	社会福祉学科	件 数	1	0	495	496
		比 率	0.2%	0.0%	99.8%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	0	65	65
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	1	39	40
		比 率	0.0%	2.5%	97.5%	100.0%
産業カウンセラー	社会福祉学科	件 数	1	9	492	502
		比 率	0.2%	1.8%	98.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	0	65	65
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	0	39	39
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
社会調査士	社会福祉学科	件 数	1	1	493	495
		比 率	0.2%	0.2%	99.6%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	10	1	57	68
		比 率	14.7%	1.5%	83.8%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	0	39	39
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
介護福祉士	社会福祉学科	件 数	4	147	413	564
		比 率	0.7%	26.1%	73.2%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	5	60	65
		比 率	0.0%	7.7%	92.3%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	1	39	40
		比 率	0.0%	2.5%	97.5%	100.0%
ケアマネジャー	社会福祉学科	件 数	0	181	408	589
		比 率	0.0%	30.7%	69.3%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	4	61	65
		比 率	0.0%	6.2%	93.8%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	1	38	39
		比 率	0.0%	2.6%	97.4%	100.0%
ホームヘルパー	社会福祉学科	件 数	88	114	372	574
		比 率	15.3%	19.9%	64.8%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	15	9	47	71
		比 率	21.1%	12.7%	66.2%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	9	0	37	46
		比 率	19.6%	0.0%	80.4%	100.0%
幼稚園教諭	社会福祉学科	件 数	1	10	488	499
		比 率	0.2%	2.0%	97.8%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	1	65	66
		比 率	0.0%	1.5%	98.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	1	0	38	39
		比 率	2.6%	0.0%	97.4%	100.0%
小学校教諭	社会福祉学科	件 数	11	56	467	534
		比 率	2.1%	10.5%	87.5%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	3	63	66
		比 率	0.0%	4.5%	95.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	1	39	40
		比 率	0.0%	2.5%	97.5%	100.0%
中学校教諭	社会福祉学科	件 数	300	20	360	680
		比 率	44.1%	2.9%	52.9%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	11	0	58	69
		比 率	15.9%	0.0%	84.1%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	5	0	37	42
		比 率	11.9%	0.0%	88.1%	100.0%

表11-7 学科別による結果（その3）

問11. 資格取得時期：取得時期			在学中	卒業後	資格なし	合 計
高等学校教諭	社会福祉学科	件 数	298	22	362	682
		比 率	43.7%	3.2%	53.1%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	11	1	57	69
		比 率	15.9%	1.4%	82.6%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	5	0	37	42
		比 率	11.9%	0.0%	88.1%	100.0%
養護学校（特別支援学校）教諭	社会福祉学科	件 数	258	21	384	663
		比 率	38.9%	3.2%	57.9%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	1	65	66
		比 率	0.0%	1.5%	98.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	0	39	39
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
盲学校又は聾学校（々）教諭	社会福祉学科	件 数	5	15	483	503
		比 率	1.0%	3.0%	96.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	0	65	65
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	0	39	39
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
PT・OT・STの どれか	社会福祉学科	件 数	0	5	487	492
		比 率	0.0%	1.0%	99.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	0	1	64	65
		比 率	0.0%	1.5%	98.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	0	0	38	38
		比 率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
運転免許	社会福祉学科	件 数	548	185	36	769
		比 率	71.3%	24.1%	4.7%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	62	11	14	87
		比 率	71.3%	12.6%	16.1%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	36	3	8	47
		比 率	76.6%	6.4%	17.0%	100.0%
その他（1）	社会福祉学科	件 数	29	96	60	185
		比 率	15.7%	51.9%	32.4%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	7	12	12	31
		比 率	22.6%	38.7%	38.7%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	9	3	10	22
		比 率	40.9%	13.6%	45.5%	100.0%
その他（2）	社会福祉学科	件 数	8	27	59	94
		比 率	8.5%	28.7%	62.8%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	1	5	12	18
		比 率	5.6%	27.8%	66.7%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	3	0	10	13
		比 率	23.1%	0.0%	76.9%	100.0%

問11-8 その他取得した免許の概要

その他の資格は、表11-8に示されている通りである。

その他の資格については、医療、福祉、教育に関する専門職資格を中心に、事務処理上欠かせなくなっているMOS資格・パソコン資格取得にその特徴を見ることが出来る。

その他の資格は、卒業後に取得するケースが多く、卒業後1つめの資格を取得したものは、46.5%、2つめの資格については、24.6%が取得していた。在学中においても、19.2%の学生がその他の資格を1つは取得し、2つめの資格についても9.2%の学生が取得していた。

表11-8 その他取得した免許と資格 () 内数値は記述度数である

サービス介助士 (2)	児童厚生指導員 (3)	臨床心理士
食品衛生管理者 (6)	社会福祉士実習指導者	認知症ケア専門士(2)
医療事務関連 (6)	柔道整復士	福祉主事
調理師 (3)	介護事務(2)	日本語教育
初級シスアド	キャンプディレクター	販売士
真宗大谷派教師	障害者スポーツ指導員	ビジネス実務法務
福祉住環境コーディネーター (7)	簿記 (3)	レク・インストラクター
日赤 救急員	樹医	児童福祉士 (2)
手話通訳士 (3)	漢字検定	看護士 (2)
大型・特殊免許 (3)	防火管理者 (5)	鍼師・灸師 (2)
カラーコーディネーター	キャリアカウンセラー	歩行訓練士
キャリアコンサルタント	アートセラピスト	不動産コンサルティング・マスター
ファイナンシャルプランナー (2)	税務相談員	ダイビング
食品衛生責任者	宅地建物取引士 (2)	中国語検定
ガイドヘルパー	教育カウンセラー	自動車査定士
マイクロソフトオフィススペシャリスト(10)	主任ケアマネージャー	あん摩・マッサージ指圧師
その他 PC関連 (2)	小型船舶免許	保健師
特別管理産業廃棄物管理責任者	潜水士	認定補聴器技能者
臨床発達心理士	認定眼鏡士	児童発達支援管理者
サービス管理責任者	准看護士 (2)	貿易実務検定
認知症音楽体操療法	損害保険取扱者	診療情報管理士
秘書技能検定 (5)	TOEIC	医科医療事務管理士
視覚障害者ガイドヘルパー	日本歯科医師会歯科助手	医療福祉環境アドバイザー
CAD	介護予防運動指導員	自衛消防技術認定
危険物取扱者	調剤薬局事務	その他 (4)
福祉用具専門相談員 (2)	英語検定 (2)	
行政書士	登録販売者	

問12 仕事について感じていること

目 次

- 問12-1 項目の選定
- 問12-2 結果の概要
- 問12-3 性別による結果
- 問12-4 卒業年別による結果
- 問12-5 学部別による結果
- 問12-6 学科別による結果

問12-1 項目の選定

「仕事について感じていること」として、以下17の質問項目が設定された。

質問項目としては、淑徳大学在学中の学びが仕事に生かされていると意識しているかどうかに関する項目として、項目1「大学で学んだ理論が仕事に活かされている」、項目2「実習・演習で学んだことが仕事に活かされている」、項目3「『実学』の精神が仕事に従事する中で生きている」、項目4「『共生』の理念が仕事に従事する中で生きている」、項目5「ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている」の5項目を選定した。

また、学祖の思想・理念に関する項目としては、項目12「『他者とともに生きる』ことを意識して仕事をしている」、項目13「仕事をする上で、周りの人に支えられていると思う」、項目14「仕事をするときは常に相手のことを考えている」の3項目を選定した。

それらに加えて、内閣府による平成24年版「子ども・若者白書：特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援の現状と課題」および厚生労働省、平成23年第7回「中高年者の生活に関する継続調査票」、および「第12回21世紀青年縦断調査【平成14年成年者】国民の生活に関する継続調査〔女性票〕〔男性票〕平成25年11月6日調査」を参考に、項目6「現在の仕事は自分に向いている」、項目7「自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である」、項目8「職場の人間関係は良い」、項目9「賃金・収入は自分の仕事に見合っている」、項目10「就業時間・休日等の労働条件には満足している」、項目11「自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている」の6項目を選定した。

また、独自に運営委員会での検討の結果、項目15「大学時代の仲間との繋がりが仕事に役立っている」、項目16「自分は人（社会）の役に立っている」、項目17「現在の仕事を長く続けたい」の3項目を加えた。

その結果、問12「仕事について感じていること」の調査項目は、合計17項目となった。回答方法は、各項目について〔思う：5〕から〔思わない：1〕までの5段階で考えて、当てはまる番号を1つ選択してもらった。

表12- 1 「仕事について感じていること」の項目一覧とカテゴリー

【大学での学びに関する項目】

1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている
4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている
5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている

【内閣府の調査項目】

6. 現在の仕事は自分に向いている
7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である
8. 職場の人間関係は良い
9. 賃金・収入は自分の仕事に見合っている
10. 就業時間・休日等の労働条件には満足している
11. 自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている

【学祖の思想・理念に関する項目】

12. 「他者とともに生きる」ことを意識して仕事している
13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている
14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている

【運営委員会選定項目】

15. 大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている
16. 自分は人（社会）の役に立っている
17. 現在の仕事を長く続けたい

問12- 2 結果の概要

17項目について、表12- 2 - 1に結果を示した。

「仕事について感じていること」について、設問ごとに最も回答数が多い項目をみてみると、次の通りであった。「1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている」の場合、「やや思う」で469人（40.7%）、「2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている」の場合、「やや思う」で406人（35.4%）、「3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている」の場合、「どちらでもない」で412人（36.1%）、「4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている」の場合、「やや思う」で425人（37.3%）、「5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている」の場合、「やや思う」で357人（39.6%）、「6. 現在の仕事は自分に向いている」の場合、「やや思う」で448人（39.0%）、「7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である」の場合、「やや思う」で454人（39.3%）、「8. 職場の人間関係は良い」の場合、「やや思う」で453人（39.4%）、「9. 賃金・収入は自分の仕事に見合っている」の場合、「やや思う」で371人（32.2%）、「10. 就業時間・休日等の労働条件には満足している」の場合、「やや思う」で370人（32.1%）、「11. 自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている」の場合、「やや思う」

で546人（47.6%）、「12. 「他者とともに生きる」ことを意識して仕事している」の場合、「やや思う」で471人（40.9%）、「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」の場合、「思う」で726人（63.0%）、「14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている。」の場合、「やや思う」で525人（45.7%）、「15. 大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている」の場合、「どちらでもない」で310人（27.0%）、「16. 自分は人（社会）の役に立っている」の場合、「やや思う」で521人（45.3%）、「17. 現在の仕事を長く続けたい」の場合、「思う」で428人（37.4%）であった。

表12-2-1 「仕事について感じていること」の17項目の結果

問12. 仕事について感じていること		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている	件 数	93	152	220	469	219	1,153
	比 率	8.1%	13.2%	19.1%	40.7%	19.0%	100.0%
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	件 数	118	136	232	406	256	1,148
	比 率	10.3%	11.8%	20.2%	35.4%	22.3%	100.0%
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	件 数	104	157	412	326	143	1,142
	比 率	9.1%	13.7%	36.1%	28.5%	12.5%	100.0%
4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	件 数	90	112	298	425	213	1,138
	比 率	7.9%	9.8%	26.2%	37.3%	18.7%	100.0%
5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている	件 数	52	52	167	357	274	902
	比 率	5.8%	5.8%	18.5%	39.6%	30.4%	100.0%
6. 現在の仕事は自分に向いている	件 数	28	52	198	448	423	1,149
	比 率	2.4%	4.5%	17.2%	39.0%	36.8%	100.0%
7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	件 数	29	59	190	454	422	1,154
	比 率	2.5%	5.1%	16.5%	39.3%	36.6%	100.0%
8. 職場の人間関係は良い	件 数	28	73	186	453	409	1,149
	比 率	2.4%	6.4%	16.2%	39.4%	35.6%	100.0%
9. 賃金・収入は自分の仕事に見合っている	件 数	94	171	275	371	242	1,153
	比 率	8.2%	14.8%	23.9%	32.2%	21.0%	100.0%
10. 就業時間・休日等の労働条件には満足している	件 数	97	178	188	370	318	1,151
	比 率	8.4%	15.5%	16.3%	32.1%	27.6%	100.0%
11. 自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている	件 数	27	59	294	546	222	1,148
	比 率	2.4%	5.1%	25.6%	47.6%	19.3%	100.0%
12. 「他者とともに生きる」ことを意識して仕事している	件 数	29	57	200	471	395	1,152
	比 率	2.5%	4.9%	17.4%	40.9%	34.3%	100.0%
13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている	件 数	4	9	52	362	726	1,153
	比 率	0.3%	0.8%	4.5%	31.4%	63.0%	100.0%
14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている	件 数	6	14	116	525	489	1,150
	比 率	0.5%	1.2%	10.1%	45.7%	42.5%	100.0%
15. 大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている	件 数	187	182	310	264	205	1,148
	比 率	16.3%	15.9%	27.0%	23.0%	17.9%	100.0%
16. 自分は人（社会）の役に立っている	件 数	31	51	299	521	247	1,149
	比 率	2.7%	4.4%	26.0%	45.3%	21.5%	100.0%
17. 現在の仕事を長く続けたい	件 数	61	91	227	338	428	1,145
	比 率	5.3%	7.9%	19.8%	29.5%	37.4%	100.0%

問12-2-2 「仕事について感じていること」の17項目の平均値

17項目の平均値について、表12-2-2に結果を示した。

表12-2-2 「仕事について感じていること」の平均値

	項 目	平均値
1	大学で学んだ理論が仕事に活かされている	3.49
2	実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	3.48
3	「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	3.22
4	「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	3.49
5	ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている	3.83
6	現在の仕事は自分に向いている	4.03
7	自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	4.02
8	職場の人間関係は良い	3.99
9	賃金・収入は自分の仕事に見合っている	3.43
10	就業時間・休日等の労働条件には満足している	3.55
11	自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている	3.76
12	「他者とともに生きる」ことを意識して仕事している	3.99
13	仕事をする上で、周りの人に支えられている	4.56
14	仕事をするときは常に相手のことを考えている	4.28
15	大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている	3.10
16	自分は人（社会）の役に立っている	3.79
17	現在の仕事を長く続けたい	3.86

※設問5は「ボランティア経験の有無」で「ある」と回答した人の平均値

問12-2-3 「仕事について感じていること」の平均値が高い項目

各項目の平均値を見ると、すべての項目において3.0以上となっていた。平均値が高い項目（4.0以上）を表12-2-3に示した。

表12-2-3 平均値が高い項目（4.0以上の項目）

	項 目	平均値
13	仕事をする上で、周りの人に支えられている	4.56
14	仕事をするときは常に相手のことを考えている	4.28
6	現在の仕事は自分に向いている	4.03
7	自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	4.02

平均値が高い項目（4.0以上）については、表12-2-3に示したとおり、「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」が4.56と最も高く、次いで「14. 仕事をするときに常に相手のことを考えている」が4.28と続いていた。

問12-2-4 「仕事について感じていること」のカテゴリー別の平均値

表12-2-4にカテゴリー別（大学での学びに関する項目・内閣府の調査項目・学祖の思想・理念に関する項目・運営委員会選定項目）の平均値を示した。

表12-2-4 「仕事について感じていること」の 카테고리別の平均値

	項 目	平均値	カテゴリー別の平均値
1	大学で学んだ理論が仕事に活かされている	3.49	3.42
2	実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	3.48	
3	「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	3.22	
4	「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	3.49	
5	ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている	3.83	
6	現在の仕事は自分に向いている	4.03	3.80
7	自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	4.02	
8	職場の人間関係は良い	3.99	
9	賃金・収入は自分の仕事に見合っている	3.43	
10	就業時間・休日等の労働条件には満足している	3.55	
11	自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている	3.76	4.28
12	「他者とともに生きる」ことを意識して仕事している	3.99	
13	仕事をする上で、周りの人に支えられている	4.56	
14	仕事をするときは常に相手のことを考えている	4.28	3.58
15	大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている	3.10	
16	自分は人（社会）の役に立っている	3.79	
17	現在の仕事を長く続けたい	3.86	

カテゴリー別の平均値については、表12-2-4に示したとおり、「学祖の思想・理念に関する項目」が4.28と最も高く、次いで「内閣府の調査項目」が3.80と続いていた。

問12-3 性別による結果

性別を属性とするクロス集計の結果を表12-3に示した。

表12-3 性別による結果（その1）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり思わない	どちらでもない	やや思う	思う	合 計
1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている	男性	件 数	39	57	81	149	63	389
		比 率	10.0%	14.7%	20.8%	38.3%	16.2%	100.0%
	女性	件 数	54	95	139	319	155	762
		比 率	7.1%	12.5%	18.2%	41.9%	20.3%	100.0%
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	男性	件 数	44	49	97	121	74	385
		比 率	11.4%	12.7%	25.2%	31.4%	19.2%	100.0%
	女性	件 数	73	87	135	285	181	761
		比 率	9.6%	11.4%	17.7%	37.5%	23.8%	100.0%
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	男性	件 数	36	61	134	113	40	384
		比 率	9.4%	15.9%	34.9%	29.4%	10.4%	100.0%
	女性	件 数	67	96	277	213	103	756
		比 率	8.9%	12.7%	36.6%	28.2%	13.6%	100.0%
4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	男性	件 数	35	47	94	146	62	384
		比 率	9.1%	12.2%	24.5%	38.0%	16.1%	100.0%
	女性	件 数	54	65	203	279	151	752
		比 率	7.2%	8.6%	27.0%	37.1%	20.1%	100.0%

表12-3 性別による結果（その2）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
5. ボランティア活動等の 学外体験が仕事に活かさ れている	男性	件 数	19	16	65	116	83	299
		比 率	6.4%	5.4%	21.7%	38.8%	27.8%	100.0%
	女性	件 数	33	36	102	241	190	602
		比 率	5.5%	6.0%	16.9%	40.0%	31.6%	100.0%
6. 現在の仕事は自分に向 いている	男性	件 数	10	12	64	138	162	386
		比 率	2.6%	3.1%	16.6%	35.8%	42.0%	100.0%
	女性	件 数	18	40	134	309	260	761
		比 率	2.4%	5.3%	17.6%	40.6%	34.2%	100.0%
7. 自分の能力が活かされ て、やりがいのある仕事 である	男性	件 数	9	14	65	141	161	390
		比 率	2.3%	3.6%	16.7%	36.2%	41.3%	100.0%
	女性	件 数	20	45	125	312	260	762
		比 率	2.6%	5.9%	16.4%	40.9%	34.1%	100.0%
8. 職場の人間関係は良い	男性	件 数	8	21	58	165	136	388
		比 率	2.1%	5.4%	14.9%	42.5%	35.1%	100.0%
	女性	件 数	20	52	127	288	272	759
		比 率	2.6%	6.9%	16.7%	37.9%	35.8%	100.0%
9. 賃金・収入は自分の仕 事に見合っている	男性	件 数	29	51	85	129	94	388
		比 率	7.5%	13.1%	21.9%	33.2%	24.2%	100.0%
	女性	件 数	65	119	190	241	148	763
		比 率	8.5%	15.6%	24.9%	31.6%	19.4%	100.0%
10. 就業時間・休日等の労 働条件には満足している	男性	件 数	32	56	55	119	126	388
		比 率	8.2%	14.4%	14.2%	30.7%	32.5%	100.0%
	女性	件 数	65	120	133	251	192	761
		比 率	8.5%	15.8%	17.5%	33.0%	25.2%	100.0%
11. 自分の仕事ぶりは職場 のみんなから認められて いる	男性	件 数	11	18	98	183	77	387
		比 率	2.8%	4.7%	25.3%	47.3%	19.9%	100.0%
	女性	件 数	16	40	196	363	144	759
		比 率	2.1%	5.3%	25.8%	47.8%	19.0%	100.0%
12. 「他者とともに生きる」 ことを意識して仕事して いる	男性	件 数	14	16	58	147	152	387
		比 率	3.6%	4.1%	15.0%	38.0%	39.3%	100.0%
	女性	件 数	15	41	142	322	243	763
		比 率	2.0%	5.4%	18.6%	42.2%	31.8%	100.0%
13. 仕事をする上で、周り の人に支えられている	男性	件 数	2	6	16	122	242	388
		比 率	0.5%	1.5%	4.1%	31.4%	62.4%	100.0%
	女性	件 数	2	3	36	239	483	763
		比 率	0.3%	0.4%	4.7%	31.3%	63.3%	100.0%
14. 仕事をするときは常に 相手のことを考えている。	男性	件 数	2	6	37	168	174	387
		比 率	0.5%	1.6%	9.6%	43.4%	45.0%	100.0%
	女性	件 数	4	8	78	357	314	761
		比 率	0.5%	1.1%	10.2%	46.9%	41.3%	100.0%
15. 大学時代の仲間との繋 がりがある仕事の役に立っ ている	男性	件 数	65	61	93	94	75	388
		比 率	16.8%	15.7%	24.0%	24.2%	19.3%	100.0%
	女性	件 数	121	121	217	170	129	758
		比 率	16.0%	16.0%	28.6%	22.4%	17.0%	100.0%
16. 自分は人（社会）の役 に立っている	男性	件 数	13	10	93	175	96	387
		比 率	3.4%	2.6%	24.0%	45.2%	24.8%	100.0%
	女性	件 数	18	40	206	345	151	760
		比 率	2.4%	5.3%	27.1%	45.4%	19.9%	100.0%
17. 現在の仕事を長く続け たい	男性	件 数	13	23	66	118	165	385
		比 率	3.4%	6.0%	17.1%	30.6%	42.9%	100.0%
	女性	件 数	48	68	161	219	262	758
		比 率	6.3%	9.0%	21.2%	28.9%	34.6%	100.0%

性別を属性とするクロス集計結果では、男女ともに最も高い項目は「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」であり、男性242人（62.4%）、女性483人（63.3%）であった。平均値の高い項目「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」「14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている」については、性別による違いはほとんど見られなかった。

男性の比率が高かったのは、「6. 現在の仕事は自分に向いている」「7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である」「8. 職場の人間関係は良い」「9. 賃金・収入は自分の仕事に見合っている」「10. 就業時間・休日等の労働条件には満足している」「16. 自分は人（社会）の役に立っている」「17. 現在の仕事を長く続けたい」の7項目であった。「内閣府の調査項目」と「運営委員会選定項目」については、男性の方が高い率を示していた。

女性の比率が高かったのは、「1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている」「2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている」「3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている」「4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている」「5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている」の5項目であった。「大学での学びに関する項目」については、女性の方が高い比率を示していた。

問12-4 卒業年別による結果

卒業年を属性とするクロス集計の結果を表12-4-1に示した。

表12-4-1 卒業年別による結果（その1）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	8	13	28	70	31	150
		比 率	5.3%	8.7%	18.7%	46.7%	20.7%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	19	27	59	95	37	237
		比 率	8.0%	11.4%	24.9%	40.1%	15.6%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	17	24	49	96	59	245
		比 率	6.9%	9.8%	20.0%	39.2%	24.1%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	24	43	40	99	45	251
		比 率	9.6%	17.1%	15.9%	39.4%	17.9%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	24	44	43	107	43	261
		比 率	9.2%	16.9%	16.5%	41.0%	16.5%	100.0%
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	10	12	27	60	39	148
		比 率	6.8%	8.1%	18.2%	40.5%	26.4%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	18	28	63	86	40	235
		比 率	7.7%	11.9%	26.8%	36.6%	17.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	17	28	50	83	65	243
		比 率	7.0%	11.5%	20.6%	34.2%	26.7%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	37	36	44	82	52	251
		比 率	14.7%	14.3%	17.5%	32.7%	20.7%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	36	31	47	91	57	262
		比 率	13.7%	11.8%	17.9%	34.7%	21.8%	100.0%

表12-4-1 卒業年別による結果（その2）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	6	15	46	43	34	144
		比 率	4.2%	10.4%	31.9%	29.9%	23.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	11	25	95	78	25	234
		比 率	4.7%	10.7%	40.6%	33.3%	10.7%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	19	31	68	91	34	243
		比 率	7.8%	12.8%	28.0%	37.4%	14.0%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	33	40	98	57	24	252
		比 率	13.1%	15.9%	38.9%	22.6%	9.5%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	33	45	103	55	24	260
		比 率	12.7%	17.3%	39.6%	21.2%	9.2%	100.0%
4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	12	40	54	33	143
		比 率	2.8%	8.4%	28.0%	37.8%	23.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	11	25	76	85	36	233
		比 率	4.7%	10.7%	32.6%	36.5%	15.5%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	16	20	53	99	55	243
		比 率	6.6%	8.2%	21.8%	40.7%	22.6%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	28	27	63	86	46	250
		比 率	11.2%	10.8%	25.2%	34.4%	18.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	29	27	64	99	41	260
		比 率	11.2%	10.4%	24.6%	38.1%	15.8%	100.0%
5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	6	27	31	30	96
		比 率	2.1%	6.3%	28.1%	32.3%	31.3%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	5	15	33	84	51	188
		比 率	2.7%	8.0%	17.6%	44.7%	27.1%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	14	11	32	78	75	210
		比 率	6.7%	5.2%	15.2%	37.1%	35.7%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	13	9	35	91	57	205
		比 率	6.3%	4.4%	17.1%	44.4%	27.8%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	17	10	38	72	57	194
		比 率	8.8%	5.2%	19.6%	37.1%	29.4%	100.0%
6. 現在の仕事は自分に向いている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	2	10	55	80	148
		比 率	0.7%	1.4%	6.8%	37.2%	54.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	3	5	34	89	103	234
		比 率	1.3%	2.1%	14.5%	38.0%	44.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	7	15	41	95	86	244
		比 率	2.9%	6.1%	16.8%	38.9%	35.2%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	7	10	46	94	96	253
		比 率	2.8%	4.0%	18.2%	37.2%	37.9%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	9	20	67	111	54	261
		比 率	3.4%	7.7%	25.7%	42.5%	20.7%	100.0%
7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	3	5	13	51	80	152
		比 率	2.0%	3.3%	8.6%	33.6%	52.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	5	5	32	95	98	235
		比 率	2.1%	2.1%	13.6%	40.4%	41.7%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	6	18	40	99	81	244
		比 率	2.5%	7.4%	16.4%	40.6%	33.2%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	5	15	43	94	95	252
		比 率	2.0%	6.0%	17.1%	37.3%	37.7%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	10	15	62	111	64	262
		比 率	3.8%	5.7%	23.7%	42.4%	24.4%	100.0%

表12-4-1 卒業年別による結果 (その3)

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
8. 職場の人間 関係は良い	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	6	18	64	62	151
		比 率	0.7%	4.0%	11.9%	42.4%	41.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	7	7	36	101	80	231
		比 率	3.0%	3.0%	15.6%	43.7%	34.6%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	8	14	37	90	95	244
		比 率	3.3%	5.7%	15.2%	36.9%	38.9%	100.0%
9. 賃金・収入 は自分の仕事 に見合ってい る	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	3	13	26	64	44	150
		比 率	2.0%	8.7%	17.3%	42.7%	29.3%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	14	35	48	79	59	235
		比 率	6.0%	14.9%	20.4%	33.6%	25.1%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	24	30	55	78	57	244
		比 率	9.8%	12.3%	22.5%	32.0%	23.4%	100.0%
10. 就業時間・ 休日等の労働 条件には満足 している	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	22	42	67	74	48	253
		比 率	8.7%	16.6%	26.5%	29.2%	19.0%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	30	49	77	74	32	262
		比 率	11.5%	18.7%	29.4%	28.2%	12.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	5	12	27	47	59	150
		比 率	3.3%	8.0%	18.0%	31.3%	39.3%	100.0%
11. 自分の仕事 ぶりは職場の みんなから認 められている	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	14	36	30	79	75	234
		比 率	6.0%	15.4%	12.8%	33.8%	32.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	20	37	40	83	63	243
		比 率	8.2%	15.2%	16.5%	34.2%	25.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	22	51	36	80	64	253
		比 率	8.7%	20.2%	14.2%	31.6%	25.3%	100.0%
12. 「他者とも に生きる」こ とを意識して 仕事している	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	35	40	53	80	54	262
		比 率	13.4%	15.3%	20.2%	30.5%	20.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	3	30	75	40	148
		比 率	0.0%	2.0%	20.3%	50.7%	27.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	5	9	48	114	57	233
		比 率	2.1%	3.9%	20.6%	48.9%	24.5%	100.0%
12. 「他者とも に生きる」こ とを意識して 仕事している	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	6	15	54	128	40	243
		比 率	2.5%	6.2%	22.2%	52.7%	16.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	5	16	67	111	54	253
		比 率	2.0%	6.3%	26.5%	43.9%	21.3%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	11	16	90	117	28	262
		比 率	4.2%	6.1%	34.4%	44.7%	10.7%	100.0%
12. 「他者とも に生きる」こ とを意識して 仕事している	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	2	17	64	67	151
		比 率	0.7%	1.3%	11.3%	42.4%	44.4%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	3	6	32	93	101	235
		比 率	1.3%	2.6%	13.6%	39.6%	43.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	4	6	42	110	81	243
		比 率	1.6%	2.5%	17.3%	45.3%	33.3%	100.0%
12. 「他者とも に生きる」こ とを意識して 仕事している	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	10	23	46	97	77	253
		比 率	4.0%	9.1%	18.2%	38.3%	30.4%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	11	20	61	104	65	261
		比 率	4.2%	7.7%	23.4%	39.8%	24.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数						
		比 率						

表12-4-1 卒業年別による結果（その4）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
13. 仕事をする 上で、周りの 人に支えられ ている	卒期 1 期生～ 卒期 9 期生	件 数	1	1	3	59	88	152
		比 率	0.7%	0.7%	2.0%	38.8%	57.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	2	8	71	153	234
		比 率	0.0%	0.9%	3.4%	30.3%	65.4%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	1	9	83	149	243
		比 率	0.4%	0.4%	3.7%	34.2%	61.3%	100.0%
14. 仕事をする ときは常に相 手のことを考 えている	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	1	4	12	69	167	253
		比 率	0.4%	1.6%	4.7%	27.3%	66.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	1	1	19	76	165	262
		比 率	0.4%	0.4%	7.3%	29.0%	63.0%	100.0%
	卒期 1 期生～ 卒期 9 期生	件 数	0	3	6	65	77	151
		比 率	0.0%	2.0%	4.0%	43.0%	51.0%	100.0%
15. 大学時代の 仲間との繋が りが仕事の役 に立っている	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	1	2	15	111	105	234
		比 率	0.4%	0.9%	6.4%	47.4%	44.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	2	0	23	115	102	242
		比 率	0.8%	0.0%	9.5%	47.5%	42.1%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	1	4	28	110	109	252
		比 率	0.4%	1.6%	11.1%	43.7%	43.3%	100.0%
16. 自分は人(社 会)の役に立っ ている	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	2	5	41	122	92	262
		比 率	0.8%	1.9%	15.6%	46.6%	35.1%	100.0%
	卒期 1 期生～ 卒期 9 期生	件 数	24	19	39	35	32	149
		比 率	16.1%	12.8%	26.2%	23.5%	21.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	33	48	69	44	41	235
		比 率	14.0%	20.4%	29.4%	18.7%	17.4%	100.0%
17. 現在の仕事 を長く続けた い	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	37	36	77	59	33	242
		比 率	15.3%	14.9%	31.8%	24.4%	13.6%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	47	36	56	64	49	252
		比 率	18.7%	14.3%	22.2%	25.4%	19.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	45	41	67	60	48	261
		比 率	17.2%	15.7%	25.7%	23.0%	18.4%	100.0%
16. 自分は人(社 会)の役に立っ ている	卒期 1 期生～ 卒期 9 期生	件 数	3	10	33	62	44	152
		比 率	2.0%	6.6%	21.7%	40.8%	28.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	3	7	45	116	63	234
		比 率	1.3%	3.0%	19.2%	49.6%	26.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	6	5	66	122	43	242
		比 率	2.5%	2.1%	27.3%	50.4%	17.8%	100.0%
17. 現在の仕事 を長く続けた い	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	8	12	72	106	54	252
		比 率	3.2%	4.8%	28.6%	42.1%	21.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	11	17	81	111	40	260
		比 率	4.2%	6.5%	31.2%	42.7%	15.4%	100.0%
	卒期 1 期生～ 卒期 9 期生	件 数	8	10	23	53	52	146
		比 率	5.5%	6.8%	15.8%	36.3%	35.6%	100.0%
17. 現在の仕事 を長く続けた い	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	6	12	45	72	100	235
		比 率	2.6%	5.1%	19.1%	30.6%	42.6%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	15	15	39	82	92	243
		比 率	6.2%	6.2%	16.0%	33.7%	37.9%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	13	23	58	71	87	252
		比 率	5.2%	9.1%	23.0%	28.2%	34.5%	100.0%
17. 現在の仕事 を長く続けた い	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	18	31	61	56	94	260
		比 率	6.9%	11.9%	23.5%	21.5%	36.2%	100.0%

卒業年（1～9期生、11～17期生、19～27期生、29～35期生、37～45期生）を属性とするクロス集計結果では、平均値の高い項目「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」「14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている」の2項目について、どの年代においても高い比率を示していた。

問12-4-2 卒業年とカテゴリー別による結果

表12-4-2 卒業年とカテゴリー別による結果

カテゴリー	卒業年別				
	1～9期生	11～17期生	19～27期生	29～35期生	37～45期生
大学での学び	3.71	3.43	3.56	3.29	3.27
内閣府調査	4.14	3.94	3.78	3.78	3.53
学祖の思想・理念	4.41	4.40	4.31	4.24	4.13
運営委員会	3.67	3.70	3.59	3.55	3.45

問12-2-4のカテゴリー別（大学での学びに関する項目・内閣府の調査項目・学祖の思想・理念に関する項目・運営委員会選定項目）の平均値を卒業年別に比較したところ、「学祖の思想・理念に関する項目」「内閣府の調査項目」の2つのカテゴリーについては、「1～9期生」が最も高く、若い年代になるにつれて平均値が低くなっていた。

問12-5 学部別による結果

学部を属性とするクロス集計の結果を表12-5に示した。

表12-5 学部別による結果（その1）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている	社会福祉学部	件 数	48	81	155	311	153	748
		比 率	6.4%	10.8%	20.7%	41.6%	20.5%	100.0%
	社会学部	件 数	33	48	37	109	39	266
		比 率	12.4%	18.0%	13.9%	41.0%	14.7%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	12	23	28	48	25	136
		比 率	8.8%	16.9%	20.6%	35.3%	18.4%	100.0%
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	社会福祉学部	件 数	49	79	156	281	178	743
		比 率	6.6%	10.6%	21.0%	37.8%	24.0%	100.0%
	社会学部	件 数	51	40	46	79	50	266
		比 率	19.2%	15.0%	17.3%	29.7%	18.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	17	17	30	46	26	136
		比 率	12.5%	12.5%	22.1%	33.8%	19.1%	100.0%
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	社会福祉学部	件 数	47	83	265	234	109	738
		比 率	6.4%	11.2%	35.9%	31.7%	14.8%	100.0%
	社会学部	件 数	41	48	88	66	23	266
		比 率	15.4%	18.0%	33.1%	24.8%	8.6%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	15	26	59	24	11	135
		比 率	11.1%	19.3%	43.7%	17.8%	8.1%	100.0%

表12-5 学部別による結果（その2）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
4. 「共生」の理 念が仕事に従 事する中で生 きている	社会福祉学部	件 数	41	66	204	282	143	736
		比 率	5.6%	9.0%	27.7%	38.3%	19.4%	100.0%
	社会学部	件 数	34	28	57	94	51	264
		比 率	12.9%	10.6%	21.6%	35.6%	19.3%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	14	18	35	49	19	135
		比 率	10.4%	13.3%	25.9%	36.3%	14.1%	100.0%
5. ボランティ ア活動等の学 外体験が仕事 に活かされて いる	社会福祉学部	件 数	24	38	112	233	188	595
		比 率	4.0%	6.4%	18.8%	39.2%	31.6%	100.0%
	社会学部	件 数	19	8	32	91	54	204
		比 率	9.3%	3.9%	15.7%	44.6%	26.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	9	6	23	33	31	102
		比 率	8.8%	5.9%	22.5%	32.4%	30.4%	100.0%
6. 現在の仕事 は自分に向い ている	社会福祉学部	件 数	13	26	108	279	317	743
		比 率	1.7%	3.5%	14.5%	37.6%	42.7%	100.0%
	社会学部	件 数	10	12	51	114	80	267
		比 率	3.7%	4.5%	19.1%	42.7%	30.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	4	14	39	54	25	136
		比 率	2.9%	10.3%	28.7%	39.7%	18.4%	100.0%
7. 自分の能力 が活かされて、 やりがいのある 仕事である	社会福祉学部	件 数	16	33	107	292	300	748
		比 率	2.1%	4.4%	14.3%	39.0%	40.1%	100.0%
	社会学部	件 数	8	17	49	106	87	267
		比 率	3.0%	6.4%	18.4%	39.7%	32.6%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	4	9	34	55	34	136
		比 率	2.9%	6.6%	25.0%	40.4%	25.0%	100.0%
8. 職場の人間 関係は良い	社会福祉学部	件 数	19	34	106	297	287	743
		比 率	2.6%	4.6%	14.3%	40.0%	38.6%	100.0%
	社会学部	件 数	6	21	54	108	78	267
		比 率	2.2%	7.9%	20.2%	40.4%	29.2%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	3	18	26	47	42	136
		比 率	2.2%	13.2%	19.1%	34.6%	30.9%	100.0%
9. 賃金・収入 は自分の仕事 に見合ってい る	社会福祉学部	件 数	57	98	158	253	181	747
		比 率	7.6%	13.1%	21.2%	33.9%	24.2%	100.0%
	社会学部	件 数	22	46	71	79	49	267
		比 率	8.2%	17.2%	26.6%	29.6%	18.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	15	26	45	38	12	136
		比 率	11.0%	19.1%	33.1%	27.9%	8.8%	100.0%
10. 就業時間・ 休日等の労働 条件には満足 している	社会福祉学部	件 数	50	110	113	249	224	746
		比 率	6.7%	14.7%	15.1%	33.4%	30.0%	100.0%
	社会学部	件 数	26	45	45	83	68	267
		比 率	9.7%	16.9%	16.9%	31.1%	25.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	20	22	30	38	26	136
		比 率	14.7%	16.2%	22.1%	27.9%	19.1%	100.0%
11. 自分の仕事 ぶりは職場の みんなから認 められている	社会福祉学部	件 数	14	33	164	373	158	742
		比 率	1.9%	4.4%	22.1%	50.3%	21.3%	100.0%
	社会学部	件 数	5	15	74	123	50	267
		比 率	1.9%	5.6%	27.7%	46.1%	18.7%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	7	11	56	48	14	136
		比 率	5.1%	8.1%	41.2%	35.3%	10.3%	100.0%
12. 「他者とも に生きる」こ とを意識して 仕事している	社会福祉学部	件 数	10	23	118	313	283	747
		比 率	1.3%	3.1%	15.8%	41.9%	37.9%	100.0%
	社会学部	件 数	12	23	48	101	82	266
		比 率	4.5%	8.6%	18.0%	38.0%	30.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	6	10	34	56	30	136
		比 率	4.4%	7.4%	25.0%	41.2%	22.1%	100.0%

表12-5 学部別による結果 (その3)

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
13. 仕事をする 上で、周りの 人に支えられ ている	社会福祉学部	件 数	3	7	25	242	470	747
		比 率	0.4%	0.9%	3.3%	32.4%	62.9%	100.0%
	社会学部	件 数	0	2	14	82	169	267
		比 率	0.0%	0.7%	5.2%	30.7%	63.3%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	1	0	13	38	84	136
		比 率	0.7%	0.0%	9.6%	27.9%	61.8%	100.0%
14. 仕事をする ときは常に相 手のことを考 えている	社会福祉学部	件 数	3	6	53	349	333	744
		比 率	0.4%	0.8%	7.1%	46.9%	44.8%	100.0%
	社会学部	件 数	2	4	42	110	109	267
		比 率	0.7%	1.5%	15.7%	41.2%	40.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	1	4	21	64	46	136
		比 率	0.7%	2.9%	15.4%	47.1%	33.8%	100.0%
15. 大学時代の 仲間との繋が りが仕事の役 に立っている	社会福祉学部	件 数	108	121	216	166	132	743
		比 率	14.5%	16.3%	29.1%	22.3%	17.8%	100.0%
	社会学部	件 数	55	41	55	69	46	266
		比 率	20.7%	15.4%	20.7%	25.9%	17.3%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	24	20	37	28	27	136
		比 率	17.6%	14.7%	27.2%	20.6%	19.9%	100.0%
16. 自分は人(社 会)の役に立っ ている	社会福祉学部	件 数	14	25	178	350	177	744
		比 率	1.9%	3.4%	23.9%	47.0%	23.8%	100.0%
	社会学部	件 数	7	17	75	114	53	266
		比 率	2.6%	6.4%	28.2%	42.9%	19.9%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	10	9	44	56	17	136
		比 率	7.4%	6.6%	32.4%	41.2%	12.5%	100.0%
17. 現在の仕事 を長く続けたい	社会福祉学部	件 数	34	47	136	237	288	742
		比 率	4.6%	6.3%	18.3%	31.9%	38.8%	100.0%
	社会学部	件 数	17	21	59	72	95	264
		比 率	6.4%	8.0%	22.3%	27.3%	36.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	10	22	31	29	44	136
		比 率	7.4%	16.2%	22.8%	21.3%	32.4%	100.0%

学部（社会福祉学部、社会学部、総合福祉学部）を属性とするクロス集計結果では、最も平均値の高い項目「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」をみると、社会福祉学部470人（62.9%）、社会学部169人（63.3%）、総合福祉学部84人（61.8%）であった。3学部共に60%以上の高い比率を示していた。

次に、「14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている」は、社会福祉学部333人（44.8%）、社会学部109人（40.8%）、総合福祉学部46人（33.8%）であった。

最も平均値の高い項目「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」以外は全ての項目において、社会福祉学部が高い比率を示していた。また、ほとんどの項目において、社会福祉学部、社会学部、総合福祉学部の順位で高い比率となっていた。

「思う」と「やや思う」を合わせた回答を見ると、僅差ではあるが、社会福祉学部、総合福祉学部、社会学部の順位となっている項目は、「2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている」、社会学部、社会福祉学部、総合福祉学部の順位となっている項目は、「5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている」、社会学部、総合福祉学部、社会福祉学部の順位となっている項目は、「15. 大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている」の3項目であった。

問12-6 学科別による結果

学科を属性とするクロス集計の結果を表12-6-1に示した。

表12-6-1 学科別による結果（その1）

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている	社会福祉学科	件数 比率	66 6.7%	117 11.9%	186 18.9%	411 41.7%	205 20.8%	985 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	19 18.6%	23 22.5%	20 19.6%	34 33.3%	6 5.9%	102 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	8 12.9%	12 19.4%	13 21.0%	22 35.5%	7 11.3%	62 100.0%
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	社会福祉学科	件数 比率	75 7.7%	103 10.5%	191 19.5%	363 37.1%	247 25.2%	979 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	31 30.1%	18 17.5%	28 27.2%	19 18.4%	7 6.8%	103 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	12 19.4%	15 24.2%	12 19.4%	21 33.9%	2 3.2%	62 100.0%
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	社会福祉学科	件数 比率	69 7.1%	119 12.2%	348 35.8%	302 31.0%	135 13.9%	973 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	24 23.3%	22 21.4%	37 35.9%	14 13.6%	6 5.8%	103 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	11 17.7%	16 25.8%	25 40.3%	8 12.9%	2 3.2%	62 100.0%
4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	社会福祉学科	件数 比率	60 6.2%	88 9.1%	254 26.2%	373 38.5%	195 20.1%	970 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	21 20.4%	16 15.5%	26 25.2%	30 29.1%	10 9.7%	103 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	9 14.8%	8 13.1%	16 26.2%	21 34.4%	7 11.5%	61 100.0%
5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている	社会福祉学科	件数 比率	38 4.8%	44 5.5%	142 17.9%	317 39.9%	253 31.9%	794 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	8 12.7%	4 6.3%	14 22.2%	27 42.9%	10 15.9%	63 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	6 14.6%	4 9.8%	11 26.8%	10 24.4%	10 24.4%	41 100.0%
6. 現在の仕事は自分に向いている	社会福祉学科	件数 比率	22 2.2%	35 3.6%	152 15.5%	394 40.2%	377 38.5%	980 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	4 3.9%	6 5.8%	25 24.3%	33 32.0%	35 34.0%	103 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	2 3.2%	11 17.7%	20 32.3%	20 32.3%	9 14.5%	62 100.0%
7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	社会福祉学科	件数 比率	20 2.0%	47 4.8%	150 15.2%	394 40.0%	374 38.0%	985 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	6 5.8%	5 4.9%	20 19.4%	40 38.8%	32 31.1%	103 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	3 4.8%	7 11.3%	19 30.6%	19 30.6%	14 22.6%	62 100.0%
8. 職場の人間関係は良い	社会福祉学科	件数 比率	24 2.4%	52 5.3%	154 15.7%	391 39.9%	360 36.7%	981 100.0%
	社会学科・人間社会学科	件数 比率	2 2.0%	14 13.7%	21 20.6%	34 33.3%	31 30.4%	102 100.0%
	心理学科・実践心理学科	件数 比率	2 3.2%	7 11.3%	11 17.7%	26 41.9%	16 25.8%	62 100.0%

表12-6-1 学科別による結果 (その2)

問12. 仕事について感じていること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
9. 賃金・収入 は自分の仕事 に見合っている	社会福祉学科	件 数 比 率	72 7.3%	141 14.3%	227 23.1%	319 32.4%	225 22.9%	984 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	12 11.7%	18 17.5%	31 30.1%	29 28.2%	13 12.6%	103 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	10 16.1%	12 19.4%	16 25.8%	23 37.1%	1 1.6%	62 100.0%
		件 数 比 率	75 7.6%	149 15.2%	153 15.6%	325 33.1%	280 28.5%	982 100.0%
10. 就業時間・ 休日等の労働 条件には満足 している	社会福祉学科	件 数 比 率	14 13.6%	20 19.4%	18 17.5%	28 27.2%	23 22.3%	103 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	8 12.9%	9 14.5%	16 25.8%	15 24.2%	14 22.6%	62 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	17 1.7%	47 4.8%	247 25.2%	475 48.5%	193 19.7%	979 100.0%
		件 数 比 率	5 4.9%	8 7.8%	23 22.3%	48 46.6%	19 18.4%	103 100.0%
11. 自分の仕事 ぶりは職場の みんなから認 められている	社会福祉学科	件 数 比 率	5 8.1%	4 6.5%	23 37.1%	22 35.5%	8 12.9%	62 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	14 1.4%	42 4.3%	156 15.9%	414 42.1%	357 36.3%	983 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	11 10.7%	9 8.7%	30 29.1%	24 23.3%	29 28.2%	103 100.0%
		件 数 比 率	4 6.5%	6 9.7%	14 22.6%	30 48.4%	8 12.9%	62 100.0%
12. 「他者とも に生きる」こ とを意識して 仕事している	社会福祉学科	件 数 比 率	3 0.3%	7 0.7%	39 4.0%	304 30.9%	631 64.1%	984 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	1 1.0%	2 1.9%	9 8.7%	35 34.0%	56 54.4%	103 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	0 0.0%	0 0.0%	4 6.5%	22 35.5%	36 58.1%	62 100.0%
		件 数 比 率	3 0.3%	10 1.0%	86 8.8%	454 46.2%	429 43.7%	982 100.0%
13. 仕事をする 上で、周りの 人に支えられ ている	社会福祉学科	件 数 比 率	2 1.9%	2 1.9%	16 15.5%	44 42.7%	39 37.9%	103 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	1 1.6%	2 3.2%	14 22.6%	26 41.9%	19 30.6%	62 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	143 14.6%	147 15.0%	272 27.8%	240 24.5%	177 18.1%	979 100.0%
		件 数 比 率	27 26.2%	24 23.3%	21 20.4%	14 13.6%	17 16.5%	103 100.0%
14. 仕事をする ときは常に相 手のことを考 えている	社会福祉学科	件 数 比 率	16 25.8%	11 17.7%	15 24.2%	10 16.1%	10 16.1%	62 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	22 2.2%	34 3.5%	255 26.0%	447 45.6%	222 22.7%	980 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	5 4.9%	11 10.7%	27 26.2%	43 41.7%	17 16.5%	103 100.0%
		件 数 比 率	4 6.5%	6 9.7%	17 27.4%	28 45.2%	7 11.3%	62 100.0%
15. 大学時代の 仲間との繋が りが仕事の役 に立っている	社会福祉学科	件 数 比 率	46 4.7%	68 7.0%	197 20.2%	297 30.4%	368 37.7%	976 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	9 8.7%	13 12.6%	17 16.5%	25 24.3%	39 37.9%	103 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	6 9.7%	10 16.1%	12 19.4%	16 25.8%	18 29.0%	62 100.0%
		件 数 比 率	46 4.7%	68 7.0%	197 20.2%	297 30.4%	368 37.7%	976 100.0%
16. 自分は人(社 会)の役に立っ ている	社会福祉学科	件 数 比 率	22 2.2%	34 3.5%	255 26.0%	447 45.6%	222 22.7%	980 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	5 4.9%	11 10.7%	27 26.2%	43 41.7%	17 16.5%	103 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	4 6.5%	6 9.7%	17 27.4%	28 45.2%	7 11.3%	62 100.0%
		件 数 比 率	46 4.7%	68 7.0%	197 20.2%	297 30.4%	368 37.7%	976 100.0%
17. 現在の仕事 を長く続けたい	社会福祉学科	件 数 比 率	22 2.2%	34 3.5%	255 26.0%	447 45.6%	222 22.7%	980 100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数 比 率	5 4.9%	11 10.7%	27 26.2%	43 41.7%	17 16.5%	103 100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数 比 率	4 6.5%	6 9.7%	17 27.4%	28 45.2%	7 11.3%	62 100.0%
		件 数 比 率	46 4.7%	68 7.0%	197 20.2%	297 30.4%	368 37.7%	976 100.0%

学科（社会福祉学科、社会学科・人間社会学科、心理学科・実践心理学科）を属性とするクロス集計の結果では、最も平均値の高い項目「13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている」をみると、社会福祉学科631人（64.1%）、社会学科・人間社会学科56人（54.4%）、心理学科・実践心理学科36人（58.1%）であった。3学部共に50%以上の高い比率を示していた。

問12－6－2 学科とカテゴリー別による結果

表12－6－2 学科とカテゴリー別による結果

カテゴリー	学 科 別			
	全 体	社会福祉学科	社会学科・ 人間社会学科	心理学科・ 実践心理学科
大学での学び	3.42	3.53	2.69	2.92
内閣府調査	3.80	3.85	3.58	3.37
学祖の思想・理念	4.28	4.33	3.98	4.01
運営委員会	3.58	3.63	3.29	3.24

問12－2－4のカテゴリー別（大学での学びに関する項目・内閣府の調査項目・学祖の思想・理念に関する項目・運営委員会選定項目）の平均値を学科別（社会福祉学科、社会学科・人間社会学科、心理学科・実践心理学科）に比較したところ、「学祖の思想・理念に関する項目」は社会福祉学科が4.33と最も高く、心理学科・実践心理学科が4.01、社会学科・人間社会学科が3.98と続いていた。

問13 人生観について：あなたが生きていく上での意識について

目 次

- 問13- 1 項目の選定
- 問13- 2 結果の概要
- 問13- 3 性別による結果
- 問13- 4 卒業年別による結果
- 問13- 5 学部別による結果
- 問13- 6 学科別による結果

問13- 1 項目の選定

「人生観について」は、以下15の質問項目が設定された。質問項目としては、学祖の思想・理念と考えられる項目として、項目6「社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う」、項目7「社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う」、項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」、項目9「与えられた命に感謝して生きる気持ちが強い方だと思う」、項目10「社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちが強い方だと思う」、項目11「人間の本性は、本質的に『善』なる心性をもつと思う」の合計6項目を選定した。

それに加えて、平成25年 内閣府「社会意識に関する世論調査」（内閣府、2013）から項目1「国を愛する気持ちは強い方だと思う」、項目2「国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」、項目3「日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ」、項目4「社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う」、項目5「東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う」の5項目を選定し、運営委員会での検討によって項目12「自分のできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う」、項目13「自分は生かされていると感じて生きる気持ちが強い方だと思う」、項目14「どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う」、項目15「他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う」の4項目を追加した。その結果、問13「人生観について」の調査項目は、合計15項目で構成された。回答方法は、各項目について〔思う：5〕から〔思わない：1〕までの5段階で考えて、当てはまる番号を1つ選択してもらった。

表13-1 「人生観について：あなたが生きていく上での意識について」の項目一覧とカテゴリー

【内閣府の調査項目】	
1. 国を愛する気持ちは強い方だと思う	
2. 国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	
3. 日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ	
4. 社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う	
5. 東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う	
【学祖の思想・理念関連項目】	
6. 社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う	
7. 社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う	
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う	
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ちは強い方だと思う	
10. 社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちは強い方だと思う	
11. 人間の本性は、本質的に『善』なる心性をもつと思う	
【運営委員会選定項目】	
12. 自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	
13. 自分は生かされていると感じて生きる気持ちは強い方だと思う	
14. どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う	
15. 他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う	

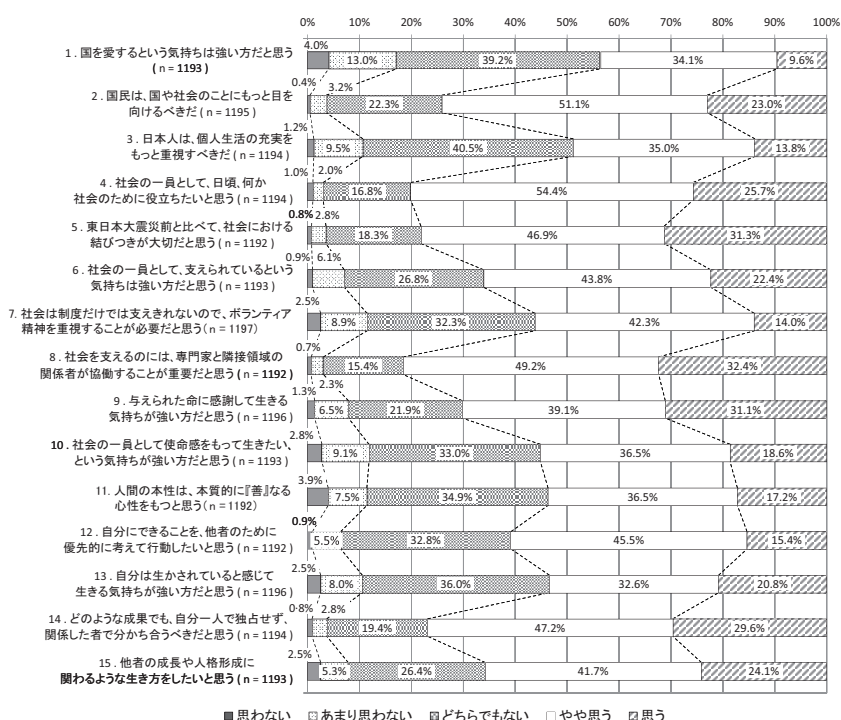
問13-2 結果の概要

図表 13-2-1 「生きていく上での意識（人生観について）」の15項目の結果（その1）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 国を愛するという気持ちは強い方だと思う	件 数	48	155	468	407	115	1,193
	比 率	4.0%	13.0%	39.2%	34.1%	9.6%	100.0%
2. 国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	件 数	5	38	266	611	275	1,195
	比 率	0.4%	3.2%	22.3%	51.1%	23.0%	100.0%
3. 日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ	件 数	14	113	484	418	165	1,194
	比 率	1.2%	9.5%	40.5%	35.0%	13.8%	100.0%
4. 社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う	件 数	12	24	201	650	307	1,194
	比 率	1.0%	2.0%	16.8%	54.4%	25.7%	100.0%
5. 東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う	件 数	9	33	218	559	373	1,192
	比 率	0.8%	2.8%	18.3%	46.9%	31.3%	100.0%
6. 社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う	件 数	11	73	320	522	267	1,193
	比 率	0.9%	6.1%	26.8%	43.8%	22.4%	100.0%
7. 社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う	件 数	30	107	387	506	167	1,197
	比 率	2.5%	8.9%	32.3%	42.3%	14.0%	100.0%
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う	件 数	8	28	183	587	386	1,192
	比 率	0.7%	2.3%	15.4%	49.2%	32.4%	100.0%
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ちは強い方だと思う	件 数	16	78	262	468	372	1,196
	比 率	1.3%	6.5%	21.9%	39.1%	31.1%	100.0%
10. 社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちは強い方だと思う	件 数	33	108	394	436	222	1,193
	比 率	2.8%	9.1%	33.0%	36.5%	18.6%	100.0%
11. 人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う	件 数	47	89	416	435	205	1,192
	比 率	3.9%	7.5%	34.9%	36.5%	17.2%	100.0%

図表 13-2-1 「生きていく上での意識（人生観について）」の15項目の結果（その2）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）	件数	比率	思わない	あまり思わない	どちらでもない	やや思う	思う	合計
12. 自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	11	0.9%	65	5.5%	391	45.5%	183	1,192
13. 自分は生かされていると感じて生きる気持ち強い方だと思う	30	2.5%	96	8.0%	431	32.6%	249	1,196
14. どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う	10	0.8%	34	2.8%	232	47.2%	354	1,194
15. 他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う	30	2.5%	63	5.3%	315	41.7%	288	1,193



単純集計の結果、「思う」、「やや思う」を合わせると8割を超えるものには、以下の2つの事項があった。最も多かったのは、項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」であり、「思う」が32.4%、「やや思う」が49.2%と、合わせて81.6%の人が社会を支えるためには、専門家と隣接領域の関係者の協働が重要となると意識していた。次いで多かったのは、項目4「社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う」であり、「思う」25.7%、「やや思う」54.4%と、80.1%の人が社会のために役立ちたいと思っていることが明らかとなった。

また、「思う」、「やや思う」を合わせると7割を超える結果を示したものについては、次に示す4項目があげられる。まず、項目14「どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う」である。「思う」が29.6%、「やや思う」が47.2%となっており、合

わせて76.8%の人が、成果は独占せずに、関わった者で分かち合うべきと考えていることが示されている。項目5「東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う」では、「思う」が31.3%、「やや思う」が46.9%となっており、合わせて78.2%の人が、東日本大震災後、社会における結びつきが大切だと感じていることが明らかとなった。項目2「国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」については、「思う」が23.0%、「やや思う」が51.1%と、合わせて74.1%の人が、国民が国や社会にもっと目を向けるべきと感じていることがわかる。項目9「与えられた命に感謝して生きる気持ち強い方だと思う」については、「思う」が31.1%、「やや思う」が39.1%であり、合わせて70.2%の人が、与えられた命に感謝して生きる気持ち強い方だと思っていることが示される結果となった。

続けて、「思う」、「やや思う」を合わせると6割を超えるものには、項目6「社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う」があり、「思う」が22.4%、「やや思う」が43.8%と、合わせて66.2%の人が自分が社会の一員として支えられているという気持ちを強く持っている方であると日頃から感じていることがわかる。また、項目15「他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う」では、「思う」が24.1%、「やや思う」が41.7%と、合わせて65.8%の人が他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと感じていることが示されている。この他、項目12「自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う」については、「思う」が15.4%、「やや思う」が45.5%と、合わせて60.9%の人が、自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと考えていることが明らかとなった。

問13-3 性別による結果

性別を属性とするクロス集計結果は、表13-3の通りとなった。

表13-3 性別の結果（その1）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）			思わない	あまり思わない	どちらでもない	やや思う	思う	合 計
1. 国を愛する という気持ちは 強い方だと思う	男性	件 数	12	43	137	138	62	392
		比 率	3.1%	11.0%	34.9%	35.2%	15.8%	100.0%
	女性	件 数	36	111	331	268	53	799
		比 率	4.5%	13.9%	41.4%	33.5%	6.6%	100.0%
2. 国民は、国 や社会のこと にもっと目を 向けるべきだ	男性	件 数	2	11	82	186	111	392
		比 率	0.5%	2.8%	20.9%	47.4%	28.3%	100.0%
	女性	件 数	3	27	184	423	164	801
		比 率	0.4%	3.4%	23.0%	52.8%	20.5%	100.0%
3. 日本人は、 個人生活の充 実をもっと重 視すべきだ	男性	件 数	4	37	157	125	69	392
		比 率	1.0%	9.4%	40.1%	31.9%	17.6%	100.0%
	女性	件 数	10	75	327	293	95	800
		比 率	1.3%	9.4%	40.9%	36.6%	11.9%	100.0%
4. 社会の一員 として、日頃、 何か社会のた めに役立ちた いと思う	男性	件 数	4	4	62	210	112	392
		比 率	1.0%	1.0%	15.8%	53.6%	28.6%	100.0%
	女性	件 数	8	20	138	440	194	800
		比 率	1.0%	2.5%	17.3%	55.0%	24.3%	100.0%

表13-3 性別の結果（その2）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）			思わない	あまり思わない	どちらでもない	やや思う	思う	合 計
5. 東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う	男性	件 数	6	12	86	177	110	391
		比 率	1.5%	3.1%	22.0%	45.3%	28.1%	100.0%
	女性	件 数	3	21	132	381	262	799
		比 率	0.4%	2.6%	16.5%	47.7%	32.8%	100.0%
6. 社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う	男性	件 数	3	18	108	171	93	393
		比 率	0.8%	4.6%	27.5%	43.5%	23.7%	100.0%
	女性	件 数	8	54	212	350	174	798
		比 率	1.0%	6.8%	26.6%	43.9%	21.8%	100.0%
7. 社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う	男性	件 数	15	34	123	161	62	395
		比 率	3.8%	8.6%	31.1%	40.8%	15.7%	100.0%
	女性	件 数	15	73	263	345	104	800
		比 率	1.9%	9.1%	32.9%	43.1%	13.0%	100.0%
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う	男性	件 数	4	13	74	183	118	392
		比 率	1.0%	3.3%	18.9%	46.7%	30.1%	100.0%
	女性	件 数	4	14	109	404	267	798
		比 率	0.5%	1.8%	13.7%	50.6%	33.5%	100.0%
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ち強い方だと思う	男性	件 数	5	24	88	157	120	394
		比 率	1.3%	6.1%	22.3%	39.8%	30.5%	100.0%
	女性	件 数	11	53	174	311	251	800
		比 率	1.4%	6.6%	21.8%	38.9%	31.4%	100.0%
10. 社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ち強い方だと思う	男性	件 数	7	32	116	156	83	394
		比 率	1.8%	8.1%	29.4%	39.6%	21.1%	100.0%
	女性	件 数	26	76	277	280	138	797
		比 率	3.3%	9.5%	34.8%	35.1%	17.3%	100.0%
11. 人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う	男性	件 数	22	31	137	132	71	393
		比 率	5.6%	7.9%	34.9%	33.6%	18.1%	100.0%
	女性	件 数	25	57	279	303	133	797
		比 率	3.1%	7.2%	35.0%	38.0%	16.7%	100.0%
12. 自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	男性	件 数	4	18	126	181	64	393
		比 率	1.0%	4.6%	32.1%	46.1%	16.3%	100.0%
	女性	件 数	7	47	265	360	118	797
		比 率	0.9%	5.9%	33.2%	45.2%	14.8%	100.0%
13. 自分は生かされていると感じて生きる気持ち強い方だと思う	男性	件 数	9	28	134	129	94	394
		比 率	2.3%	7.1%	34.0%	32.7%	23.9%	100.0%
	女性	件 数	20	67	297	261	155	800
		比 率	2.5%	8.4%	37.1%	32.6%	19.4%	100.0%
14. どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う	男性	件 数	5	10	94	173	111	393
		比 率	1.3%	2.5%	23.9%	44.0%	28.2%	100.0%
	女性	件 数	5	24	138	390	242	799
		比 率	0.6%	3.0%	17.3%	48.8%	30.3%	100.0%
15. 他者の成長や人格形成に関わるような生き方したいと思う	男性	件 数	6	17	95	167	108	393
		比 率	1.5%	4.3%	24.2%	42.5%	27.5%	100.0%
	女性	件 数	24	46	220	330	178	798
		比 率	3.0%	5.8%	27.6%	41.4%	22.3%	100.0%

男性で「思う」と「やや思う」を合わせて最も多かった項目は、項目4「社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う」が「思う」が28.6%、「やや思う」が53.6%で、合わせて82.2%であった。続いて、項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」が、「思う」が30.1%、「やや思う」が46.7%で、合わせて76.8%であった。そして、項目2「国民は、国や社会のことに最も目を向けるべきだ」が「思う」が28.3%、「やや思う」が47.4%で、合わせて75.7%と続いた。

一方、女性で「思う」と「やや思う」を合わせて最も多かった項目は、項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」が、「思う」が33.5%、「やや思う」が50.6%で、合わせて84.1%であった。続いて、項目5「東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う」で「思う」が32.8%、「やや思う」が47.7%で、合わせて80.5%であった。そして、項目4「社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う」が「思う」が24.3%、「やや思う」が55.0%で、合わせて79.3%と続いた。

男女間で項目の順位に相違は見られたが、「思う」と「やや思う」の合計で10ポイント以上の差があった項目は無かった。男女共に高い意識を持っていたのは、社会の一員として役立つことへの意識が高く、そのために専門家と隣接領域の関係者が協働するという学祖の思想・理念に関連する項目であった。

問13-4 卒業年別による結果

卒業年別を属性とするクロス集計結果では、以下の通りとなった。

表13-4-1 卒業年別による結果（その1）

問13. 生きていく上での意識 (人生観について)		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 国を愛する という気持ちは 強い方だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数 5	11	53	72	27	168
		比 率 3.0%	6.5%	31.5%	42.9%	16.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数 3	25	98	93	25	244
		比 率 1.2%	10.2%	40.2%	38.1%	10.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数 8	20	106	88	25	247
		比 率 3.2%	8.1%	42.9%	35.6%	10.1%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数 8	52	99	80	16	255
		比 率 3.1%	20.4%	38.8%	31.4%	6.3%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数 24	47	108	69	21	269
		比 率 8.9%	17.5%	40.1%	25.7%	7.8%	100.0%
2. 国民は、国 や社会のことに もっと目を 向けるべきだ	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数 0	1	15	93	60	169
		比 率 0.0%	0.6%	8.9%	55.0%	35.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数 0	6	33	139	66	244
		比 率 0.0%	2.5%	13.5%	57.0%	27.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数 1	4	62	133	47	247
		比 率 0.4%	1.6%	25.1%	53.8%	19.0%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数 1	7	67	126	54	255
		比 率 0.4%	2.7%	26.3%	49.4%	21.2%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数 2	20	89	115	44	270
		比 率 0.7%	7.4%	33.0%	42.6%	16.3%	100.0%

表13-4-1 卒業年別による結果（その2）

問13. 生きていく上での意識 (人生観について)			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
3. 日本人は、 個人生活の充 実をもっと重 視すべきだ	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	14	65	62	27	170
		比 率	1.2%	8.2%	38.2%	36.5%	15.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	22	117	84	21	244
		比 率	0.0%	9.0%	48.0%	34.4%	8.6%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	4	26	110	83	23	246
		比 率	1.6%	10.6%	44.7%	33.7%	9.3%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	4	26	87	94	43	254
		比 率	1.6%	10.2%	34.3%	37.0%	16.9%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	4	24	101	91	50	270
		比 率	1.5%	8.9%	37.4%	33.7%	18.5%	100.0%
4. 社会の一員 として、日頃、 何か社会のた めに役立ちた いと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	3	24	92	49	169
		比 率	0.6%	1.8%	14.2%	54.4%	29.0%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	1	4	23	136	79	243
		比 率	0.4%	1.6%	9.5%	56.0%	32.5%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	3	31	158	54	247
		比 率	0.4%	1.2%	12.6%	64.0%	21.9%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	2	9	45	138	60	254
		比 率	0.8%	3.5%	17.7%	54.3%	23.6%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	7	5	75	123	61	271
		比 率	2.6%	1.8%	27.7%	45.4%	22.5%	100.0%
5. 東日本大震 災前と比べて、 社会における 結びつきが大 切だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	3	35	61	68	168
		比 率	0.6%	1.8%	20.8%	36.3%	40.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	4	41	116	82	243
		比 率	0.0%	1.6%	16.9%	47.7%	33.7%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	3	50	132	60	246
		比 率	0.4%	1.2%	20.3%	53.7%	24.4%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	3	15	36	117	84	255
		比 率	1.2%	5.9%	14.1%	45.9%	32.9%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	4	8	54	130	74	270
		比 率	1.5%	3.0%	20.0%	48.1%	27.4%	100.0%
6. 社会の一員 として、支え られていると いう気持ちは 強い方だと思 う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	7	39	74	47	168
		比 率	0.6%	4.2%	23.2%	44.0%	28.0%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	13	54	113	64	244
		比 率	0.0%	5.3%	22.1%	46.3%	26.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	6	60	123	56	246
		比 率	0.4%	2.4%	24.4%	50.0%	22.8%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	5	22	70	106	52	255
		比 率	2.0%	8.6%	27.5%	41.6%	20.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	4	25	93	101	47	270
		比 率	1.5%	9.3%	34.4%	37.4%	17.4%	100.0%
7. 社会は制度 だけでは支え きれないので、 ボランティア 精神を重視す ることが必要 だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	9	38	78	43	169
		比 率	0.6%	5.3%	22.5%	46.2%	25.4%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	3	10	75	123	34	245
		比 率	1.2%	4.1%	30.6%	50.2%	13.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	6	21	74	116	30	247
		比 率	2.4%	8.5%	30.0%	47.0%	12.1%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	10	38	85	91	31	255
		比 率	3.9%	14.9%	33.3%	35.7%	12.2%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	10	28	112	95	26	271
		比 率	3.7%	10.3%	41.3%	35.1%	9.6%	100.0%

表13-4-1 卒業年別による結果（その3）

問13. 生きていく上での意識 (人生観について)			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接者が協働することが重要だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	3	24	68	72	168
		比 率	0.6%	1.8%	14.3%	40.5%	42.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	1	5	37	126	75	244
		比 率	0.4%	2.0%	15.2%	51.6%	30.7%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	2	37	127	78	245
		比 率	0.4%	0.8%	15.1%	51.8%	31.8%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	4	6	41	128	75	254
		比 率	1.6%	2.4%	16.1%	50.4%	29.5%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	1	12	42	134	82	271
		比 率	0.4%	4.4%	15.5%	49.4%	30.3%	100.0%
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ち強い方だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	8	30	70	60	169
		比 率	0.6%	4.7%	17.8%	41.4%	35.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	2	14	53	100	76	245
		比 率	0.8%	5.7%	21.6%	40.8%	31.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	3	13	56	96	79	247
		比 率	1.2%	5.3%	22.7%	38.9%	32.0%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	2	19	51	107	75	254
		比 率	0.8%	7.5%	20.1%	42.1%	29.5%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	8	24	70	91	78	271
		比 率	3.0%	8.9%	25.8%	33.6%	28.8%	100.0%
10. 社会の一員として使命感をもつて生きたい、という気持ち強い方だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	14	49	64	40	169
		比 率	1.2%	8.3%	29.0%	37.9%	23.7%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	16	78	89	59	242
		比 率	0.0%	6.6%	32.2%	36.8%	24.4%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	3	14	90	94	46	247
		比 率	1.2%	5.7%	36.4%	38.1%	18.6%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	6	33	91	86	38	254
		比 率	2.4%	13.0%	35.8%	33.9%	15.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	22	31	84	99	35	271
		比 率	8.1%	11.4%	31.0%	36.5%	12.9%	100.0%
11. 人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	9	49	62	43	167
		比 率	2.4%	5.4%	29.3%	37.1%	25.7%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	4	9	74	106	51	244
		比 率	1.6%	3.7%	30.3%	43.4%	20.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	4	15	95	92	40	246
		比 率	1.6%	6.1%	38.6%	37.4%	16.3%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	18	17	88	98	33	254
		比 率	7.1%	6.7%	34.6%	38.6%	13.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	17	38	110	73	33	271
		比 率	6.3%	14.0%	40.6%	26.9%	12.2%	100.0%
12. 自分ができることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	6	55	75	32	169
		比 率	0.6%	3.6%	32.5%	44.4%	18.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	9	72	123	40	244
		比 率	0.0%	3.7%	29.5%	50.4%	16.4%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	11	84	122	29	247
		比 率	0.4%	4.5%	34.0%	49.4%	11.7%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	4	21	91	102	36	254
		比 率	1.6%	8.3%	35.8%	40.2%	14.2%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	5	17	88	118	40	268
		比 率	1.9%	6.3%	32.8%	44.0%	14.9%	100.0%

表13-4-1 卒業年別による結果（その4）

問13. 生きていく上での意識 (人生観について)			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
13. 自分は生か されていると 感じて生きる 気持ちが強い 方だと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	8	54	53	50	169
		比 率	2.4%	4.7%	32.0%	31.4%	29.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	3	18	77	91	56	245
		比 率	1.2%	7.3%	31.4%	37.1%	22.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	3	19	89	84	52	247
		比 率	1.2%	7.7%	36.0%	34.0%	21.1%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	5	22	92	89	46	254
		比 率	2.0%	8.7%	36.2%	35.0%	18.1%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	14	29	115	70	43	271
		比 率	5.2%	10.7%	42.4%	25.8%	15.9%	100.0%
14. どのような 成果でも、自 分一人で独占 せず、関係し た者で分かち 合うべきだと思 う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	1	1	24	76	67	169
		比 率	0.6%	0.6%	14.2%	45.0%	39.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	1	5	49	110	79	244
		比 率	0.4%	2.0%	20.1%	45.1%	32.4%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	7	45	125	69	247
		比 率	0.4%	2.8%	18.2%	50.6%	27.9%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	2	13	53	119	67	254
		比 率	0.8%	5.1%	20.9%	46.9%	26.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	5	8	60	128	69	270
		比 率	1.9%	3.0%	22.2%	47.4%	25.6%	100.0%
15. 他者の成長 や人格形成に 関わるような 生き方をした いと思う	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	7	39	77	40	167
		比 率	2.4%	4.2%	23.4%	46.1%	24.0%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	1	8	67	93	76	245
		比 率	0.4%	3.3%	27.3%	38.0%	31.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	3	13	56	120	55	247
		比 率	1.2%	5.3%	22.7%	48.6%	22.3%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	8	21	70	99	56	254
		比 率	3.1%	8.3%	27.6%	39.0%	22.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	14	14	82	104	56	270
		比 率	5.2%	5.2%	30.4%	38.5%	20.7%	100.0%

卒業年を属性とするクロス集計結果では、項目6「社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う」、項目7「社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う」、項目11「人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う」、項目13「自分は生かされていると感じて生きる気持ちが強い方だと思う」、項目14「どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う」の5つの質問において、卒業年が早期である者ほど「思う」と回答する割合が高いという特徴的な結果が示された。

項目6について「思う」の回答は、「卒期1期生～卒期9期生」が28.0%、「卒期11期生～卒期17期生」が26.2%、「卒期19期～卒期27期生」が22.8%、「卒期29期生～卒期35期生」が20.4%、「卒期37期生～卒期45期生」が17.4%であった。

項目7について「思う」の回答は、「卒期1期生～卒期9期生」が25.4%、「卒期11期生～卒期17期生」が13.9%、「卒期19期～卒期27期生」が12.1%、「卒期29期生～卒期35期生」が12.2%、「卒期37期生～卒期45期生」が9.6%であった。

項目11について「思う」の回答は、「卒期1期生～卒期9期生」が25.7%、「卒期11期生～卒期

17期生」が20.9%、「卒期19期～卒期27期生」が16.3%、「卒期29期生～卒期35期生」が13.0%、「卒期37期生～卒期45期生」が12.2%であった。

項目13について「思う」の回答は、「卒期1期生～卒期9期生」が29.6%、「卒期11期生～卒期17期生」が22.9%、「卒期19期～卒期27期生」が21.1%、「卒期29期生～卒期35期生」が18.1%、「卒期37期生～卒期45期生」が15.9%であった。

項目14について「思う」の回答は、「卒期1期生～卒期9期生」が39.6%、「卒期11期生～卒期17期生」が32.4%、「卒期19期～卒期27期生」が27.9%、「卒期29期生～卒期35期生」が26.4%、「卒期37期生～卒期45期生」が25.6%であった。

問13-5 学部別による結果

学部（社会福祉学部、社会学部、総合福祉学部）を属性とするクロス集計結果は、以下の通りであった。

表13-5-1 学部別による結果（その1）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 国を愛するという気持ちは強い方だと思う	社会福祉学部（n=780）	3.1%	11.2%	38.2%	36.5%	11.0%	100.0%
	社会学部（n=267）	4.5%	15.7%	43.8%	30.3%	5.6%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	7.7%	18.3%	36.6%	27.5%	9.9%	100.0%
2. 国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	社会福祉学部（n=781）	0.4%	1.9%	18.8%	53.8%	25.1%	100.0%
	社会学部（n=268）	0.4%	4.9%	26.9%	48.5%	19.4%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	0.7%	7.0%	31.0%	42.3%	19.0%	100.0%
3. 日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ	社会福祉学部（n=780）	1.2%	9.1%	43.8%	34.7%	11.2%	100.0%
	社会学部（n=268）	1.5%	11.9%	33.6%	35.1%	17.9%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	0.7%	6.3%	35.9%	36.6%	20.4%	100.0%
4. 社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う	社会福祉学部（n=780）	0.6%	1.8%	14.4%	56.5%	26.7%	100.0%
	社会学部（n=268）	1.1%	2.6%	19.0%	51.9%	25.4%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	2.8%	2.1%	25.4%	47.9%	21.8%	100.0%
5. 東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う	社会福祉学部（n=778）	0.5%	1.8%	18.8%	47.8%	31.1%	100.0%
	社会学部（n=268）	0.7%	5.2%	17.9%	45.5%	30.6%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	2.1%	3.5%	16.2%	45.8%	32.4%	100.0%
6. 社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う	社会福祉学部（n=779）	0.5%	4.1%	25.0%	46.5%	23.9%	100.0%
	社会学部（n=268）	1.5%	10.8%	29.9%	38.1%	19.8%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	2.1%	8.5%	31.0%	39.4%	19.0%	100.0%
7. 社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う	社会福祉学部（n=782）	1.9%	7.3%	30.6%	44.4%	15.9%	100.0%
	社会学部（n=269）	3.3%	14.5%	33.1%	39.0%	10.0%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	4.2%	7.7%	40.1%	37.3%	10.6%	100.0%
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う	社会福祉学部（n=778）	0.6%	1.8%	15.2%	48.8%	33.5%	100.0%
	社会学部（n=268）	1.1%	2.2%	14.9%	51.9%	29.9%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	0.0%	5.6%	16.9%	46.5%	31.0%	100.0%
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ちが強い方だと思う	社会福祉学部（n=782）	0.6%	5.9%	21.6%	39.5%	32.4%	100.0%
	社会学部（n=268）	1.9%	7.8%	21.6%	39.6%	29.1%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	4.2%	7.7%	23.9%	35.9%	28.2%	100.0%
10. 社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちが強い方だと思う	社会福祉学部（n=779）	0.9%	7.3%	34.0%	37.1%	20.7%	100.0%
	社会学部（n=268）	4.5%	12.7%	31.7%	36.6%	14.6%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	9.2%	11.3%	30.3%	33.8%	15.5%	100.0%
11. 人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う	社会福祉学部（n=778）	2.4%	5.7%	34.4%	38.2%	19.3%	100.0%
	社会学部（n=268）	6.3%	12.3%	32.1%	36.6%	12.7%	100.0%
	総合福祉学部（n=142）	7.0%	8.5%	41.5%	28.2%	14.8%	100.0%

表13-5-1 学部別による結果（その2）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
12. 自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	社会福祉学部（n = 781）	0.5%	4.6%	32.3%	48.5%	14.1%	100.0%
	社会学部（n = 267）	1.1%	8.2%	34.5%	38.2%	18.0%	100.0%
	総合福祉学部（n = 140）	2.9%	5.0%	31.4%	42.9%	17.9%	100.0%
13. 自分は生かされていると感じて生きる気持ち強い方だと思う	社会福祉学部（n = 782）	1.3%	7.4%	35.2%	34.0%	22.1%	100.0%
	社会学部（n = 268）	3.0%	8.6%	35.8%	34.0%	18.7%	100.0%
	総合福祉学部（n = 142）	8.5%	10.6%	40.8%	22.5%	17.6%	100.0%
14. どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う	社会福祉学部（n = 781）	0.5%	1.8%	19.0%	48.3%	30.5%	100.0%
	社会学部（n = 267）	0.4%	5.6%	20.2%	43.1%	30.7%	100.0%
	総合福祉学部（n = 142）	3.5%	3.5%	20.4%	49.3%	23.2%	100.0%
15. 他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う	社会福祉学部（n = 780）	1.8%	4.9%	24.7%	43.7%	24.9%	100.0%
	社会学部（n = 267）	3.7%	6.7%	28.8%	36.3%	24.3%	100.0%
	総合福祉学部（n = 142）	4.2%	4.9%	31.0%	40.1%	19.7%	100.0%

社会福祉学部が最も多い結果を示した質問項目は、項目2「国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」で社会福祉学部が25.1%、社会学部が19.4%、総合福祉学部が19.0%となった。項目4「社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う」については、社会福祉学部が26.7%、社会学部が25.4%、総合福祉学部が21.8%である。項目6「社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う」は、社会福祉学部が23.9%、社会学部は19.8%、総合福祉学部19.0%となった。項目7「社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う」では、社会福祉学部が15.9%、社会学部が10.0%、総合福祉学部が10.6%であった。項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」は、社会福祉学部が33.5%、社会学部が29.9%、総合福祉学部が31.0%であった。

このほか、項目9「与えられた命に感謝して生きる気持ち強い方だと思う」については、社会福祉学部は32.4%、社会学部が29.1%、総合福祉学部が28.2%となった。項目10「社会の一員として使命感をもっと生きたい、という気持ち強い方だと思う」では、社会福祉学部は20.7%、社会学部が14.6%、総合福祉学部は15.5%であった。項目11「人間の本性は、本質的に『善』なる心性をもつと思う」については、社会福祉学部は19.3%、社会学部は12.7%、総合福祉学部は14.8%となった。項目13「自分は生かされていると感じて生きる気持ち強い方だと思う」では、社会福祉学部が22.1%、社会学部が18.7%、総合福祉学部が17.6%であった。項目15「他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う」については、社会福祉学部が24.9%、社会学部が24.3%、総合福祉学部は19.7%となった。

一方、総合福祉学部が最も多い結果を示した質問項目は、項目3「日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ」が、総合福祉学部が20.4%、社会学部が17.9%、社会福祉学部が11.2%となった。項目5「東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う」については、総合福祉学部が32.4%、社会学部が30.6%、社会福祉学部が31.1%となっていた。個人生活の充実を重視すべきという観点については、総合福祉学部が、社会福祉学部より9.2ポイントも

高い回答を示しており、近年の卒業生は、個人の生活の充実を重視すべきと考えている傾向が高いことが明らかとなった。

問13-6 学科別による結果

学科（社会福祉学科、社会学科・人間社会学科、心理学科・実践心理学科）を属性とするクロス集計の結果は、以下の通りである。

表13-6-1 学科別による結果（その1）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 国を愛するという気持ちは強い方だと思う	社会福祉学科（n=1,019）	3.5%	12.5%	39.7%	34.2%	10.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	4.7%	13.2%	43.4%	31.1%	7.5%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	10.9%	21.9%	23.4%	35.9%	7.8%	100.0%
2. 国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	社会福祉学科（n=1,021）	0.3%	2.8%	21.5%	51.6%	23.7%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	0.9%	3.8%	29.2%	48.1%	17.9%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	1.6%	7.8%	21.9%	48.4%	20.3%	100.0%
3. 日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ	社会福祉学科（n=1,020）	1.1%	9.5%	42.3%	34.4%	12.7%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	1.9%	8.5%	35.8%	33.0%	20.8%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	1.6%	10.9%	23.4%	43.8%	20.3%	100.0%
4. 社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う	社会福祉学科（n=1,020）	0.5%	1.7%	16.1%	56.0%	25.8%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	3.8%	3.8%	20.8%	43.4%	28.3%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	4.7%	4.7%	23.4%	48.4%	18.8%	100.0%
5. 東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う	社会福祉学科（n=1,019）	0.5%	2.5%	17.3%	47.8%	32.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	1.9%	3.8%	24.5%	42.5%	27.4%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	3.1%	6.3%	25.0%	40.6%	25.0%	100.0%
6. 社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う	社会福祉学科（n=1,019）	0.4%	4.3%	26.5%	45.2%	23.6%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	3.8%	17.9%	32.1%	29.2%	17.0%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	4.7%	15.6%	23.4%	45.3%	10.9%	100.0%
7. 社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う	社会福祉学科（n=1,023）	2.1%	8.9%	31.0%	43.9%	14.2%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=106）	4.7%	9.4%	40.6%	30.2%	15.1%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	6.3%	9.4%	42.2%	35.9%	6.3%	100.0%
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う	社会福祉学科（n=1,019）	0.7%	1.9%	14.1%	49.7%	33.7%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=105）	0.0%	5.7%	27.6%	41.0%	25.7%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	1.6%	4.7%	14.1%	57.8%	21.9%	100.0%
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ち強い方だと思う	社会福祉学科（n=1,023）	0.8%	5.9%	21.2%	39.7%	32.5%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=105）	3.8%	12.4%	26.7%	35.2%	21.9%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	6.3%	7.8%	23.4%	39.1%	23.4%	100.0%
10. 社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ち強い方だと思う	社会福祉学科（n=1,020）	1.7%	8.1%	34.2%	36.7%	19.3%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=105）	7.6%	16.2%	26.7%	33.3%	16.2%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	12.5%	12.5%	25.0%	40.6%	9.4%	100.0%
11. 人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う	社会福祉学科（n=1,019）	2.9%	6.0%	35.7%	37.4%	18.0%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=105）	7.6%	21.9%	27.6%	30.5%	12.4%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	14.1%	7.8%	34.4%	32.8%	10.9%	100.0%
12. 自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	社会福祉学科（n=1,020）	0.4%	4.9%	32.8%	46.7%	15.2%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=105）	4.8%	12.4%	30.5%	38.1%	14.3%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=63）	3.2%	3.2%	36.5%	38.1%	19.0%	100.0%
13. 自分は生かされていると感じて生きる気持ちが強い方だと思う	社会福祉学科（n=1,023）	1.6%	7.3%	36.7%	33.5%	20.9%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n=105）	6.7%	13.3%	30.5%	27.6%	21.9%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n=64）	10.9%	10.9%	37.5%	25.0%	15.6%	100.0%

表13-6-1 学科別による結果（その2）

問13. 生きていく上での意識（人生観について）		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
14. どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う	社会福祉学科（n = 1,022）	0.6%	2.3%	18.5%	48.3%	30.3%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n = 104）	1.9%	6.7%	23.1%	41.3%	26.9%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n = 64）	3.1%	6.3%	29.7%	40.6%	20.3%	100.0%
15. 他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う	社会福祉学科（n = 1,020）	2.1%	5.0%	26.1%	42.3%	24.6%	100.0%
	社会学科・人間社会学科（n = 105）	5.7%	8.6%	28.6%	34.3%	22.9%	100.0%
	心理学科・実践心理学科（n = 64）	4.7%	4.7%	28.1%	46.9%	15.6%	100.0%

学科（社会福祉学科、社会学科・人間社会学科、心理学科・実践心理学科）を属性とするクロス集計の結果では、「思う」という回答について、社会福祉学科が最も多くなっていた質問は以下のものとなった。項目2「国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」が、社会福祉学科23.7%、社会学科・人間社会学科17.9%、心理学科・実践心理学科20.3%であった。項目5「東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う」は、社会福祉学科が32.0%、社会学科・人間社会学科が27.4%、心理学科・実践心理学科が25.0%となった。項目6「社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う」については、社会福祉学科が23.6%、社会学科・人間社会学科17.0%、心理学科・実践心理学科10.9%であった。項目8「社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う」では、社会福祉学科が33.7%、社会学科・人間社会学科が25.7%、心理学科・実践心理学科が21.9%となった。項目9「与えられた命に感謝して生きる気持ちが強い方だと思う」では、社会福祉学科が32.5%、社会学科・人間社会学科が21.9%、心理学科・実践心理学科が23.4%であった。項目10「社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちが強い方だと思う」については、社会福祉学科が19.3%、社会学科・人間社会学科が16.2%、心理学科・実践心理学科が9.4%となった。項目11「人間の本性は、本質的に『善』なる心性をもつと思う」では、社会福祉学科が18.0%、社会学科・人間社会学科が12.4%、心理学科・実践心理学科が10.9%であった。項目14「どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う」では、社会福祉学科が30.3%、社会学科・人間社会学科が26.9%、心理学科・実践心理学科が20.3%となった。項目15「他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う」については、社会福祉学科が24.6%、社会学科・人間社会学科が22.9%、心理学科・実践心理学科が15.6%であった。

他方、心理学科・実践心理学科の回答が最も多かった質問は、項目12「自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う」で心理学科・実践心理学科が19.0%、社会学科・人間社会学科が14.3%、社会福祉学科が15.2%であった。

問14 人生において重要だと考えていることについて

目 次

- 問14-1 項目の選定
- 問14-2 結果の概要
- 問14-3 性別による結果
- 問14-4 卒業年別による結果
- 問14-5 学部別による結果
- 問14-6 学科別による結果
- 問14-7 淑徳大学時代の学びについて
- 問14-8 降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

問14-1 項目の選定

「人生において重要だと考えていること」の質問項目としては、学祖の思想・理念と考えられる項目として、項目13「一人ひとりが、自己実現を果たすことができるような社会づくりに貢献すること」、項目14「全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること」、項目15、「利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること」、の3項目を選定した。

また、大学への帰属意識として、項目16「母校である淑徳大学を愛する気持ちを持って生きること」、項目17「淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること」、項目18「淑徳大学卒業生としての、連携やつながりをもち続けること」、項目19「淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識をもつこと」の4項目を選定した。

それらに加えて、内閣府による平成24年度版「子ども・若者白書」「特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立、就学等支援の現状と課題」および厚生労働省、平成23年第7回「中高年者の生活に関する継続調査〔女性票〕〔男性表〕平成23年11月6日調査」を参考に、表14-1に示した項目1～項目12までの12項目を加えた。その結果、「人生において重要だと考えること」は合計19項目で構成された。

回答方法は、各項目について〔思う：5〕から〔思わない：1〕までの5段階で考えて、当てはまる番号を1つ選択してもらった。

表14-1 「人生において重要だと考えていること」の項目一覧とカテゴリー

【内閣府の調査項目】

1. お金持ちになること
2. 自由にのんびり暮らすこと
3. 世界で活躍すること
4. 多くの人に役立つこと
5. 有名になること
6. 結婚して家庭を持つこと
7. 子どもを育てること
8. 親や家族を大切にすること
9. 健康であること
10. 常に学び続けること
11. 自分が専門としている領域で、有用な仕事をする
12. 社会人として、同僚から高い評価を得られる人間であること

【学祖の思想・理念に関する項目】

13. 一人ひとりが、自己実現果たすことができるような社会づくりに貢献すること
14. 全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること
15. 利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること

【運営委員会選定項目】

16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちをもって生きること
17. 淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること
18. 淑徳大学卒業生としての、連携やつながりをもち続けること
19. 淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識をもつこと

問14-2 結果の概要

「問14. 人生において重要だと考えること」について、表14-2の結果が示された。

卒業生が人生において重要だと考えることは、「思う」が最も多かったのは「9. 健康であること」(83.2%)、2番目は「8. 親や家族を大切にすること」(68.9%)、3番目が「10. 常に学び続けること」(54.0%)、4番目として「7. 子どもを育てること」(48.2%)であった。5番目以降としては、「6. 結婚して家庭を持つこと」(40.1%)、6番目に大事にしたいこととしては、「11. 自分が専門としている領域で、有用な仕事をする」(35.6%)、7番目が「14. 全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること」(28.8%)、8番目が「4. 多くの人の役に立つこと」(26.5%)となった。続いて9番目が「2. 自由にのんびり暮らすこと」(23.4%)、10番目が「15. 利己主義ではなく利他主義、共生の精神で生きること」が20.8%となった。「思わない」回答したのは、「5. 有名になること」(38.9%)、「3. 世界で活躍すること」(19.3%)であった。

【学祖の思想・理念に関する項目】として設定した項目13から項目15までの3項目は、「思う」はいずれも20%台であったが「やや思う」を加えると64%、71%、67.5%であった。

表14-2 「人生において重要だと考えていること」の19項目の結果

問14. 人生において重要だと考えること		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. お金持ちになること	件 数	103	276	372	375	73	1,199
	比 率	8.6%	23.0%	31.0%	31.3%	6.1%	100.0%
2. 自由にのんびり暮らすこと	件 数	19	94	238	566	280	1,197
	比 率	1.6%	7.9%	19.9%	47.3%	23.4%	100.0%
3. 世界で活躍すること	件 数	231	385	391	153	37	1,197
	比 率	19.3%	32.2%	32.7%	12.8%	3.1%	100.0%
4. 多くの人の役に立つこと	件 数	18	82	210	571	317	1,198
	比 率	1.5%	6.8%	17.5%	47.7%	26.5%	100.0%
5. 有名になること	件 数	466	369	303	54	7	1,199
	比 率	38.9%	30.8%	25.3%	4.5%	0.6%	100.0%
6. 結婚して家庭をもつこと	件 数	38	59	209	409	479	1,194
	比 率	3.2%	4.9%	17.5%	34.3%	40.1%	100.0%
7. 子どもを育てること	件 数	29	42	153	395	576	1,195
	比 率	2.4%	3.5%	12.8%	33.1%	48.2%	100.0%
8. 親や家族を大切にすること	件 数	0	8	45	320	826	1,199
	比 率	0.0%	0.7%	3.8%	26.7%	68.9%	100.0%
9. 健康であること	件 数	3	1	18	179	996	1,197
	比 率	0.3%	0.1%	1.5%	15.0%	83.2%	100.0%
10. 常に学び続けること	件 数	4	10	94	444	647	1,199
	比 率	0.3%	0.8%	7.8%	37.0%	54.0%	100.0%
11. 自分が専門としている領域で、 有用な仕事をする	件 数	25	48	207	490	426	1,196
	比 率	2.1%	4.0%	17.3%	41.0%	35.6%	100.0%
12. 社会人として、同僚から高い 評価を得られる人間であること	件 数	71	143	446	387	150	1,197
	比 率	5.9%	11.9%	37.3%	32.3%	12.5%	100.0%
13. 一人ひとりが、自己実現を果た すことができるような社会づくり	件 数	25	80	327	519	248	1,199
	比 率	2.1%	6.7%	27.3%	43.3%	20.7%	100.0%
14. 全ての人が平等な、偏見のない 社会づくりに貢献すること	件 数	19	57	272	505	345	1,198
	比 率	1.6%	4.8%	22.7%	42.2%	28.8%	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、 共生の精神で生きること	件 数	13	45	331	558	249	1,196
	比 率	1.1%	3.8%	27.7%	46.7%	20.8%	100.0%
16. 母校である淑徳大学を愛する 気持ちをもって生きること	件 数	82	141	531	337	108	1,199
	比 率	6.8%	11.8%	44.3%	28.1%	9.0%	100.0%
17. 淑徳大学で学んだことに誇り をもって生きること	件 数	65	121	450	410	152	1,198
	比 率	5.4%	10.1%	37.6%	34.2%	12.7%	100.0%
18. 淑徳大学卒業生としての、連 携やつながりを持ち続けること	件 数	67	149	458	390	135	1,199
	比 率	5.6%	12.4%	38.2%	32.5%	11.3%	100.0%
19. 淑徳大学の卒業生としての、 仲間意識や帰属意識もつこと	件 数	78	167	509	331	113	1,198
	比 率	6.5%	13.9%	42.5%	27.6%	9.4%	100.0%

問14-3 性別による結果

人生で重要と考えることの性別の結果は、表14-3-1（その1）および（その2）の通りであった。

「思う」の回答率が一番高かった「9. 健康であること」は男性78.0%よりも女性が85.8%と高く、二番目に回答率が高かった「8. 親や家族を大切にすること」は男性68.9%、女性68.8%とほぼ同じ割合であった。男性、女性とも全く同じ回答率（28.8%）であったのは、「14. 全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること」であった。

女性の比率が高かった項目は、「10. 常に学び続けること」のみで、後の調査項目全て男性が

高率であった。「6. 結婚して家庭を持つこと」や「7. 子どもを育てること」等も共に5～6％程であるが、男性の方が高かった。

「16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちを持って生きること」や「17. 淑徳大学で学んだことに誇りを持って生きること」、「18. 淑徳大学の卒業生としての連携やつながりを持ち続けること」の項目においても、3～4％程度ではあるが、男性の方が高かった。

どの項目を見ても、8、9、14以外は、全て男性の方が高い率を示していた。

表14-3 性別による結果（その1）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. お金持ちになること	男性	件 数	40	86	102	129	39	396
		比 率	10.1%	21.7%	25.8%	32.6%	9.8%	100.0%
	女性	件 数	63	190	268	246	34	801
		比 率	7.9%	23.7%	33.5%	30.7%	4.2%	100.0%
2. 自由にのんびり暮らすこと	男性	件 数	12	30	68	176	109	395
		比 率	3.0%	7.6%	17.2%	44.6%	27.6%	100.0%
	女性	件 数	7	63	170	389	171	800
		比 率	0.9%	7.9%	21.3%	48.6%	21.4%	100.0%
3. 世界で活躍すること	男性	件 数	82	115	127	59	13	396
		比 率	20.7%	29.0%	32.1%	14.9%	3.3%	100.0%
	女性	件 数	149	270	264	93	23	799
		比 率	18.6%	33.8%	33.0%	11.6%	2.9%	100.0%
4. 多くの人の役に立つこと	男性	件 数	7	19	66	179	125	396
		比 率	1.8%	4.8%	16.7%	45.2%	31.6%	100.0%
	女性	件 数	11	63	144	391	191	800
		比 率	1.4%	7.9%	18.0%	48.9%	23.9%	100.0%
5. 有名になること	男性	件 数	132	106	121	30	7	396
		比 率	33.3%	26.8%	30.6%	7.6%	1.8%	100.0%
	女性	件 数	333	262	182	24	0	801
		比 率	41.6%	32.7%	22.7%	3.0%	0.0%	100.0%
6. 結婚して家庭をもつこと	男性	件 数	10	15	63	131	174	393
		比 率	2.5%	3.8%	16.0%	33.3%	44.3%	100.0%
	女性	件 数	28	44	146	278	303	799
		比 率	3.5%	5.5%	18.3%	34.8%	37.9%	100.0%
7. 子どもを育てること	男性	件 数	7	12	49	123	202	393
		比 率	1.8%	3.1%	12.5%	31.3%	51.4%	100.0%
	女性	件 数	22	30	104	272	372	800
		比 率	2.8%	3.8%	13.0%	34.0%	46.5%	100.0%
8. 親や家族を大切にすること	男性	件 数	0	0	15	108	273	396
		比 率	0.0%	0.0%	3.8%	27.3%	68.9%	100.0%
	女性	件 数	0	8	30	212	551	801
		比 率	0.0%	1.0%	3.7%	26.5%	68.8%	100.0%
9. 健康であること	男性	件 数	1	0	9	77	308	395
		比 率	0.3%	0.0%	2.3%	19.5%	78.0%	100.0%
	女性	件 数	2	1	9	102	686	800
		比 率	0.3%	0.1%	1.1%	12.8%	85.8%	100.0%
10. 常に学び続けること	男性	件 数	2	4	42	146	202	396
		比 率	0.5%	1.0%	10.6%	36.9%	51.0%	100.0%
	女性	件 数	2	6	52	298	443	801
		比 率	0.2%	0.7%	6.5%	37.2%	55.3%	100.0%

表14-3 性別による結果（その2）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
11. 自分が専門としている領域で、有用な仕事をする事	男性	件 数 比 率	10 2.5%	16 4.1%	62 15.7%	151 38.2%	156 39.5%	395 100.0%
	女性	件 数 比 率	15 1.9%	32 4.0%	145 18.1%	338 42.3%	269 33.7%	799 100.0%
12. 社会人として、同僚から高い評価を得られる人間であること	男性	件 数 比 率	28 7.1%	47 11.9%	125 31.6%	138 34.9%	57 14.4%	395 100.0%
	女性	件 数 比 率	43 5.4%	95 11.9%	321 40.1%	248 31.0%	93 11.6%	800 100.0%
13. 一人ひとりが、自己実現を果たすことができるような社会づくりに貢献すること	男性	件 数 比 率	9 2.3%	24 6.1%	97 24.5%	171 43.2%	95 24.0%	396 100.0%
	女性	件 数 比 率	16 2.0%	56 7.0%	230 28.7%	347 43.3%	152 19.0%	801 100.0%
14. 全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること	男性	件 数 比 率	10 2.5%	23 5.8%	85 21.5%	164 41.4%	114 28.8%	396 100.0%
	女性	件 数 比 率	9 1.1%	33 4.1%	187 23.4%	341 42.6%	230 28.8%	800 100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること	男性	件 数 比 率	7 1.8%	17 4.3%	113 28.6%	169 42.8%	89 22.5%	395 100.0%
	女性	件 数 比 率	6 0.8%	28 3.5%	218 27.3%	388 48.6%	159 19.9%	799 100.0%
16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちをもって生きること	男性	件 数 比 率	26 6.6%	37 9.3%	155 39.1%	128 32.3%	50 12.6%	396 100.0%
	女性	件 数 比 率	56 7.0%	103 12.9%	375 46.8%	209 26.1%	58 7.2%	801 100.0%
17. 淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること	男性	件 数 比 率	21 5.3%	41 10.4%	144 36.4%	131 33.1%	59 14.9%	396 100.0%
	女性	件 数 比 率	44 5.5%	79 9.9%	306 38.3%	279 34.9%	92 11.5%	800 100.0%
18. 淑徳大学卒業生としての、連携やつながりを持ち続けること	男性	件 数 比 率	23 5.8%	43 10.9%	123 31.1%	152 38.4%	55 13.9%	396 100.0%
	女性	件 数 比 率	44 5.5%	105 13.1%	335 41.8%	238 29.7%	79 9.9%	801 100.0%
19. 淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識もつこと	男性	件 数 比 率	24 6.1%	50 12.6%	139 35.1%	133 33.6%	50 12.6%	396 100.0%
	女性	件 数 比 率	54 6.8%	116 14.5%	370 46.3%	198 24.8%	62 7.8%	800 100.0%

問14-4 卒業年別による結果

人生で重要だと考えることを卒業年別の結果は表14-4（その1）～（その4）に示した。

「9. 健康であること」が、どの期においても重要であり、全ての期が「思う」と回答し、80%を超える高い率を占めた。「1. お金持ちになること」や「3. 世界で活躍すること」の項目は、卒期が若くなるほど比率は高くなる。「1. お金持ちになること」は1期～9期では、「思う」は4.7%であるのに対して、卒期37～45期では8.5%になった。

また、「6. 結婚して家庭を持つこと」、「7. 子どもを育てること」等は、卒期全てが同じような結果で、共に重要と「思う」が40～45%程の率を占めていた。

「13. 一人ひとりが自己実現を果たすことができるような社会づくりに貢献すること」につい

ては、「やや思う」「思う」を合わせると、各卒期共に43%以上の割合に達していた。また、「14. 全ての人が平等な偏見のない社会づくりに貢献すること」、「15. 利己主義ではなく利他主義、共生の精神で生きること」等の項目でも「やや思う」「思う」を合わせると、50%近くになった。

中でも14、15の項目は、卒期1期～9期が重要だと「やや思う」「思う」を合わせると、79.3%と78.4%と他の卒期よりも若干高い比率を示していた。

「16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちを持って生きること」については、「やや思う」「思う」を合わせると、卒期1期～9期が52.3%と卒期11期～17期が38.4%、卒期19期～卒期27期は40.5%、卒期29期～卒期35期は29.8%、卒期37期～卒期45期は29.4%と、卒期が古い程、愛校心が強い傾向が見られた。

「17. 淑徳大学で学んだことに誇りを持って生きること」については、卒期1期～卒期9期が、回答「思う」で見ると15.9%であるが、卒期37期～卒期45期になると、9.2%と低くなる。

表14-4 卒業年別「人生で重要だと考えること」の結果（その1）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. お金持ちになること	卒期1期生～卒期9期生	件 数	22	42	60	38	8	170
		比 率	12.9%	24.7%	35.3%	22.4%	4.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	18	62	79	70	16	245
		比 率	7.3%	25.3%	32.2%	28.6%	6.5%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	16	54	77	89	11	247
		比 率	6.5%	21.9%	31.2%	36.0%	4.5%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	25	62	78	75	15	255
		比 率	9.8%	24.3%	30.6%	29.4%	5.9%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	21	55	74	99	23	272
		比 率	7.7%	20.2%	27.2%	36.4%	8.5%	100.0%
2. 自由にのんびり暮らすこと	卒期1期生～卒期9期生	件 数	3	10	37	84	35	169
		比 率	1.8%	5.9%	21.9%	49.7%	20.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	4	31	61	107	41	244
		比 率	1.6%	12.7%	25.0%	43.9%	16.8%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	5	20	58	120	44	247
		比 率	2.0%	8.1%	23.5%	48.6%	17.8%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	5	16	44	131	59	255
		比 率	2.0%	6.3%	17.3%	51.4%	23.1%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	2	15	37	118	100	272
		比 率	0.7%	5.5%	13.6%	43.4%	36.8%	100.0%
3. 世界で活躍すること	卒期1期生～卒期9期生	件 数	37	48	62	20	3	170
		比 率	21.8%	28.2%	36.5%	11.8%	1.8%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	52	76	80	32	4	244
		比 率	21.3%	31.1%	32.8%	13.1%	1.6%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	48	78	88	25	8	247
		比 率	19.4%	31.6%	35.6%	10.1%	3.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	47	85	73	42	7	254
		比 率	18.5%	33.5%	28.7%	16.5%	2.8%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	45	94	86	32	15	272
		比 率	16.5%	34.6%	31.6%	11.8%	5.5%	100.0%

表14-4 卒業年別「人生で重要だと考えること」の結果（その2）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
4. 多くの人の役に立つこと	卒期1期生～卒期9期生	件 数	4	15	28	89	33	169
		比 率	2.4%	8.9%	16.6%	52.7%	19.5%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	4	19	39	116	67	245
		比 率	1.6%	7.8%	15.9%	47.3%	27.3%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	1	15	54	125	52	247
		比 率	0.4%	6.1%	21.9%	50.6%	21.1%	100.0%
5. 有名になること	卒期29期生～卒期35期生	件 数	4	23	34	133	61	255
		比 率	1.6%	9.0%	13.3%	52.2%	23.9%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	5	9	54	105	99	272
		比 率	1.8%	3.3%	19.9%	38.6%	36.4%	100.0%
	卒期1期生～卒期9期生	件 数	72	51	44	3	0	170
		比 率	42.4%	30.0%	25.9%	1.8%	0.0%	100.0%
6. 結婚して家庭をもつこと	卒期11期生～卒期17期生	件 数	93	67	77	8	0	245
		比 率	38.0%	27.3%	31.4%	3.3%	0.0%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	93	75	67	10	2	247
		比 率	37.7%	30.4%	27.1%	4.0%	0.8%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	107	81	44	20	3	255
		比 率	42.0%	31.8%	17.3%	7.8%	1.2%	100.0%
7. 子どもを育てること	卒期37期生～卒期45期生	件 数	96	93	70	11	2	272
		比 率	35.3%	34.2%	25.7%	4.0%	0.7%	100.0%
	卒期1期生～卒期9期生	件 数	5	4	38	56	65	168
		比 率	3.0%	2.4%	22.6%	33.3%	38.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	8	15	42	89	89	243
		比 率	3.3%	6.2%	17.3%	36.6%	36.6%	100.0%
8. 親や家族を大切にすること	卒期19期生～卒期27期生	件 数	4	16	52	83	92	247
		比 率	1.6%	6.5%	21.1%	33.6%	37.2%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	7	13	44	91	100	255
		比 率	2.7%	5.1%	17.3%	35.7%	39.2%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	14	10	33	89	125	271
		比 率	5.2%	3.7%	12.2%	32.8%	46.1%	100.0%
9. 健康であること	卒期1期生～卒期9期生	件 数	2	3	27	62	74	168
		比 率	1.2%	1.8%	16.1%	36.9%	44.0%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	7	3	27	91	117	245
		比 率	2.9%	1.2%	11.0%	37.1%	47.8%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	5	12	36	75	119	247
		比 率	2.0%	4.9%	14.6%	30.4%	48.2%	100.0%
10. 夢を叶えること	卒期29期生～卒期35期生	件 数	7	12	33	80	123	255
		比 率	2.7%	4.7%	12.9%	31.4%	48.2%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	8	12	29	85	136	270
		比 率	3.0%	4.4%	10.7%	31.5%	50.4%	100.0%
	卒期1期生～卒期9期生	件 数	0	1	10	48	111	170
		比 率	0.0%	0.6%	5.9%	28.2%	65.3%	100.0%
11. 学業で成功すること	卒期11期生～卒期17期生	件 数	0	1	15	72	157	245
		比 率	0.0%	0.4%	6.1%	29.4%	64.1%	100.0%
	卒期19期生～卒期27期生	件 数	0	0	8	75	164	247
		比 率	0.0%	0.0%	3.2%	30.4%	66.4%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	0	5	5	62	183	255
		比 率	0.0%	2.0%	2.0%	24.3%	71.8%	100.0%
12. 収入が豊かになること	卒期37期生～卒期45期生	件 数	0	1	7	61	203	272
		比 率	0.0%	0.4%	2.6%	22.4%	74.6%	100.0%
	卒期1期生～卒期9期生	件 数	0	1	2	23	144	170
		比 率	0.0%	0.6%	1.2%	13.5%	84.7%	100.0%
	卒期11期生～卒期17期生	件 数	1	0	4	43	197	245
		比 率	0.4%	0.0%	1.6%	17.6%	80.4%	100.0%
13. 結婚して子供を育てること	卒期19期生～卒期27期生	件 数	0	0	2	45	199	246
		比 率	0.0%	0.0%	0.8%	18.3%	80.9%	100.0%
	卒期29期生～卒期35期生	件 数	1	0	4	27	223	255
		比 率	0.4%	0.0%	1.6%	10.6%	87.5%	100.0%
	卒期37期生～卒期45期生	件 数	1	0	6	40	224	271
		比 率	0.4%	0.0%	2.2%	14.8%	82.7%	100.0%

表14-4 卒業年別「人生で重要だと考えること」の結果（その3）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
10. 常に学び続けること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	0	1	13	60	96	170
		比 率	0.0%	0.6%	7.6%	35.3%	56.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	0	3	13	91	138	245
		比 率	0.0%	1.2%	5.3%	37.1%	56.3%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	2	3	20	98	124	247
		比 率	0.8%	1.2%	8.1%	39.7%	50.2%	100.0%
11. 自分が専門としている領域で、 有用な仕事をすること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	0	1	15	87	152	255
		比 率	0.0%	0.4%	5.9%	34.1%	59.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	2	2	32	105	131	272
		比 率	0.7%	0.7%	11.8%	38.6%	48.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	2	8	32	62	66	170
		比 率	1.2%	4.7%	18.8%	36.5%	38.8%	100.0%
12. 社会人として、 同僚から高い評価を得られる人間であること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	10	34	105	92	245
		比 率	1.6%	4.1%	13.9%	42.9%	37.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	5	8	39	110	84	246
		比 率	2.0%	3.3%	15.9%	44.7%	34.1%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	7	7	45	103	92	254
		比 率	2.8%	2.8%	17.7%	40.6%	36.2%	100.0%
13. 一人ひとりが、 自己実現を果たすことができる ような社会づくりに貢献すること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	7	15	55	107	87	271
		比 率	2.6%	5.5%	20.3%	39.5%	32.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	8	24	62	53	22	169
		比 率	4.7%	14.2%	36.7%	31.4%	13.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	10	25	88	86	35	244
		比 率	4.1%	10.2%	36.1%	35.2%	14.3%	100.0%
14. 全ての人が平 等な、偏見のない社会づくりに 貢献すること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	20	30	98	80	19	247
		比 率	8.1%	12.1%	39.7%	32.4%	7.7%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	17	31	99	75	33	255
		比 率	6.7%	12.2%	38.8%	29.4%	12.9%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	16	31	97	90	38	272
		比 率	5.9%	11.4%	35.7%	33.1%	14.0%	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、 共生の精神で生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	5	11	42	73	39	170
		比 率	2.9%	6.5%	24.7%	42.9%	22.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	2	13	61	107	62	245
		比 率	0.8%	5.3%	24.9%	43.7%	25.3%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	6	16	62	124	39	247
		比 率	2.4%	6.5%	25.1%	50.2%	15.8%	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、 共生の精神で生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	5	19	73	108	50	255
		比 率	2.0%	7.5%	28.6%	42.4%	19.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	7	19	88	105	53	272
		比 率	2.6%	7.0%	32.4%	38.6%	19.5%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	5	30	80	51	167
		比 率	0.6%	3.0%	18.0%	47.9%	30.5%	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、 共生の精神で生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	10	44	108	81	245
		比 率	0.8%	4.1%	18.0%	44.1%	33.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	4	16	58	106	63	247
		比 率	1.6%	6.5%	23.5%	42.9%	25.5%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	7	13	68	109	58	255
		比 率	2.7%	5.1%	26.7%	42.7%	22.7%	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、 共生の精神で生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	5	16	67	106	78	272
		比 率	1.8%	5.9%	24.6%	39.0%	28.7%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	1	7	59	120	58	245
		比 率	0.4%	2.9%	24.1%	49.0%	23.7%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	1	8	72	118	48	247
		比 率	0.4%	3.2%	29.1%	47.8%	19.4%	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、 共生の精神で生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	5	10	82	117	41	255
		比 率	2.0%	3.9%	32.2%	45.9%	16.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	5	14	87	122	44	272
		比 率	1.8%	5.1%	32.0%	44.9%	16.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数						
		比 率						

表14-4 卒業年別「人生で重要だと考えること」の結果（その4）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらでも ない	やや思う	思う	合 計
16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちをもって生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	5	7	69	67	22	170
		比 率	2.9%	4.1%	40.6%	39.4%	12.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	7	29	115	71	23	245
		比 率	2.9%	11.8%	46.9%	29.0%	9.4%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	16	26	105	69	31	247
		比 率	6.5%	10.5%	42.5%	27.9%	12.6%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	22	37	120	62	14	255
		比 率	8.6%	14.5%	47.1%	24.3%	5.5%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	32	41	119	64	16	272
		比 率	11.8%	15.1%	43.8%	23.5%	5.9%	100.0%
17. 淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	6	9	59	69	27	170
		比 率	3.5%	5.3%	34.7%	40.6%	15.9%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	8	26	100	78	32	244
		比 率	3.3%	10.7%	41.0%	32.0%	13.1%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	13	21	93	83	37	247
		比 率	5.3%	8.5%	37.7%	33.6%	15.0%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	17	31	98	81	28	255
		比 率	6.7%	12.2%	38.4%	31.8%	11.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	21	33	98	95	25	272
		比 率	7.7%	12.1%	36.0%	34.9%	9.2%	100.0%
18. 淑徳大学卒業生としての、連携やつながりを持ち続けること	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	6	11	71	62	20	170
		比 率	3.5%	6.5%	41.8%	36.5%	11.8%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	9	29	93	85	29	245
		比 率	3.7%	11.8%	38.0%	34.7%	11.8%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	14	34	95	76	28	247
		比 率	5.7%	13.8%	38.5%	30.8%	11.3%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	15	35	106	76	23	255
		比 率	5.9%	13.7%	41.6%	29.8%	9.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	22	39	89	90	32	272
		比 率	8.1%	14.3%	32.7%	33.1%	11.8%	100.0%
19. 淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識もつこと	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	7	10	74	62	17	170
		比 率	4.1%	5.9%	43.5%	36.5%	10.0%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	10	31	108	65	30	244
		比 率	4.1%	12.7%	44.3%	26.6%	12.3%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	17	36	97	73	24	247
		比 率	6.9%	14.6%	39.3%	29.6%	9.7%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	21	40	116	61	17	255
		比 率	8.2%	15.7%	45.5%	23.9%	6.7%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	22	49	110	69	22	272
		比 率	8.1%	18.0%	40.4%	25.4%	8.1%	100.0%

問14-5 学部別による結果

「人生で重要だと考えること」の学部別による結果を表14-5（その1）～（その3）に示した。

表14-5 学部別「人生で重要だと考えること」（その1）

問14. 人生において重要だと考えること		思わない		あまり 思わない		どちらでも ない		やや思う		思う		合 計	
		件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1. お金持ちになること	社会福祉学部	71	9.1%	182	23.2%	248	31.7%	240	30.7%	42	5.4%	783	100.0%
	社会学部	21	7.8%	62	23.0%	80	29.7%	88	32.7%	18	6.7%	269	100.0%
	総合福祉学部	11	7.7%	31	21.7%	41	28.7%	47	32.9%	13	9.1%	143	100.0%

表14-5 学部別「人生で重要だと考えること」(その2)

問14. 人生において重要だと考えること		思わない		あまり思わない		どちらでもない		やや思う		思う		合 計	
		件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
2. 自由にのんびり暮らすこと	社会福祉学部	14	1.8%	66	8.5%	175	22.4%	374	47.9%	152	19.5%	781	100.0%
	社会学部	4	1.5%	19	7.1%	44	16.4%	128	47.6%	74	27.5%	269	100.0%
	総合福祉学部	1	0.7%	9	6.3%	19	13.3%	62	43.4%	52	36.4%	143	100.0%
3. 世界で活躍すること	社会福祉学部	163	20.8%	243	31.1%	269	34.4%	90	11.5%	17	2.2%	782	100.0%
	社会学部	44	16.4%	91	34.0%	78	29.1%	41	15.3%	14	5.2%	268	100.0%
	総合福祉学部	24	16.8%	48	33.6%	43	30.1%	22	15.4%	6	4.2%	143	100.0%
4. 多くの人の役に立つこと	社会福祉学部	10	1.3%	61	7.8%	144	18.4%	384	49.1%	183	23.4%	782	100.0%
	社会学部	5	1.9%	15	5.6%	34	12.6%	134	49.8%	81	30.1%	269	100.0%
	総合福祉学部	3	2.1%	6	4.2%	30	21.0%	51	35.7%	53	37.1%	143	100.0%
5. 有名になること	社会福祉学部	306	39.1%	236	30.1%	210	26.8%	28	3.6%	3	0.4%	783	100.0%
	社会学部	107	39.8%	84	31.2%	54	20.1%	22	8.2%	2	0.7%	269	100.0%
	総合福祉学部	52	36.4%	48	33.6%	37	25.9%	4	2.8%	2	1.4%	143	100.0%
6. 結婚して家庭をもつこと	社会福祉学部	20	2.6%	42	5.4%	153	19.6%	266	34.1%	298	38.3%	779	100.0%
	社会学部	10	3.7%	11	4.1%	43	16.0%	94	35.1%	110	41.0%	268	100.0%
	総合福祉学部	8	5.6%	5	3.5%	13	9.1%	49	34.3%	68	47.6%	143	100.0%
7. 子どもを育てること	社会福祉学部	17	2.2%	21	2.7%	107	13.7%	266	34.1%	370	47.4%	781	100.0%
	社会学部	7	2.6%	15	5.6%	33	12.4%	86	32.2%	126	47.2%	267	100.0%
	総合福祉学部	5	3.5%	6	4.2%	12	8.4%	43	30.1%	77	53.8%	143	100.0%
8. 親や家族を大切にすること	社会福祉学部	0	0.0%	3	0.4%	35	4.5%	223	28.5%	522	66.7%	783	100.0%
	社会学部	0	0.0%	4	1.5%	5	1.9%	66	24.5%	194	72.1%	269	100.0%
	総合福祉学部	0	0.0%	1	0.7%	5	3.5%	30	21.0%	107	74.8%	143	100.0%
9. 健康であること	社会福祉学部	1	0.1%	1	0.1%	11	1.4%	121	15.5%	648	82.9%	782	100.0%
	社会学部	2	0.7%	0	0.0%	2	0.7%	38	14.1%	227	84.4%	269	100.0%
	総合福祉学部	0	0.0%	0	0.0%	5	3.5%	19	13.4%	118	83.1%	142	100.0%
10. 常に学び続けること	社会福祉学部	2	0.3%	7	0.9%	59	7.5%	295	37.7%	420	53.6%	783	100.0%
	社会学部	1	0.4%	2	0.7%	19	7.1%	83	30.9%	164	61.0%	269	100.0%
	総合福祉学部	1	0.7%	1	0.7%	14	9.8%	65	45.5%	62	43.4%	143	100.0%
11. 自分が専門としている領域で、有用な仕事をする	社会福祉学部	14	1.8%	31	4.0%	128	16.4%	330	42.2%	279	35.7%	782	100.0%
	社会学部	7	2.6%	9	3.4%	45	16.8%	106	39.6%	101	37.7%	268	100.0%
	総合福祉学部	4	2.8%	8	5.6%	32	22.5%	53	37.3%	45	31.7%	142	100.0%
12. 社会人として、同僚から高い評価を得られる人間であること	社会福祉学部	42	5.4%	99	12.7%	299	38.3%	251	32.1%	90	11.5%	781	100.0%
	社会学部	22	8.2%	24	8.9%	92	34.2%	87	32.3%	44	16.4%	269	100.0%
	総合福祉学部	7	4.9%	19	13.3%	53	37.1%	48	33.6%	16	11.2%	143	100.0%
13. 一人ひとりが、自己実現を果たすことができるような社会づくりに貢献すること	社会福祉学部	14	1.8%	47	6.0%	208	26.6%	348	44.4%	166	21.2%	783	100.0%
	社会学部	7	2.6%	23	8.6%	72	26.8%	114	42.4%	53	19.7%	269	100.0%
	総合福祉学部	4	2.8%	9	6.3%	45	31.5%	57	39.9%	28	19.6%	143	100.0%

表14-5 学部別「人生で重要だと考えること」(その3)

問14. 人生において重要だと考えること		思わない		あまり思わない		どちらでもない		やや思う		思う		合 計	
		件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
14. 全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること	社会福祉学部	8	1.0%	33	4.2%	171	21.9%	335	42.8%	235	30.1%	782	100.0%
	社会学部	7	2.6%	17	6.3%	67	24.9%	111	41.3%	67	24.9%	269	100.0%
	総合福祉学部	4	2.8%	7	4.9%	31	21.7%	58	40.6%	43	30.1%	143	100.0%
15. 利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること	社会福祉学部	6	0.8%	25	3.2%	197	25.3%	376	48.2%	176	22.6%	780	100.0%
	社会学部	4	1.5%	15	5.6%	79	29.4%	122	45.4%	49	18.2%	269	100.0%
	総合福祉学部	3	2.1%	5	3.5%	52	36.4%	59	41.3%	24	16.8%	143	100.0%
16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちをもって生きること	社会福祉学部	41	5.2%	77	9.8%	356	45.5%	228	29.1%	81	10.3%	783	100.0%
	社会学部	29	10.8%	44	16.4%	105	39.0%	71	26.4%	20	7.4%	269	100.0%
	総合福祉学部	11	7.7%	19	13.3%	69	48.3%	37	25.9%	7	4.9%	143	100.0%
17. 淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること	社会福祉学部	31	4.0%	72	9.2%	304	38.9%	268	34.3%	107	13.7%	782	100.0%
	社会学部	27	10.0%	32	11.9%	95	35.3%	82	30.5%	33	12.3%	269	100.0%
	総合福祉学部	6	4.2%	16	11.2%	50	35.0%	59	41.3%	12	8.4%	143	100.0%
18. 淑徳大学卒業生としての、連携やつながりを持ち続けること	社会福祉学部	36	4.6%	94	12.0%	311	39.7%	256	32.7%	86	11.0%	783	100.0%
	社会学部	24	8.9%	40	14.9%	99	36.8%	73	27.1%	33	12.3%	269	100.0%
	総合福祉学部	6	4.2%	15	10.5%	46	32.2%	60	42.0%	16	11.2%	143	100.0%
19. 淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識もつこと	社会福祉学部	44	5.6%	98	12.5%	339	43.4%	222	28.4%	79	10.1%	782	100.0%
	社会学部	26	9.7%	48	17.8%	110	40.9%	65	24.2%	20	7.4%	269	100.0%
	総合福祉学部	7	4.9%	21	14.7%	57	39.9%	44	30.8%	14	9.8%	143	100.0%

回答者が「人生で重要だと考えること」と、一番に挙げた「9. 健康であること」について「思う」と回答した割合を学部別でみると、社会福祉学部が82.9%、社会学部84.4%、総合福祉学部83.1%であった。3学部共に82%以上の高い比率である。

次に「8. 親や家族を大切にすること」は、総合福祉学部74.8%、社会学部72.1%、社会福祉学部66.7%であった。「10. 常に学び続けること」について「思う」と回答した割合では、社会学部が61.0%、次いで社会福祉学部が53.6%、総合福祉学部43.4%であった。

「13. 一人ひとりが、自己実現を果たすことができるような社会づくりに貢献すること」では、「やや思う」「思う」を合わせてみると、社会福祉学部65.6%、社会学部62.1%、総合福祉学部59.5%となった。

「15. 利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること」では、「やや思う」「思う」を合わせて見ると、社会福祉学部70.8%、社会学部63.6%、総合福祉学部58.1%であった。

「16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちを持って生きること」では、「やや思う」「思う」を合わせると、社会福祉学部39.4%、社会学部33.8%、総合福祉学部30.8%であった。3学部共に大差は無かった。

「17. 淑徳大学で学んだことに誇りを持って生きること」の項目では、「やや思う」「思う」を

合わせると、高い率から総合福祉学部49.7%、社会福祉学部48.0%、社会学部42.8%の順であった。逆に「思わない」の回答は、社会学部10.0%、総合福祉学部4.2%、社会福祉学部4.0%の順であった。

問14-6 学科別による結果

人生において重要だと考えることを各学科別の結果を表14-6（その1）～（その3）に示した。結果を見ると、「9. 健康であること」で「思う」と回答したのは社会福祉学科が84.0%、社会学科・人間社会学科が80.2%、心理学科・実践心理学科が76.6%となり、社会福祉学科が一番高い比率を示した。

全体の結果で2番目に重要とされた「8. 親や家族を大切にすること」に「思う」と回答したのは、高い率から、社会福祉学科69.8%、心理学科・実践心理学科が67.2%、社会学科・人間社会学科が61.3%の順となった。

3番目に重要だとされた「10. 常に学び続けること」は社会福祉学科54.7%、社会学科・人間社会学科が55.7%、心理学科・実践心理学科39.1%であった。

8番目に重要と回答があった、「2. 自由にのんびり暮らすこと」で「思う」と回答したのは社会福祉学科21.7%、社会学科・人間社会学科27.4%、心理学科・実践心理学科40.6%であった。

5番目に重要と回答があった「11. 自分が専門としている領域で有用な仕事をする」とは「思う」と回答したのは、社会福祉学科36.3%、社会学科・人間社会学科33.0%、心理学科・実践心理学科28.1%であった。

表14-6 学科別「人生で重要だと考えること」の結果（その1）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. お金持ちになること	社会福祉学科	件 数	93	240	320	314	58	1,025
		比 率	9.1%	23.4%	31.2%	30.6%	5.7%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	7	20	30	40	9	106
		比 率	6.6%	18.9%	28.3%	37.7%	8.5%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	3	16	19	20	6	64
		比 率	4.7%	25.0%	29.7%	31.3%	9.4%	100.0%
2. 自由にのんびり暮らすこと	社会福祉学科	件 数	16	84	215	486	222	1,023
		比 率	1.6%	8.2%	21.0%	47.5%	21.7%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	3	6	16	52	29	106
		比 率	2.8%	5.7%	15.1%	49.1%	27.4%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	0	4	7	27	26	64
		比 率	0.0%	6.3%	10.9%	42.2%	40.6%	100.0%
3. 世界で活躍すること	社会福祉学科	件 数	201	329	342	120	31	1,023
		比 率	19.6%	32.2%	33.4%	11.7%	3.0%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	20	29	26	26	5	106
		比 率	18.9%	27.4%	24.5%	24.5%	4.7%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	10	26	20	7	1	64
		比 率	15.6%	40.6%	31.3%	10.9%	1.6%	100.0%

表14-6 学科別「人生で重要だと考えること」の結果（その2）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
4. 多くの人の役に立つこと	社会福祉学科	件 数	11	76	188	493	256	1,024
		比 率	1.1%	7.4%	18.4%	48.1%	25.0%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	5	5	10	44	42	106
		比 率	4.7%	4.7%	9.4%	41.5%	39.6%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	2	1	11	33	17	64
		比 率	3.1%	1.6%	17.2%	51.6%	26.6%	100.0%
5. 有名になること	社会福祉学科	件 数	405	310	261	43	6	1,025
		比 率	39.5%	30.2%	25.5%	4.2%	0.6%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	42	30	24	9	1	106
		比 率	39.6%	28.3%	22.6%	8.5%	0.9%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	18	28	16	2	0	64
		比 率	28.1%	43.8%	25.0%	3.1%	0.0%	100.0%
6. 結婚して家庭をもつこと	社会福祉学科	件 数	27	53	175	349	416	1,020
		比 率	2.6%	5.2%	17.2%	34.2%	40.8%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	6	5	25	33	37	106
		比 率	5.7%	4.7%	23.6%	31.1%	34.9%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	5	1	7	25	26	64
		比 率	7.8%	1.6%	10.9%	39.1%	40.6%	100.0%
7. 子どもを育てること	社会福祉学科	件 数	22	35	125	332	507	1,021
		比 率	2.2%	3.4%	12.2%	32.5%	49.7%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	5	4	21	36	40	106
		比 率	4.7%	3.8%	19.8%	34.0%	37.7%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	2	3	6	25	28	64
		比 率	3.1%	4.7%	9.4%	39.1%	43.8%	100.0%
8. 親や家族を大切にすること	社会福祉学科	件 数	0	5	39	266	715	1,025
		比 率	0.0%	0.5%	3.8%	26.0%	69.8%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	0	3	3	35	65	106
		比 率	0.0%	2.8%	2.8%	33.0%	61.3%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	0	0	3	18	43	64
		比 率	0.0%	0.0%	4.7%	28.1%	67.2%	100.0%
9. 健康であること	社会福祉学科	件 数	2	1	15	146	859	1,023
		比 率	0.2%	0.1%	1.5%	14.3%	84.0%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	1	0	2	18	85	106
		比 率	0.9%	0.0%	1.9%	17.0%	80.2%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	0	0	1	14	49	64
		比 率	0.0%	0.0%	1.6%	21.9%	76.6%	100.0%
10. 常に学び続けること	社会福祉学科	件 数	3	8	81	372	561	1,025
		比 率	0.3%	0.8%	7.9%	36.3%	54.7%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	0	1	9	37	59	106
		比 率	0.0%	0.9%	8.5%	34.9%	55.7%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	1	1	4	33	25	64
		比 率	1.6%	1.6%	6.3%	51.6%	39.1%	100.0%
11. 自分が専門としている領域で、有用な仕事をする	社会福祉学科	件 数	21	41	169	420	371	1,022
		比 率	2.1%	4.0%	16.5%	41.1%	36.3%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	2	4	19	46	35	106
		比 率	1.9%	3.8%	17.9%	43.4%	33.0%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	2	3	19	22	18	64
		比 率	3.1%	4.7%	29.7%	34.4%	28.1%	100.0%
12. 社会人として、同僚から高い評価を得られる人間であること	社会福祉学科	件 数	64	126	381	329	123	1,023
		比 率	6.3%	12.3%	37.2%	32.2%	12.0%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	5	14	32	36	19	106
		比 率	4.7%	13.2%	30.2%	34.0%	17.9%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	2	3	30	21	8	64
		比 率	3.1%	4.7%	46.9%	32.8%	12.5%	100.0%

表14-6 学科別「人生で重要だと考えること」の結果（その3）

問14. 人生において重要だと考えること			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
13. 一人ひとりが、自己 実現を果たすことができ るような社会づくりに 貢献すること	社会福祉学科	件 数	19	67	278	447	214	1,025
		比 率	1.9%	6.5%	27.1%	43.6%	20.9%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	5	10	32	38	21	106
		比 率	4.7%	9.4%	30.2%	35.8%	19.8%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	1	3	17	32	11	64
		比 率	1.6%	4.7%	26.6%	50.0%	17.2%	100.0%
14. 全ての人が平等な、 偏見のない社会づく りに貢献すること	社会福祉学科	件 数	13	48	227	436	300	1,024
		比 率	1.3%	4.7%	22.2%	42.6%	29.3%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	4	8	31	42	21	106
		比 率	3.8%	7.5%	29.2%	39.6%	19.8%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	2	1	14	25	22	64
		比 率	3.1%	1.6%	21.9%	39.1%	34.4%	100.0%
15. 利己主義ではなく、 利他主義、共生の精 神で生きること	社会福祉学科	件 数	8	35	272	483	224	1,022
		比 率	0.8%	3.4%	26.6%	47.3%	21.9%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	3	8	33	46	16	106
		比 率	2.8%	7.5%	31.1%	43.4%	15.1%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	2	2	25	28	7	64
		比 率	3.1%	3.1%	39.1%	43.8%	10.9%	100.0%
16. 母校である淑徳大 学を愛する気持ちをも って生きること	社会福祉学科	件 数	59	109	466	291	100	1,025
		比 率	5.8%	10.6%	45.5%	28.4%	9.8%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	15	20	37	27	7	106
		比 率	14.2%	18.9%	34.9%	25.5%	6.6%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	8	12	26	17	1	64
		比 率	12.5%	18.8%	40.6%	26.6%	1.6%	100.0%
17. 淑徳大学で学んだ ことに誇りをもって 生きること	社会福祉学科	件 数	47	93	389	358	137	1,024
		比 率	4.6%	9.1%	38.0%	35.0%	13.4%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	13	15	41	26	11	106
		比 率	12.3%	14.2%	38.7%	24.5%	10.4%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	5	13	19	23	4	64
		比 率	7.8%	20.3%	29.7%	35.9%	6.3%	100.0%
18. 淑徳大学卒業生と しての、連携やつな がりを持ち続けるこ と	社会福祉学科	件 数	51	119	395	345	115	1,025
		比 率	5.0%	11.6%	38.5%	33.7%	11.2%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	11	17	43	23	12	106
		比 率	10.4%	16.0%	40.6%	21.7%	11.3%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	5	13	18	20	8	64
		比 率	7.8%	20.3%	28.1%	31.3%	12.5%	100.0%
19. 淑徳大学の卒業生 としての、仲間意識 や帰属意識もつこと	社会福祉学科	件 数	61	134	440	290	99	1,024
		比 率	6.0%	13.1%	43.0%	28.3%	9.7%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	12	18	46	20	10	106
		比 率	11.3%	17.0%	43.4%	18.9%	9.4%	100.0%
	心理学科・ 実践心理学科	件 数	5	15	21	19	4	64
		比 率	7.8%	23.4%	32.8%	29.7%	6.3%	100.0%

問14-7 淑徳大学時代の学びについて

問14-7-1 淑徳大学時代の学びについて

淑徳大学在学中に「共生論」という科目を履修したかについての結果は、表14-7-1の上段に示した。

まず、「16. 在学中に共生論という科目を履修したかとの間に、「履修した」と回答したのが20.0%、「履修しなかった」と回答したのが15.8%であった。「科目が無かった」と回答したのは

27.5%であったが、「覚えていない」という回答は36.6%と3分の1が該当した。

次に、「長谷川良信の思想と生涯」という科目を履修したかについての結果は表14-7-1の下段に示した。

次に、「長谷川良信の思想と生涯」という科目を履修したかとの間に「履修した」と回答したのが21.6%、「履修しなかった」と回答したのが20.1%であった。「科目が無かった」と回答したのは21.6%であったが、「覚えていない」という回答は36.7%と3分の1が該当した。

表14-7-1 淑徳大学時代の学びについて：共生論と長谷川良信の思想と生涯

問13. 淑徳大学時代の学びについて		履修した	履修しなかった	科目が無かった	覚えていない	合計
16. 在学中に「共生論」という科目を履修しましたか	件数	239	189	328	437	1,193
	比率	20.0%	15.8%	27.5%	36.6%	100.0%
17. 在学中に「長谷川良信の思想と生涯」という科目を履修しましたか	件数	258	240	257	437	1,192
	比率	21.6%	20.1%	21.6%	36.7%	100.0%

問14-7-2 男女別による淑徳大学時代の学びについて

まず、「共生論」についての結果は、「履修した」と回答したのは、女性22.7%、男性14.8%で女性が約8ポイント多かった。「履修しなかった」は、女性15.6%、男性16.1%と大きな差はなかった。「覚えていない」は男女ともに約3分の1強であった。

次に「長谷川良信の思想と生涯」の履修についての結果は、「履修した」女性23.9%、男性17.1%で、女性が約7ポイント多かった。「履修しなかった」は、女性21.0%、男性17.9%で、女性がやや高かった。「覚えていない」は男女とも約3分の1強であった。

問14-7-3 卒業年別による淑徳大学時代の学びについて

「共生論」についての結果は、「履修した」との回答は、最も多かったのが「卒期37期生～卒期45期生」46.8%で、続いて「卒期29期～卒期35期」の35.8%であった。「履修しなかった」は、「卒期37期生～卒期45期生」の24.9%が最も多かったが、残りの卒期は16.6%から10.6%と10%台であった。この結果は、この科目のカリキュラム上の位置づけに影響されていると考えられた。

次に「長谷川良信の思想と生涯」の履修についての結果は、「履修した」との回答は、最も多かったのは「卒期29期～卒期35期」の43.3%で、続いて「卒期37期生～卒期45期生」41.0%であった。「履修しなかった」は、「卒期37期生～卒期45期生」の35.8%が最も多かったが、残りの卒期は12.7%から17.6%といずれも10%台であった。この結果は、この科目のカリキュラム上の位置づけに影響されていると考えられた。

問14-7-4 学部別による淑徳大学時代の学びについて

「共生論」についての結果は、「履修した」との回答は、最も多かったのが「社会学部」36.7%で、続いて「総合福祉学部」の36.6%、そして「社会福祉学部」11.0%であった。「履修しなかった」は、

「総合福祉学部」の39.4%が最も多かったが、続いて「社会福祉学部」13.6%、「社会学部」10.1%と続いた。この結果は、この科目のカリキュラム上の位置づけに影響されていると考えられた。

次に「長谷川良信の思想と生涯」の履修についての結果は、「履修した」との回答は、最も多かったのは「社会学部」の44.6%で、続いて「総合福祉学部」27.7%、「社会福祉学部」12.6%であった。「履修しなかった」は、「総合福祉学部」の55.3%が最も多かったが、「社会福祉学部」15.5%、「社会学部」15.0%といずれも10%台であった。この結果は、この科目のカリキュラム上の位置づけに影響されていると考えられた。

問14-7-5 学科別による淑徳大学時代の学びについて

学科別の「共生論」についての結果は、「履修した」との回答は、最も多かったのが「心理学科・実践心理学科」28.1%で、続いて「社会学科・人間社会学科」22.9%で、「社会福祉学科」の19.3%となった。「履修しなかった」は、「心理学科・実践心理学科」43.8%で、続いて「社会学科・人間社会学科」19.0%で、「社会福祉学科」の13.8%であった。この結果は、この科目のカリキュラム上の位置づけに影響されていると考えられた。

次に「長谷川良信の思想と生涯」の履修についての結果は、「履修した」との回答は、最も多かったのは「社会学科・人間社会学科」の43.8%で、続いて「心理学科・実践心理学科」33.3%、「社会福祉学科」18.7%であった。「履修しなかった」は、「心理学科・実践心理学科」の50.8%が最も多かったが、「社会学科・人間社会学科」23.8%、「社会福祉学科」17.9%であった。この結果は、この科目のカリキュラム上の位置づけに影響されていると考えられた。

問14-8 降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

問14-8-1 降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

淑徳大学では、「降誕会」、「盂蘭盆会」、そして「成道会」など年間数回の宗教行事が開催されている。その開催は全学生に周知されるが参加は任意である。近年では「降誕会」は1年生の必修科目の振りかえとなって参加が義務づけられているが、「盂蘭盆会」「成道会」は任意である。「盂蘭盆会」「成道会」の後では会食しながら参加者が親しく懇談する接心会が開学以来開催されている。それら宗教行事への参加についての結果は表14-8-1に示した。

宗教行事への参加は、「参加した」は24.5%、「参加しなかった」46.4%、「機会がなかった」10.6%、「覚えていない」18.4%であった。比率では、「参加しなかった」が最も多い結果であった。

表14-8-1 降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加結果

問13-18. 降誕会、成道会などの宗教行事、 あるいは接心会などに参加しましたか	件 数	比 率
参加した	293	24.5%
参加しなかった	555	46.4%
機会が無かった	127	10.6%
覚えていない	220	18.4%
合 計	1,195	100.0%

問14-8-2 男女別による降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

男女別の宗教行事への参加は、「参加した」は女性26.9%、男性19.5%と、女性が約7ポイント多かった。「参加しなかった」男性49.2%、女性45.1%とほぼ同割合であった。「機会がなかった」は男性10.4%、女性10.8%と同割合であった。「覚えていない」女性20.8%、男性17.3%であったが、「参加しなかった」が約半数と最も多い結果であった。

問14-8-3 卒業年別による降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

卒業年別の降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加結果では、「参加した」が最も多かったのは「卒期37期生～卒期45期生」32.6%で、続いて「卒期19期～卒期27期」の29.1%であった。さらに、「卒期29期生～卒期35期生」25.2%、「卒期1期生～卒期9期生」20.7%、「卒期11期生～卒期17期生」の12.7%の順であった。「参加しなかった」は、「卒期11期生～卒期17期生」の52.7%、続いて「卒期29期生～卒期35期生」の51.6%、「卒期37期生～卒期45期生」の48.1%、「卒期19期～卒期27期」の45.7%、「卒期1期生～卒期9期生」の27.8%の順に多かった。この結果は、年間計画における宗教行事の位置づけによるものと考えられた。

問14-8-4 学部別による降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

学部別の降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加結果は、「参加した」が最も多かったのは「総合福祉学部」33.8%で、続いて「社会学部」の29.5%であった。それに続いて、「社会福祉学部」の21.0%の順であった。

「参加しなかった」は、最も多かったのは「総合福祉学部」の50.7%、続いて「社会学部」の47.4%、そして「社会福祉学部」の45.5%の順であった。約半数が参加しなかったという結果であった。

問14-8-5 学科別による降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加

学科別の降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などへの参加結果は、「参加した」が最も多かったのは「心理学科・実践心理学科」35.9%で、続いて「社会学科・人間社会学科」の25.7%であった。それに続いて、「社会福祉学科」の23.7%の順であった。「参加しなかった」

は、「社会福祉学科」の46.2%、「社会学科・人間社会学科」の48.6%、「心理学科・実践心理学科」の48.4%と3学科間でほぼ同割合であった。「覚えていない」も18.7%から14.1%といずれも10%台であった。この結果から、「心理学科・実践心理学科」の回答者の参加が多かったと云えよう。

問15 淑徳大学を誇りに思うこと

目 次

- 問15-1 項目の選定
- 問15-2 結果の概要
- 問15-3 性別による結果
- 問15-4 卒業年別による結果
- 問15-5 学部別による結果
- 問15-6 学科別による結果

問15-1 項目の選定

「淑徳大学を誇りに思うこと」として、以下10の質問項目が設定された。

回答方法は、各項目について「思う：5」から「思わない：1」までの5段階で考えて、当てはまる番号を1つ選択してもらった。

表15-1 淑徳大学を誇りに思う

- | |
|-----------------------|
| 1. 福祉系大学としての歴史と伝統 |
| 2. 充実したカリキュラムと教育体制 |
| 3. 教育内容の水準の高さ |
| 4. 施設の充実 |
| 5. 美しい自然のあるキャンパス |
| 6. 就職率の高さ |
| 7. 自由で、活気のある校風 |
| 8. 学生の勤勉さ |
| 9. 安定した経営と将来性 |
| 10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ |

問15-2 結果の概要

「淑徳大学を誇りに思うこと」として設定された10の質問項目に対する回答結果は、表15-2-1、図15-2-1に示す通りであった。項目ごとに最も多い回答内容を挙げると、次の通りであった。

「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」は「やや思う」が534人（44.8%）で最多であった。「2. 充実したカリキュラムと教育体制」は「どちらでもない」が524人（44.5%）と最も多く、以下につづく項目もすべて「どちらでもない」が最も回答数が多い結果となった。すなわち「3. 教育内容の水準の高さ」は635人（53.9%）、「4. 施設の充実」は609人（51.7%）、「5. 美しい自然のあるキャンパス」は471人（39.9%）、「6. 就職率の高さ」は611人（52.0%）、「7.

自由で活気のある校風」は520人（44.1%）、「8. 学生の勤勉さ」は533人（45.2%）、「9. 安定した経営と将来性」は660人（56.0%）、「10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ」は614人（52.1%）が「どちらでもない」に最も多く回答していた。

10の質問項目の中で、「思う」の回答に注目しパーセンテージ上位5位までを挙げていくと、最も多かったのは「1. 福祉系大学としての歴史と伝統（32.9%）」であった。次いでパーセンテージを大きく離して「5. 美しい自然のあるキャンパス（11.6%）」「7. 自由で活気のある校風（9.9%）」「2. 充実したカリキュラムと教育体制（8.9%）」「8. 学生の勤勉さ（7.7%）」の順となった。

「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」については、「思う」と「やや思う」を合計すると927人（77.7%）となり、他の項目に比べ突出して高い結果となった。「5. 美しい自然のあるキャンパス」「2. 充実したカリキュラムと教育体制」「7. 自由で活気のある校風」も「思う」と「やや思う」を合計すると4割を超えており、比較的支持されている。ただし、先にも述べたように大半の設問が「どちらでもない」とする回答数が最も多く、「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」以外には、強く認識されていないといえる。

これらの結果を項目別の平均値から検討してみると表15-2-2の通りであった。いずれの項目も3.00以上の評価であったが、「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」が4.00で最も高く、次に「5. 美しい自然のあるキャンパス」が3.37、で、続いて、「2. 充実したカリキュラムと教育体制」と「7. 自由で活気のある校風」が共に3.32であった。

表15-2-1 「淑徳大学を誇りに思うこと」の10項目の回答結果

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと		思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 福祉系大学としての歴史と伝統	件 数	38	48	180	534	393	1,193
	比 率	3.2%	4.0%	15.1%	44.8%	32.9%	100.0%
2. 充実したカリキュラムと教育体制	件 数	52	115	524	382	105	1,178
	比 率	4.4%	9.8%	44.5%	32.4%	8.9%	100.0%
3. 教育内容の水準の高さ	件 数	57	164	635	265	58	1,179
	比 率	4.8%	13.9%	53.9%	22.5%	4.9%	100.0%
4. 施設の充実	件 数	62	208	609	247	52	1,178
	比 率	5.3%	17.7%	51.7%	21.0%	4.4%	100.0%
5. 美しい自然のあるキャンパス	件 数	49	131	471	393	137	1,181
	比 率	4.1%	11.1%	39.9%	33.3%	11.6%	100.0%
6. 就職率の高さ	件 数	76	131	611	286	72	1,176
	比 率	6.5%	11.1%	52.0%	24.3%	6.1%	100.0%
7. 自由で、活気のある校風	件 数	52	120	520	370	117	1,179
	比 率	4.4%	10.2%	44.1%	31.4%	9.9%	100.0%
8. 学生の勤勉さ	件 数	85	157	533	314	91	1,180
	比 率	7.2%	13.3%	45.2%	26.6%	7.7%	100.0%
9. 安定した経営と将来性	件 数	61	142	660	246	69	1,178
	比 率	5.2%	12.1%	56.0%	20.9%	5.9%	100.0%
10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ	件 数	80	173	614	245	66	1,178
	比 率	6.8%	14.7%	52.1%	20.8%	5.6%	100.0%

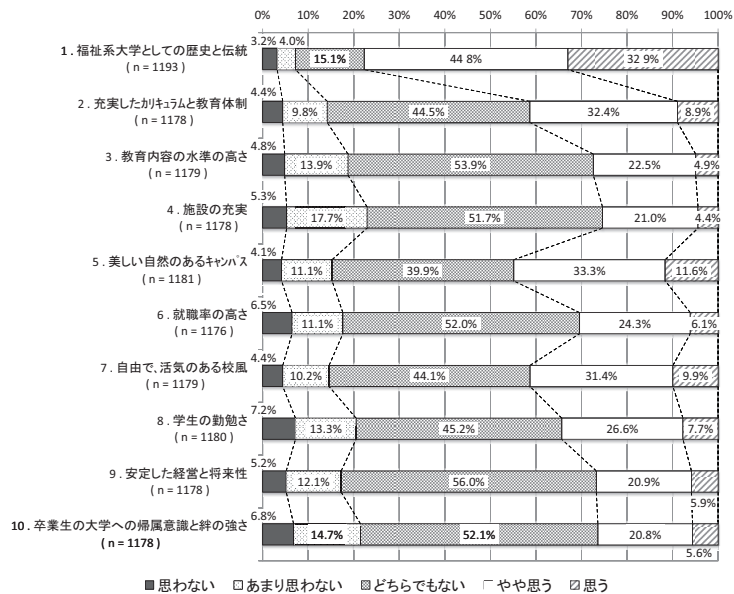


図15-2-1 淑徳大学を誇りに思うことの回答結果

表15-2-2 「淑徳大学を誇りに思う」項目の平均値 (SD)

1. 福祉系大学としての歴史と伝統	4.00 (0.96)
2. 充実したカリキュラムと教育体制	3.32 (0.92)
3. 教育内容の水準の高さ	3.09 (0.86)
4. 施設の充実	3.02 (0.88)
5. 美しい自然のあるキャンパス	3.37 (0.97)
6. 就職率の高さ	3.13 (0.92)
7. 自由で、活気のある校風	3.32 (0.94)
8. 学生の勤勉さ	3.14 (0.99)
9. 安定した経営と将来性	3.10 (0.87)
10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ	3.04 (0.92)

問15-3 性別による結果

性別を属性とするクロス集計の結果を表15-3に示す。男女で大きく異なる結果となった項目はなく、性別による特徴的な傾向は見出せなかった。

表15-3 性別による結果

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 福祉系大学としての歴史と伝統	男性	件 数 比 率	14 3.6%	21 5.3%	70 17.8%	152 38.7%	136 34.6%	393 100.0%
	女性	件 数 比 率	23 2.9%	27 3.4%	109 13.7%	382 47.9%	257 32.2%	798 100.0%
2. 充実したカリキュラムと教育体制	男性	件 数 比 率	19 4.9%	49 12.6%	184 47.2%	116 29.7%	22 5.6%	390 100.0%
	女性	件 数 比 率	32 4.1%	66 8.4%	340 43.3%	265 33.7%	83 10.6%	786 100.0%
3. 教育内容の水準の高さ	男性	件 数 比 率	20 5.1%	58 14.8%	230 58.8%	68 17.4%	15 3.8%	391 100.0%
	女性	件 数 比 率	37 4.7%	106 13.5%	404 51.4%	196 24.9%	43 5.5%	786 100.0%
4. 施設の充実	男性	件 数 比 率	21 5.4%	71 18.2%	206 52.7%	76 19.4%	17 4.3%	391 100.0%
	女性	件 数 比 率	40 5.1%	137 17.5%	402 51.2%	171 21.8%	35 4.5%	785 100.0%
5. 美しい自然のあるキャンパス	男性	件 数 比 率	19 4.9%	45 11.5%	176 45.1%	111 28.5%	39 10.0%	390 100.0%
	女性	件 数 比 率	30 3.8%	86 10.9%	293 37.1%	282 35.7%	98 12.4%	789 100.0%
6. 就職率の高さ	男性	件 数 比 率	30 7.7%	47 12.1%	208 53.3%	79 20.3%	26 6.7%	390 100.0%
	女性	件 数 比 率	45 5.7%	84 10.7%	403 51.4%	207 26.4%	45 5.7%	784 100.0%
7. 自由で、活気のある校風	男性	件 数 比 率	18 4.6%	37 9.5%	170 43.5%	118 30.2%	48 12.3%	391 100.0%
	女性	件 数 比 率	34 4.3%	83 10.6%	349 44.4%	251 31.9%	69 8.8%	786 100.0%
8. 学生の勤勉さ	男性	件 数 比 率	32 8.2%	50 12.8%	204 52.3%	82 21.0%	22 5.6%	390 100.0%
	女性	件 数 比 率	52 6.6%	107 13.6%	329 41.8%	231 29.3%	69 8.8%	788 100.0%
9. 安定した経営と将来性	男性	件 数 比 率	25 6.4%	48 12.3%	229 58.9%	60 15.4%	27 6.9%	389 100.0%
	女性	件 数 比 率	35 4.4%	94 11.9%	430 54.6%	186 23.6%	42 5.3%	787 100.0%
10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ	男性	件 数 比 率	28 7.2%	55 14.1%	201 51.5%	76 19.5%	30 7.7%	390 100.0%
	女性	件 数 比 率	51 6.5%	118 15.0%	412 52.4%	169 21.5%	36 4.6%	786 100.0%

問15-4 卒業年別による結果

卒業年を属性とするクロス集計の結果を表15-4-1（その1）～（その3）に示した。回答の「思う」と「やや思う」を合わせた結果を検討したが、卒業年別に明確な差異はなく、どの卒業年においても「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」が最も高い支持を得ていた。「思わない」と「あまり思わない」とした回答の割合については、全体的に37期～45期で増加する傾向であった。

特に、1期～9期と比較すると、37期～45期で「思わない」と「あまり思わない」の合計が

20%以上増えた項目は、「6. 就職率の高さ」「8. 学生の勤勉さ」「9. 安定した経営と将来性」「10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ」の4項目であった。

37期以降の卒業生は、就職率の高さや学生の勤勉さ、安定した経営と将来性、卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ等について、低い評価であった。

これらの結果から、「淑徳大学を誇りに思うこと」の10項目の評定値を平均して、卒業年別の平均値を算出して表15-4-2に示した。

卒業年別の平均値は、1期～9期が最も高く、続いて19期～27期、29期～35期、そして11期～17期と続き、最も低かったのは37期～45期であった。統計的に検討したところ、11期～17期および37期～45期が他の卒業年より有意に平均値が低いと云えた ($F=8.93$ $DF=4$, $p<.0001$)。

表15-4-1 卒業年別による結果（その1）

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらでも ない	やや思う	思う	合 計
1. 福祉系大学としての歴史と伝統	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	3	5	28	68	64	168
		比 率	1.8%	3.0%	16.7%	40.5%	38.1%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	8	13	40	109	70	240
		比 率	3.3%	5.4%	16.7%	45.4%	29.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	8	8	31	117	83	247
		比 率	3.2%	3.2%	12.6%	47.4%	33.6%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	5	9	47	113	82	256
		比 率	2.0%	3.5%	18.4%	44.1%	32.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	14	12	32	125	89	272
		比 率	5.1%	4.4%	11.8%	46.0%	32.7%	100.0%
2. 充実したカリキュラムと教育体制	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	9	84	46	16	157
		比 率	1.3%	5.7%	53.5%	29.3%	10.2%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	10	27	119	70	11	237
		比 率	4.2%	11.4%	50.2%	29.5%	4.6%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	8	21	101	92	24	246
		比 率	3.3%	8.5%	41.1%	37.4%	9.8%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	11	20	115	79	31	256
		比 率	4.3%	7.8%	44.9%	30.9%	12.1%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	21	38	102	91	20	272
		比 率	7.7%	14.0%	37.5%	33.5%	7.4%	100.0%
3. 教育内容の水準の高さ	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	16	93	43	4	158
		比 率	1.3%	10.1%	58.9%	27.2%	2.5%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	13	33	140	44	7	237
		比 率	5.5%	13.9%	59.1%	18.6%	3.0%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	7	31	132	60	16	246
		比 率	2.8%	12.6%	53.7%	24.4%	6.5%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	14	30	133	61	18	256
		比 率	5.5%	11.7%	52.0%	23.8%	7.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	21	54	133	54	10	272
		比 率	7.7%	19.9%	48.9%	19.9%	3.7%	100.0%

表15-4-1 卒業年別による結果 (その2)

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
4. 施設の充実	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	18	91	36	9	158
		比 率	2.5%	11.4%	57.6%	22.8%	5.7%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	15	47	131	40	5	238
		比 率	6.3%	19.7%	55.0%	16.8%	2.1%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	9	37	128	59	12	245
		比 率	3.7%	15.1%	52.2%	24.1%	4.9%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	11	44	139	50	12	256
		比 率	4.3%	17.2%	54.3%	19.5%	4.7%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	23	60	114	61	13	271
		比 率	8.5%	22.1%	42.1%	22.5%	4.8%	100.0%
5. 美しい自然のあ るキャンパス	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	10	65	58	25	160
		比 率	1.3%	6.3%	40.6%	36.3%	15.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	10	27	114	65	22	238
		比 率	4.2%	11.3%	47.9%	27.3%	9.2%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	7	28	93	81	36	245
		比 率	2.9%	11.4%	38.0%	33.1%	14.7%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	9	30	103	95	19	256
		比 率	3.5%	11.7%	40.2%	37.1%	7.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	21	36	90	92	33	272
		比 率	7.7%	13.2%	33.1%	33.8%	12.1%	100.0%
6. 就職率の高さ	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	11	84	50	9	156
		比 率	1.3%	7.1%	53.8%	32.1%	5.8%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	11	25	131	55	16	238
		比 率	4.6%	10.5%	55.0%	23.1%	6.7%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	12	22	126	64	20	244
		比 率	4.9%	9.0%	51.6%	26.2%	8.2%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	21	22	138	62	13	256
		比 率	8.2%	8.6%	53.9%	24.2%	5.1%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	30	51	128	51	12	272
		比 率	11.0%	18.8%	47.1%	18.8%	4.4%	100.0%
7. 自由で、活気 ある校風	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	9	75	54	17	157
		比 率	1.3%	5.7%	47.8%	34.4%	10.8%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	9	20	116	69	24	238
		比 率	3.8%	8.4%	48.7%	29.0%	10.1%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	10	21	105	79	31	246
		比 率	4.1%	8.5%	42.7%	32.1%	12.6%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	11	25	119	82	19	256
		比 率	4.3%	9.8%	46.5%	32.0%	7.4%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	20	43	100	84	25	272
		比 率	7.4%	15.8%	36.8%	30.9%	9.2%	100.0%
8. 学生の勤勉さ	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	12	82	51	11	158
		比 率	1.3%	7.6%	51.9%	32.3%	7.0%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	15	20	127	63	13	238
		比 率	6.3%	8.4%	53.4%	26.5%	5.5%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	11	30	109	67	29	246
		比 率	4.5%	12.2%	44.3%	27.2%	11.8%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	14	21	113	85	23	256
		比 率	5.5%	8.2%	44.1%	33.2%	9.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	43	72	97	46	14	272
		比 率	15.8%	26.5%	35.7%	16.9%	5.1%	100.0%

表15-4-1 卒業年別による結果（その3）

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
9. 安定した経営と 将来性	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	2	12	89	41	13	157
		比 率	1.3%	7.6%	56.7%	26.1%	8.3%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	12	25	142	51	8	238
		比 率	5.0%	10.5%	59.7%	21.4%	3.4%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	6	27	135	55	22	245
		比 率	2.4%	11.0%	55.1%	22.4%	9.0%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	16	20	146	56	18	256
		比 率	6.3%	7.8%	57.0%	21.9%	7.0%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	25	58	142	40	7	272
		比 率	9.2%	21.3%	52.2%	14.7%	2.6%	100.0%
10. 卒業生の大学へ の帰属意識と絆の 強さ	卒期1期生～ 卒期9期生	件 数	4	10	82	50	12	158
		比 率	2.5%	6.3%	51.9%	31.6%	7.6%	100.0%
	卒期11期生～ 卒期17期生	件 数	9	30	136	49	13	237
		比 率	3.8%	12.7%	57.4%	20.7%	5.5%	100.0%
	卒期19期生～ 卒期27期生	件 数	9	38	126	51	22	246
		比 率	3.7%	15.4%	51.2%	20.7%	8.9%	100.0%
	卒期29期生～ 卒期35期生	件 数	19	35	146	46	9	255
		比 率	7.5%	13.7%	57.3%	18.0%	3.5%	100.0%
	卒期37期生～ 卒期45期生	件 数	38	57	119	48	10	272
		比 率	14.0%	21.0%	43.8%	17.6%	3.7%	100.0%

表5-4-2 卒業年別10項目平均値

（ ）内SD

卒 期 区 分	平 均 値
卒期1期生～卒期9期生	3.43 (0.60)
卒期11期生～卒期17期生	3.22 (0.67)
卒期19期生～卒期27期生	3.34 (0.70)
卒期29期生～卒期35期生	3.27 (0.66)
卒期37期生～卒期45期生	3.07 (0.70)

問15-5 学部別による結果

学部（社会福祉学部、社会学部、総合福祉学部）を属性とするクロス集計の結果を、表15-5-1（その1）～（その2）に示した。「思う」と「やや思う」を合わせた回答を合計した結果には、学部間での明確な差異はなく、いずれの学部においても「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」が最も高い支持を得ていた。

「思う」と「やや思う」を合計した割合と、「思わない」と「あまり思わない」を合計した割合について、学部間で10%以上の差のあった項目は5項目であった。

最も差が大きかった項目は、「8. 学生の勤勉さ」に対する「思わない」と「あまり思わない」の回答であった。社会福祉学部が16.0%、社会学部が20.7%に対し総合福祉学部は44.1%と、総合福祉学部の卒業生は学生の勤勉さに対して低い評価が高い割合を占める結果となった。そ

の他、「6. 就職率の高さ」については社会福祉学部よりも総合福祉学部で「思わない」と「あまり思わない」の合計が19%高く、「7. 自由で活気のある校風」や「9. 安定した経営と将来性」についても、社会福祉学部より総合福祉学部で10%以上高かった。「10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ」については、社会福祉学部の「思わない」と「あまり思わない」の合計が16.8%であるのに対し、社会学部で29.7%、総合福祉学部で30.8%と増加しており、卒業生の大学への帰属意識と絆の強さは社会学部や総合福祉学部において低い評価が増加する傾向であった。

これらの結果から、「淑徳大学を誇りに思うこと」の10項目の評定値を平均して、学部別の平均値を算出して表15-5-2に示した。

学部別の平均値は、社会福祉学部が最も高く、続いて社会学部、総合福祉学部と続いた。統計的に検討したところ、社会福祉学部が他の2学部より有意に平均値が高いと云えた ($F=9.93$ $DF=3$, $p<.0001$)。

表15-5-1 学部別による結果 (その1)

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
1. 福祉系大学としての歴史と伝統	社会福祉学部	件 数	19	28	120	347	262	776
		比 率	2.4%	3.6%	15.5%	44.7%	33.8%	100.0%
	社会学部	件 数	11	13	36	122	88	270
		比 率	4.1%	4.8%	13.3%	45.2%	32.6%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	7	7	23	65	41	143
		比 率	4.9%	4.9%	16.1%	45.5%	28.7%	100.0%
2. 充実したカリキュラムと教育体制	社会福祉学部	件 数	22	71	345	257	66	761
		比 率	2.9%	9.3%	45.3%	33.8%	8.7%	100.0%
	社会学部	件 数	18	25	125	71	31	270
		比 率	6.7%	9.3%	46.3%	26.3%	11.5%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	11	19	52	53	8	143
		比 率	7.7%	13.3%	36.4%	37.1%	5.6%	100.0%
3. 教育内容の水準の高さ	社会福祉学部	件 数	26	99	418	180	39	762
		比 率	3.4%	13.0%	54.9%	23.6%	5.1%	100.0%
	社会学部	件 数	19	41	142	53	15	270
		比 率	7.0%	15.2%	52.6%	19.6%	5.6%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	11	24	73	31	4	143
		比 率	7.7%	16.8%	51.0%	21.7%	2.8%	100.0%
4. 施設の充実	社会福祉学部	件 数	31	125	411	158	37	762
		比 率	4.1%	16.4%	53.9%	20.7%	4.9%	100.0%
	社会学部	件 数	20	50	139	52	8	269
		比 率	7.4%	18.6%	51.7%	19.3%	3.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	10	33	58	35	7	143
		比 率	7.0%	23.1%	40.6%	24.5%	4.9%	100.0%
5. 美しい自然のあるキャンパス	社会福祉学部	件 数	24	79	316	248	97	764
		比 率	3.1%	10.3%	41.4%	32.5%	12.7%	100.0%
	社会学部	件 数	15	36	100	99	20	270
		比 率	5.6%	13.3%	37.0%	36.7%	7.4%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	10	16	52	46	19	143
		比 率	7.0%	11.2%	36.4%	32.2%	13.3%	100.0%

表15-5-1 学部別による結果（その2）

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
6. 就職率の高さ	社会福祉学部	件 数	29	71	411	199	49	759
		比 率	3.8%	9.4%	54.2%	26.2%	6.5%	100.0%
	社会学部	件 数	27	33	140	57	13	270
		比 率	10.0%	12.2%	51.9%	21.1%	4.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	20	26	58	29	10	143
		比 率	14.0%	18.2%	40.6%	20.3%	7.0%	100.0%
7. 自由で、活気のある校風	社会福祉学部	件 数	25	63	348	241	85	762
		比 率	3.3%	8.3%	45.7%	31.6%	11.2%	100.0%
	社会学部	件 数	15	37	122	77	19	270
		比 率	5.6%	13.7%	45.2%	28.5%	7.0%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	11	20	48	51	13	143
		比 率	7.7%	14.0%	33.6%	35.7%	9.1%	100.0%
8. 学生の勤勉さ	社会福祉学部	件 数	39	83	367	214	60	763
		比 率	5.1%	10.9%	48.1%	28.0%	7.9%	100.0%
	社会学部	件 数	20	36	112	78	24	270
		比 率	7.4%	13.3%	41.5%	28.9%	8.9%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	26	37	52	21	7	143
		比 率	18.2%	25.9%	36.4%	14.7%	4.9%	100.0%
9. 安定した経営と将来性	社会福祉学部	件 数	27	81	432	175	46	761
		比 率	3.5%	10.6%	56.8%	23.0%	6.0%	100.0%
	社会学部	件 数	20	36	146	47	21	270
		比 率	7.4%	13.3%	54.1%	17.4%	7.8%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	14	24	81	23	1	143
		比 率	9.8%	16.8%	56.6%	16.1%	0.7%	100.0%
10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ	社会福祉学部	件 数	33	95	415	168	50	761
		比 率	4.3%	12.5%	54.5%	22.1%	6.6%	100.0%
	社会学部	件 数	28	52	133	46	11	270
		比 率	10.4%	19.3%	49.3%	17.0%	4.1%	100.0%
	総合福祉学部	件 数	18	26	63	31	5	143
		比 率	12.6%	18.2%	44.1%	21.7%	3.5%	100.0%

表 15-5-2 学部別 10 項目平均値

() 内 SD

学 科	平 均 値
社会福祉学部	3.31 (0.66)
社会学部	3.17 (0.72)
総合福祉学部	3.07 (0.66)

問15-6 学科別による結果

学科（社会福祉学科・社会学科・人間社会学科・心理学科・実践心理学科）を属性とするクロス集計の結果を表15-6-1（その1）～（その2）に示した。「思う」と「やや思う」を合計した回答は、いずれの学科においても「1. 福祉系大学としての歴史と伝統」が最も高い割合を占めていた。また、「思う」と「やや思う」を合計した回答と「思わない」と「あまり思わない」を合計した回答について、学科間で10%以上の差のあった項目をみていくと、「2. 充実したカリキュラムと教育体制」「3. 教育内容の水準の高さ」については、社会福祉学科が社会学科・人間社会学科や心理学科・実践心理学科より肯定的回答をしていることがわかる。「4. 施設の

充実」「7. 自由で活気のある校風」「9. 安定した経営と将来性」は社会学科・人間社会学科で「思わない」と「あまり思わない」の回答が多く、「5. 美しい自然のあるキャンパス」は心理学科・実践心理学科で「思う」と「やや思う」の回答が他の学科より多かった。この他に、社会福祉学科とそれ以外の2つの学科で10%以上差のあった項目をみると「6. 就職率の高さ」に対する「思わない」と「あまり思わない」の回答は社会福祉学科が14.0%であるのに対し、社会学科・人間社会学科は38.7%、心理学科・実践心理学科で40.7%と明らかに増加していた。同様に「8. 学生の勤勉さ」についても、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた割合は社会福祉学科が18.1%に対し、社会学科・人間社会学科は31.1%、心理学科・実践心理学科は42.2%と増加する傾向であった。

社会福祉学科が社会学科・人間社会学科や心理学科・実践心理学科より充実したカリキュラムと教育体制や教育内容の水準の高さに対して肯定的回答をしている一方、社会学科・人間社会学科と心理学科・実践心理学科は就職率や学生の勤勉さについて社会福祉学科より「思わない」と「あまり思わない」の回答が多かった。

これらの結果から、「淑徳大学を誇りに思うこと」の10項目の評定値を平均して、学科毎の平均値を算出して表15-6-2に示した。

学科別の平均値は、社会福祉学科が最も高く、心理学科・実践心理学科、社会学科・人間社会学科の順であった。統計的に検討したところ、社会福祉学科が他の2学科よりも有意に平均値が高いと云えた ($F=16.35$ $DF=2$, $p<.0001$)。

表15-6-1 学科別による結果 (その1)

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり思わない	どちらでもない	やや思う	思う	合 計
1. 福祉系大学としての歴史と伝統	社会福祉学科	件 数	28	39	150	461	342	1,020
		比 率	2.7%	3.8%	14.7%	45.2%	33.5%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	8	4	22	42	30	106
		比 率	7.5%	3.8%	20.8%	39.6%	28.3%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	2	5	8	31	18	64
		比 率	3.1%	7.8%	12.5%	48.4%	28.1%	100.0%
2. 充実したカリキュラムと教育体制	社会福祉学科	件 数	30	94	445	340	96	1,005
		比 率	3.0%	9.4%	44.3%	33.8%	9.6%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	16	12	49	23	6	106
		比 率	15.1%	11.3%	46.2%	21.7%	5.7%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	6	9	29	18	2	64
		比 率	9.4%	14.1%	45.3%	28.1%	3.1%	100.0%
3. 教育内容の水準の高さ	社会福祉学科	件 数	36	126	551	242	51	1,006
		比 率	3.6%	12.5%	54.8%	24.1%	5.1%	100.0%
	社会学科・人間社会学科	件 数	14	22	53	12	5	106
		比 率	13.2%	20.8%	50.0%	11.3%	4.7%	100.0%
	心理学科・実践心理学科	件 数	7	16	29	11	1	64
		比 率	10.9%	25.0%	45.3%	17.2%	1.6%	100.0%

表15-6-1 学科別による結果（その2）

問15. 淑徳大学を誇りに思うこと			思わない	あまり 思わない	どちらで もない	やや思う	思う	合 計
4. 施設の充実	社会福祉学科	件 数	44	170	534	215	43	1,006
		比 率	4.4%	16.9%	53.1%	21.4%	4.3%	100.0%
	社会学科・ 人間社会学科	件 数	13	26	42	17	8	106
		比 率	12.3%	24.5%	39.6%	16.0%	7.5%	100.0%
5. 美しい自然のあ るキャンパス	社会福祉学科	件 数	5	12	32	13	1	63
		比 率	7.9%	19.0%	50.8%	20.6%	1.6%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	35	115	408	335	115	1,008
		比 率	3.5%	11.4%	40.5%	33.2%	11.4%	100.0%
6. 就職率の高さ	社会福祉学科	件 数	10	10	43	31	12	106
		比 率	9.4%	9.4%	40.6%	29.2%	11.3%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	4	6	19	27	8	64
		比 率	6.3%	9.4%	29.7%	42.2%	12.5%	100.0%
7. 自由で、活気のある校風	社会福祉学科	件 数	44	96	534	267	62	1,003
		比 率	4.4%	9.6%	53.2%	26.6%	6.2%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	20	21	50	9	6	106
		比 率	18.9%	19.8%	47.2%	8.5%	5.7%	100.0%
8. 学生の勤勉さ	社会福祉学科	件 数	12	14	25	10	3	64
		比 率	18.8%	21.9%	39.1%	15.6%	4.7%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	34	100	451	322	99	1,006
		比 率	3.4%	9.9%	44.8%	32.0%	9.8%	100.0%
9. 安定した経営と 将来性	社会福祉学科	件 数	12	14	43	27	10	106
		比 率	11.3%	13.2%	40.6%	25.5%	9.4%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	6	6	25	20	7	64
		比 率	9.4%	9.4%	39.1%	31.3%	10.9%	100.0%
10. 卒業生の大学への 帰属意識と絆の 強さ	社会福祉学科	件 数	57	125	466	285	74	1,007
		比 率	5.7%	12.4%	46.3%	28.3%	7.3%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	14	19	41	18	14	106
		比 率	13.2%	17.9%	38.7%	17.0%	13.2%	100.0%
10. 卒業生の大学への 帰属意識と絆の 強さ	社会福祉学科	件 数	14	13	24	10	3	64
		比 率	21.9%	20.3%	37.5%	15.6%	4.7%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	45	112	565	222	61	1,005
		比 率	4.5%	11.1%	56.2%	22.1%	6.1%	100.0%
10. 卒業生の大学への 帰属意識と絆の 強さ	社会福祉学科	件 数	12	21	55	10	8	106
		比 率	11.3%	19.8%	51.9%	9.4%	7.5%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	4	9	39	12	0	64
		比 率	6.3%	14.1%	60.9%	18.8%	0.0%	100.0%
10. 卒業生の大学への 帰属意識と絆の 強さ	社会福祉学科	件 数	53	137	539	217	59	1,005
		比 率	5.3%	13.6%	53.6%	21.6%	5.9%	100.0%
	社会福祉学科	件 数	18	22	47	14	5	106
		比 率	17.0%	20.8%	44.3%	13.2%	4.7%	100.0%
10. 卒業生の大学への 帰属意識と絆の 強さ	社会福祉学科	件 数	9	14	27	14	0	64
		比 率	14.1%	21.9%	42.2%	21.9%	0.0%	100.0%

表15-6-2 学科別10項目平均値

() 内SD

学 科	平均値
社会福祉学科	3.29 (0.66)
社会学科・人間社会学科	2.95 (0.80)
心理学科・実践心理学科	3.02 (0.66)

問16 卒業生として現在の淑徳大学へ要望すること（自由記述）

卒業生として、現在の淑徳大学へ要望することについて自由記述していただいた。

卒業生が現在の淑徳大学への要望として記述した内容の類似によって分類して作表した。その結果、表16-1 福祉専門大学としての淑徳、表16-2 卒後教育の機会の充実、表16-3 広報面の強化、表16-4 授業内容・大学のカリキュラムについて、表16-5 外国語教育について、表16-6 就職活動に関して、表16-7 同窓会関連、表16-8 地域貢献、表16-9 社会貢献、表16-10 学祖の理念・自校教育の必要性、表16-11 マナー教育・コミュニケーション教育の強化、表16-12 学生へのサポート関連、表16-13 在学生への意見、表16-14 大学事務について、表16-15 設備面など、表16-16 その他大学への希望、表16-17 その他の感想、として示した。

内容は回答者が記述された通りとした。但し、固有名詞などによって個人が特定されと考えられる部分については匿名化した。

表16-1（その1） 福祉専門大学としての淑徳

福祉専門大学としての淑徳
大学としての規模が大きくなるにつれて、就職先に福祉施設を選択する人よりも一般企業を選び、すすむ人が多くなるような気がします。今一度、昔の理念や軸となる精神に戻って、福祉の道を歩む若者が増えればと思います。
福祉系大学としてのこれまでの実績を踏まえその存在意義を深め今後の福祉のめざす方向性を広く社会に発信してほしいと思います。
前職の頃実習生を受け入れていましたが、他校の学生よりも淑大生は覇気がないと思っていました。私共の頃と違い、福祉系大学等が多く、「ここでなければ学べない」という気概が少なくなってしまったのかなということが、悲しかったことを思い出しました。
福祉なくして淑徳はなし。
学部学科が増えたり、短大もありますが、社会福祉の先駆者としての大学のあり方をより極めていって欲しいと思います。
社会福祉とは関わりのない仕事にずっと就いていますが、淑徳＝福祉というイメージが社会的に強いことを度々感じています。
最近、足が遠のいている為に詳しい事は分かりませんが、在学中に見た「学生生活実態調査」の結果や個々人の付き合い等から、“福祉系大学と位置付けられていることに憤りを覚える（社会学科生）”とか、“自分は編入学であり、やりたい勉強がやれる環境というのが大事。校風や伝統の強要は迷惑”などの考え方、思想をもつ学生が増えないか危惧しています。高校生、浪人生、編入希望者への広報・説明（主張）をしっかりと頂き、『千葉の淑徳とはこういう大学である』ということを理解してくれる人が1人でも多くなるよう努めてほしいと思います。
30数年前の在学中、社会福祉施設実習や教育実習の際に、十分な指導を大学から受けた覚えがないです。現在は、手厚い指導をくださっていると思います。福祉の情熱を持った人材を育成し、送り出していただきたい。
社会福祉学科社会福祉学部という単科大学がうれしかったのに、いろいろな学部ができて、ある意味ガッカリしています。
「福祉」を学べることが淑徳大学だったと思います。現在学部、学科を広げ、何を目ざしているのか、基本の「福祉」はおきざりになっていないのか、不安に思うこともあります。

表16－1（その2） 福祉専門大学としての淑徳

福祉専門大学としての淑徳
卒業された先輩方のご活躍には頭の下がる思いと共に誇りに思います。しかし、自分自身母校への誇りは持ち続けていたいと思いますが、正直、学生さん、学科、学習内容の多様化もあり、あまり自信を持って言えない時もあります。福祉＝淑徳という誇りを持ち続けられるよう、今後も質の維持向上に努めて下さい。
福祉の淑徳としての期待は社会の中でも大きくなってきていると感じます。今後の更なる躍進を期待しています。
「福祉の淑徳」にもどってはほしいと思います。同期を含め、淑徳の卒業生は、福祉・教育分野等で活躍されている方が多くいらっしゃる、淑徳卒であることをうれしく思います。が、今の淑徳大生がそのように尊敬される人材になるとは、思えません。新規の学部を作るのではなく、伝統ある福祉領域に関わる学びをもっと充実してほしいと思います。
私たちが在学していた頃は、福祉の単科大学として、福祉の専門性の高いそして、こじんまりとしたのんびりした雰囲気の学校でした。その雰囲気がとても好きでしたし、専門性の高さはほこりでした。でも今は、多くの学部学科ができて、その雰囲気が失われてしまったように思います。とても残念です。
現在の淑徳大学には、色々な学部が増えていると思う。増やしていても福祉の精神や共生の精神を学生が身につくような学部作りをして欲しい。
福祉系大学として創立され、それを学ぶ為に淑徳大学に入学し社会人として生きて来たが、ここ数十年の大学の進もうとしてる道がどこにあるのか分らない。「福祉系」なのか、「総合学系」なのか？
大学時代は余り必死に学ばなかったという後悔が強くあります。しかし、淑徳大学を卒業したという誇りは常に持って日々実践しています。娘も淑徳大学を卒業しました。長谷川良信先生の理念を継続してこれからも素晴らしい教育の場として福祉への心を大切にする人材の育成にご尽力頂きたいと思っています。
社会福祉の教育水準の高さを保っていただきたい。
福祉のスペシャリストを育てる大学であり続けて下さい。今の職業は、一般企業ですが、淑徳大学を卒業できて良かったと思っています。
時流はあるが、社会福祉の専科の大学でいて欲しかった。経営上の問題もあろうが社会の流れに迎合せず、福祉の淑徳の本流を忘れないで欲しい。
営利主義でなく、社会貢献出来る人材、育成に力を入れて欲しい！
学部など社会に求められることを学ぶ場を広げていると思う。しかし分野を広くしすぎて、“福祉の淑徳”という大学ではなくなっているように感じる。専門性が希薄してしまっていて悲しい。1本筋として“福祉”を大切にしたい大学であってほしい。
福祉大学として、草分けであるという誇りを持って、福祉の専門職に自信をもち、明るい日本に貢献できる人が沢山卒業してくれる事を願っています。
当時の学生は、福祉について真正面から取り組む学生が多く、本当の意味で純粋であったと、今なお鮮明に覚えております。
東京の社会福祉法人に32年、勤務しておりました。先輩、後輩共に淑徳の卒業生が多く、管理職（施設長）にも何人ともなっています。淑徳の卒業生は優秀であると、評価を受けています。これからも福祉分野を担っていく人材を多く育ててほしいと思います。
福祉現場で活躍できる、心と知識をもった学生を育ててほしい。
福祉の専門の大学としてのリーダーシップがとれる人材の育成を望みます。福祉の理論の知識と共に、実践も伴う人材が望まれています。
優秀な医療・福祉関係職の輩出。
私が学生の時は単科大学で田舎の小さな大学でした。が今は総合大学となり規模も大きくなり自分の知っている淑徳大学ではないので、少し淋しい気持ちです。が私の中にいる建学の精神「Together with him, not for him」は大事にしていきたいと思っています。

表16-1 (その3) 福祉専門大学としての淑徳

福祉専門大学としての淑徳
福祉の専門大学として社会に役立つ後輩を育てていただきたい。
超高齢社会に向け、有望な人材育成に期待します。個人的には“認知症ケア”に関するプロの育成が必要不可欠だと思います。
福祉特に介護福祉に重点にしてもらいたい。
大学経営が優先されていて、福祉の単科大学としての存在意識が消えてしまったことがとても残念に思います。
子育て中で支部活動に参加できませんが、機関紙等を通じ母校の変遷を見守っております。これからも福祉・医療現場で在学生が幅広い視野をもち即戦力となり活躍されることを願っております。
福祉系大学としての色が見えない。福祉専門の教授の充実などが望まれる。
どこの方向を目指そうとしているのかが分からない。
福祉系大学として専門性を持って仕事をする人材の育成をつづけていってほしい。実習生の受入れをしているが、学生に学ぶ意識をもってもらいたい。
方向性を見失わずに、淑徳の福祉を貫いて下さい。
特別支援教育を支える人材の育成。
福祉へのこだわりを常に（本業を忘れずに）。
どんどん変貌していく出身大学に若干ポリシーの無さを感じるため帰属意識はあまり感じません。ごめんなさい。恩師も他界してしまいましたし……。発展は良いことだと思っています。

表16-2 (その1) 卒後教育の機会の充実

卒後教育の機会の充実
社会人になっても再び取得できる様な資格を利用できる様にしてもらいたい・自分自身、ゼミにて精神保健福祉（SMW）の活動・資格制度にとりくんでいたが、収入上の上でやむなく一般企業に就職してしまったからもう一度やりたい。
在学中になかった、福祉資格が出来て、卒業して特に有利になることがなかったので介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員等の受験対策講座とか、通信教育とか作ってほしいです。
卒業生の再入学、補講の機会→資格取得へのチャンス（社福祉士の受験要件を満たしたい。）を設けてほしい。またその通知・知らせ。簡単な手続きと受講しやすい日程と安い費用を求めたい。
卒業生が自己成長の為に卒業後も自由に学べる場があるといいと思います。
福祉現場で働いたのち、大学で学んだ講義をあらためて受講したいと思ったことが数知れません。そのため専門職（分野別）としてのキャリアアップのための講座を開設していただけるとありがたいです。
35年仕事を続けていて高いレベルでの専門的知識が求められるような講演が聞きたい（現在障害児保育を中心にしています）。
社会人となっても大学院入学のみならず、生涯学習の場として集えるシステムづくり。国内外の視察研修をツアーとして企画募集していただくことも可能になれば大変ありがたい。
卒後教育を充実させる。社会福祉士の合格率を高める。
卒業後にできた資格で現場に必要な資格に対する卒業生へのフォローアップがほしいです。
卒後教育の機会をつくってほしいです。特に、大きく制度が変わるとき、学ぶ場の提供を望みます。
卒業生でも講義を自由に聴講しても良いのでしょうか。

表16－2（その2） 卒後教育の機会の充実

卒後教育の機会の充実
卒業生や地域に向けた先生の授業が受けてみたい。仕事していなかったりする者にとって自分を高めていくきっかけになると思う。（市民大学やオープンカレッジなど）地域だけでなく卒業生にも向けるというのは、大学の帰属性高めると思うので。ぜひその際は有料でいいので、保育サービスを一緒に！学生さんの実戦的な学びの場にもなるでしょうし。
結婚、子育てをした後、年齢が高くなるにつれ、なかなか、再就職できない現状があります。そのような時、再就職を応援していただけるような、しくみがあれば、助かるのですが。宜しくお願い致します。

表16－3 広報面の強化

広報面の強化
世間での周知度の高さを求めます。
もっと大学を宣伝しろ。
入試の時期になると、電車のなか刷りに淑徳の広告（案内）をみかけますが、どんな大学なのかかわかりずらく、実学の精神や共生といっているわりに、全く伝わらないのが残念です。障害児教育では、かなり質が高いと思っています。（在学当時）なので、もっとアピールすべき。どんな方向を目指して、何がしたいのか、あまりわからない。
学校の認知度が高まるとよい。
知名度を上げる工夫。
認知度を上げること。
スポーツが強いので、スポーツ系のイベントをやって欲しいです。
もっと日本中に広めていただきたい。
全国的に知名度が上がるとうれしい。
私の在学していた年代は、福祉系の大学は全国に数校しかなく、地方出身者も都会の大学に集まった。現在は各県に福祉系の専門学校から大学と設置され、地元指向が高い。新聞で淑徳大学の紹介、広告など目にするのが少なくなった感じがする。（公告費用面もあるかと思いますが）もう少し大学をアピールした方がよいと思います。
様々なフィールドで活躍されている卒業生がいると思いますので各分野で活躍している方の広告（電車など）を掲げていただけると入学を希望される方も増えると思います。

表16－4（その1） 授業内容・大学のカリキュラムについて

授業内容・大学カリキュラムについて
私達が卒業した当時は、小学校の教員免許がとれなかったため、一年間、千葉県教員養成所へ通い、翌年採用になりました。現在は、とれるようになったということなので、うれしく思っております。
保育士＋幼稚園教諭の免許もとれるといいなと思います。
医療従事者として介護福祉関係の方々と連携する事が多いのですが、多くの方が養成校でもらう医療の知識を学びたかったとおっしゃっています。概論（医学、リハ等）のカリキュラムは学生さん達の魅力的な講義と思います。
30数年前の在学中、社会福祉施設実習や教育実習の際に、十分な指導を大学から受けた覚えがないです。現在は、手厚い指導をくださっていると思います。

表16-4 (その2) 授業内容・大学のカリキュラムについて

授業内容・大学カリキュラムについて
自分が在学していた頃と比べて大きく変化してきていると感じています。(私の在学中は保育士養成コースはなくなるという話をきいていました。)福祉のことも学びつつなおかつ幼児教育にもかかわりたいという思いで入学し資格を取って(その当時は保育士だけでしたが)今に至っています。現在は両方取得できるようになっていますが、これからも世の中の現状にあわせてカリキュラムを編成し学生の学びに反映させて下さい。
心理学では何故精神保健福祉士の受験資格が出来ないのですか?できる学科(他大学)もあります。カリキュラムの検討をした方がいいと思います。娘はそれで受験を考え直しました。
卒業論文やゼミがなくなるかわりに、就職対策、公務員試験対策国試対策の時間が増えていると聞いています。専門学校ではなく大学だからできること、学べることを再度検討していただきたいです。
大学の法人側の都合もあるかとは思いますが、ゼミ、卒論などでの学びをもっと大切にしてほしいと思います。単位を取得して就職するだけで研究を行わないのでは何のための大学での学びなのかかわからないように思います(卒論が単位にならなくなると聞いたので)。
障害児教育にたずさわって、26年になります。今、大学時代をふり返って思うことは育った環境の異なるいろいろな地方の友人と巡り合えたことは財産だと思います。違いと認め合うことの楽しさや大切を学んだように思います。大学の授業は机上の講義が多く、興味をもって学べたかという疑問です。実習のように、実際に自分自身が体感できる授業が多いと、学生達も興味をもって取り組んでいけるのではないかと思います。加えて、障害児教育にたずさわる上で、個々の児童の発達段階を適確にとらえられる力が大切かと思ひます。発達検査などの実践の学習を学生の時に経験したかったなあと思ひます。現場で役立つ知識や技能を修得できる教育課程であったら、社会に出た時の自信につながると思ひます。
実務経験を積めるカリキュラムとサポート体制づくりを!
現在、社会福祉士として働いていて、いつも思うのは、もっといろんな施設、行政機関、等行っておきたかったなということです。社会福祉の実習は、1ヶ月のみで、私自身は福祉事務所を選びました。正直4年間も大学に通い現場の実習が1ヶ月のみは少ないと思ひます。現在の教育カリキュラム上仕方ないことなのかもしれませんが、私は、児童・高齢・障害・生保等一通りの機関で実習をしていくべきだと思ひます。現場に出るとすべての知識が必要になることもありますし、少しでも現場を見るのと見ないのとではかなり差が出てくると思ひます。可能な範囲で学生にいろんな現場に行ってもらいたいです。
大学4年間、学んだことはとても大切な財産です。“考える力”が身に付きしました。特に援助技術概論など、仲間と話し合い、意見を交換する授業は社会生活においても、自分の考えを持って仕事に臨む糧となっています。こういったカリキュラムは続けてほしいです。
私が在学していた時のカリキュラムは、なんだか全体的にまとまりがなく、心理学という学問が一体何なのかよくわからないまま卒業した気がします。今、将来の淑徳生には、心理学を学べてよかったと自信を持って卒業し、社会で活躍してくれることを期待します。
昔の授業ノートなどを見返すうちに「もう1回ききたい」と思う科目があります。単位学位関係なく、単発で受講できる制度があれば……と思ひます。
保育士として、実践で使える科目を増やしたほうがいい。実習生で保育所に来て、子どもとどのような関わりがしたいのか、何を学びたいのかははっきりしない人が多い気がします。“保育士”として、どうなりたいたのかを考えられる人材を育成してほしいと思ひます。
教員養成系大学として、障害児教育の専門性の更なる向上があると学生が集まると思ひます。
心理学に力を入れて下さい。
福祉の仕事の基礎は学問ではなく、現場だと思ひます。1年生のうちから、実習等があった方が、より意識が高く、勉学に集中出来ると思ひます。
保育士と幼稚園教諭がとれる大学が多い中、1つのみしかとれない本大学は、就職してからとるのは難しいので、やはりどちらもとれるとよかった。
授業に実践の場をもっと取り入れてほしい。
学生さんや卒業生が他の学校の方とは良い意味で違ってみえるようカリキュラムをつくってもらいたいです。

表16-4 (その3) 授業内容・大学のカリキュラムについて

授業内容・大学カリキュラムについて
自分の在学中にはなかった施設やカリキュラムはどんどん増えて、学生が選択できる幅が広がる事は良い事だと思います。在学していた学科が無くなった様で残念ですが、応援しています。
臨床実習の継続。

表16-5 外国語教育について

外国語教育について
ブリストル大学のコースにも参加したが、これからは“英語力”←民間企業に行って、一番通用するスキルを求められているので、他大学に負けない様、しっかり英語教育をして下さい。
福祉だけでなく英語教育にも力を入れるべき。
語学に力をいれるべき。
一般教養として英会話に力を入れてください。大学生として、大学を卒業した社会人として英会話、共通語で会話（むずかしいビジネス会話は求めておりませんが……）ができないのは苦痛です。私は今になり、そのことでやり直しの人生を歩んでおります。2014年2月23日の二次試験に合格、やっと英検準2級の資格を手に入れました。

表16-6 就職活動に関して

就職活動に関して
就職の時の情報が少なかった。特に保育士課程の方にも力を入れていただけると助かります。
福祉系の就職には強いが、民間企業ではなかなか通用しないのが、辛い。40近くなって、転職など、苦労している。
教科書を読むだけ、出席するだけの授業もあり残念に在学時思いました。もっと参加、考える、実践する授業があった方がよいと思います。また、実習も実習先によっては学ぶことが少ないので就職した時につながるような実習や社会人としてのマナーも身に付けるものに出来たらいいと思います。
教員採用試験に対する取り組み方、東京・千葉の対策には教授たちは相談にのってくれたり、勉強方法を教えてくれる。でも私のように茨城で受験する者への対応は……とてもひどいものでした。何のためにこの大学を選んだのか……。

表16-7 (その1) 同窓会関連

同窓会関連
問17の(4)卒業生のネットワークづくりがどんなに時代が進もうと最大事だとおもいます。今後も淑徳大学のため感謝をもって邁進します。当局も理事長をトップとして自行化他で頑張ってください。
学食を、卒業生なら割引したりしますといったサービスがあったら、小さい子供がいる卒業生同士でもまた足を運びやすい。もうやっていたらすみません。案内とかあると嬉しいです。
現在宮崎県には支部がありません。先輩達と支部を作りたいと思っています。その時は、本部の力をお借りしたいと思います。
講演会等の情報を卒業生にも提供してほしい。私が卒業した頃と今では色々違うことも多いと思いますが、大学に対して何かしたいと思う気持ちはあります。たくさん学ばせていただき本当に感謝しています。できれば、卒業生がどんな活動をしているのか知るもの（NEWS等）があれば自然とつながりが出て、後輩につながるのではないかと思います。例えば私はソーシャルワーカーの仕事を始めて何度か先輩に会いました。どのくらいのソーシャルワーカーが卒業生にいるのか知りたいです。
卒業生とのつながりが故郷（宮崎）でない為、今後増やしたい。

表16-7 (その2) 同窓会関連

同窓会関連
卒業後、活動活躍している人の情報が少ない。
母校のためにお役に立ちたいと思う卒業生は沢山いると思います。私はカウンセリングセンターで一年間実習させていただき、そのことがとても役に立っていると感じていますので、何かお役に立てたら実習の側面でお手伝いできるのでは…と思うのですが……。
卒業生へ向けてホームページをはじめさらに今後も大学の様子等情報発信して下さい。
県人会などの情報がほしい。
サークルや学園祭などのイベントを含む学校生活の様子をH・Pに載せていただけるとありがたいです。

表16-8 地域貢献

地域貢献
地域の人も参加できる講演会・研修があると良いと思います。
子供が大蔵寺幼稚園に通っています。大学祭でオープニングのマーチングをした後、色々なイベントを楽しませてもらっていて、昨年はプリキュアショーもやっていたので喜んでいました。以前は学生が楽しむ、芸人さんと呼ぶことも多かったと思うのですが、完全に地域向け。卒業生として(子連れで)来校する様になり、違った視点で大学祭を楽しんでいます。卒業しても楽しめるってなかなかないと思うのです。今年も楽しみにしています。
気軽に近隣住民が参加できる講座をもっと増やしてほしい。例えば心理学やコミュニケーションに関して。
一般の方々が参加できる講演会などを増やして頂きたいです。
淑徳大学として地域における貢献活動をされていますが、まだ弱く感じています。在住している地域より、車で1時間ほどの所に長野大学があります。ここは、私立大学の部で3年連続「地域貢献度大学1位」であり、常にトップレベルの地域活動をしています。例えば大学の学びの場を住民に提供しています。私は3年前「死生学講座」(全5回、2,000円)を夜6時30分～8時に開かれ参加しました。この4月よりは学生と共に学ぶ市民開放講座「地域社会学」(全15回、6,000円)16時10分～17時40分に参加予定です。他にも地域に開かれた活動を常にしており、地元上田市での評価も高く、近い内に上田市立大学になる可能性が強くなってきています。他大学の実践から学び、淑徳大学の発展を願っております(尚、長野大学社会福祉学部あります)。
遠方ですが、東京や神奈川の地域と連携していただけたら有り難いです。
発達障害の通所施設(療養)の継続。

表16-9 社会貢献

社会貢献
私は在学中、障がいのある方と机を共にしたことが一番の収穫でした。障がいのある方への門戸を広くを継続していただけたらと思います。
福祉職の認知の向上、待遇等の改善の働きかけ、職業としての地位向上を社会に働きかける運動や行動を行っていくこと。
福祉の精神を持った保育士に是非保育園で働いてもらいたい。これからの保育園は教育的な内容が重要視されるが、親の立場、養護的な内容支援の必要な子ども親の立場を正しく理解し、保育してもらいたいのので、資格をとったら、保育現場に来てほしい。大学としても、保育の大切さをアピールし、保育士として働くように伝えてほしい。

表16-10 学祖の理念・自校教育の必要性

学祖の理念・自校教育の必要性
キャンパスが小さい。教員と学生に距離があった。もっと身近に相談にのってくれる教員がいたら良かった。就職して感じたが、福祉現場についての教員が少ない。「頭でっかち、何学んできたの？」と言われ、確かに資格取得に力を入れすぎていて、その他がおろそかになっていたかも。人間性の教育ができていない。共生論を現代版にアレンジして学生に伝えていくことが大切かと。
現在まで障害者の就労支援に携わっております。障害者が働く機会は少しずつ広がっていますが、学生が（又は一般的に）障害者と日常的にふれあったり、働く姿を見る機会はまだまだ少なく、“未知”という壁がまだ存在しているように思います。福祉は“守るもの”ではなく“共に生きる”ものと、学んできました。大学においても多くの学生が働く障害者を自然にうけとめるような環境整備を考えていただけたらと考えています。
卒業して9年が経つため、現在の淑徳大学の状況が分かりません。淑徳大学で学んだ福祉の歴史や精神論、理念等は現在、精神保健福祉士として仕事をする上で、私のベースとなっていますが、就労して思ったのは、大学の講義、学習は福祉の精神論に偏り過ぎているように思います。精神論を否定することでは全くなく、むしろ最重要のものであると考えますが、同時に現場論、現実論にもきちんと向き合うべきだと思います。
良信先生が設立した福祉事業等をもっと大学の中に位置付けて連携強化した方が良いと思います。そのことでより共生イズムが明確化すると思います。
大学時代は余り必死に学ばなかったという後悔が強くあります。しかし、淑徳大学を卒業したという誇りは常に持って日々実践しています。娘も淑徳大学を卒業しました。長谷川良信先生の理念を継続してこれからも素晴らしい教育の場として福祉への心を大切にする人材の育成にご尽力頂きたいと思っています。
共生の理念、together with himは、社会に出て、淑徳だからこそ学べたことかなと思うことが多々あります。
卒業生を含めた外来者に対して優しさに欠ける雰囲気の問題であることを以前から指摘していますが、一向に改善された様子が認められません。卒業生が大学を思う意識を否定するかの言動もありました。多分改善は望むこと自体が無理なようです。「3.11」支援を介して改善される貴重な機会でありましたが、自らが変改する機会を捨てましたね！

表16-11（その1） マナー教育・コミュニケーション教育の強化

マナー教育・コミュニケーション教育の強化
私自身も年上の社会人から見れば、「今時の若者」なのかもしれませんが……4年生の時に入ってきた淑徳生たち（1年生）を全体的に見て、常識とマナーが欠けている若者たちに見えました。〈タバコのマナーその他〉私は、同じ若者として一緒にされたくないと思いました。今の淑徳生の人たちに常識とマナーを教える授業をした方が良いと思います。
ここ数年（淑大生ということではありませんが）実習生の質が変わって来たことを感じます。挨拶や質問の仕方、実習に対する意識など、基本的なことから伝えなければならないことが増えて来ています。現場に出る際の心構えや準備など、しっかりとご指導をお願い致します。
昨年はツイッター等でイタズラや犯罪を自慢するような事件が多くありましたが、在校生にはそうした淑徳の伝統を大切にするような指導・教育をおこなって欲しいです。
在学中からのマナー、社会人としての常識ある行動の指導体制の強化、内容の見直し・メンタルヘルスケアの方法の指導19年間、同じ淑徳卒業生と仕事をする機会が多くあった。全員ではないが、社会人としての常識に欠ける人が複数。（誰にも挨拶しない等）福祉の専門性以前の問題ではないか？原因の調査も必要。過労など個人の責任と言えない部分があるのか？専門的視点のメンタルヘルスケアは必須。
数年前サークルのパーティーに参加させてもらった際、在校生の方とお話をする機会がありました。その際、皆さん、将来のビジョンをしっかりとっていて、驚かされました。何の職業でもそうですが、一見福祉と関係ない仲間との共同活動（私たちの時はキャンプ）など、人との関わり方の勉強というか、たくさんさんの経験が有意義だと思いました。

表16-11 (その2) マナー教育・コミュニケーション教育の強化

マナー教育・コミュニケーション教育の強化
教育実習を受け入れる立場として、教員免許を取得することの意味をきちんと指導してほしい。指導ができないことは、実習生として仕方がないが、社会人としての心得も指導していただけると、同じ大学出身として誇りがもてます。
現学生の気持ちを聞きつつも、社会に出てからの指針となるような教育をして頂きたい。私は大学での学びがあって本当によかったと感じています。
淑徳大学の卒業生を何名も受け入れているが質が低下してきているように感じられる。
在学生たちのSNSの利用について注意して頂きたい。
できの悪い、貧しい学生でしたが、1つの資格(たった1つでしたが)でしたが両親の家で、仕事があり、長く続けることができました。感謝しております。ふり返りますと、家庭でも、職場でも、“コミュニケーション力”が大切です。私自身にがての方でしたので、“コミュニケーション”方面も身につくと良いと思います。
実習生の態度を改めて指導していただき、実習先に送り出してもらいたい。
最近の新卒は、自ら仕事を探してやる、自ら考えて動く、ということがうすれている様に伺える。ぜひ、社会に出る直前の学ぶ場として、勉強だけではなく、働くこと、社会人になるということの大切なことを伝えてほしい。
社会人になってから社会人として活躍できる生徒の育成。ねばり強く、コツコツ努力していける生徒を社会は必要としている。今の若者は忍耐力が足りない。がまんもできない。コミュニケーションもとれない。上記の内容をカリキュラムに取り入れ、4年間育成してほしい。期待します。
実習生を受け入れる中で、挨拶が出来る、出来ない等、人としての基本に欠ける学生さんが増えてきている気がします。今、必要なのは専門性だけでなく、人間力、コミュニケーション力に大事な事が含まれているという事を学生の皆様に伝えて頂けたらと思います。
社会人としてのルールを卒業する、就職する学生へ伝えるべきだと思います。年々崩れていってる気がします。
ベビーブーム+バブル崩壊による就職難でやりたい仕事に中々就けませんでした。また、資格がなく、力もなく現場は即戦力を求められている中、とても苦しい日々でした。ただ大学を出るのでなく、資格に伴う力をつける+苦情に耐えられる力をつけることが大切になると思います。力をつけて仕事を続けていける学生をぜひ育てていただけたらと思います(ただ卒業させるのはよくないと思います。私みたいに苦労して欲しくないです)。
知識はもちろんですが、社会人としての常識のようなものも大学時代に身につけておくべきと、学校現場にいて強く感じます。
本大学のための傾向ではないが、最近の卒業生の傾向として、「言われたことしかやらない」「自分から考え、学ぼうとする態度が希薄」が目につきます。もっと主体的に考え行動できる学生の育成を先輩として希望します。
偏差値は低くても卒業後社会人として立派にやっていける人材を育て、この大学を卒業して良かったと思える大学であって欲しい。

表16-12 (その1) 学生へのサポート関連

学生へのサポート関連
もっと学生への精神的支援ができるよう、特定の先生だけでなく、より多くの先生に対応してほしい。先生と呼ばれる以上、学生からしたら頼りになる存在なので……。
在学生の中には、サークルやクラブ活動に属することを苦手としている方もいます。その方々のネットワーク、人間関係を広げるためにも、1回でよいので、ボランティア活動への参加を声かけしてあげるとよいと思います。
聴覚障がい者学生への情報保障の徹底。

表16-12 (その2) 学生へのサポート関連

学生へのサポート関連
“障がい者” となって、それでもまた福祉の仕事をしたいと考えている。学生のなかにもクローズの精神病患者や障害者がいると思うので、彼らの社会へとつながる道への手助けを忘れずして欲しい。
発達障害を持ちつつ頑張っている学生達への支援を広い知識を生かしながらぜひ行っていって下さい。私は、今、盲学校で眼球運動を含め子ども達の体の動きの育ちと生活力に着目して実践しています。彼らにとり必要なのは自信を持ち生きていくことです。よろしくお願いします。

表16-13 在学生への意見

在学生への意見
現代社会において、学生という名のもと、甘えていては、社会では通用しない為、常に将来を考えて学生生活を送ることが大事である。
大学生生活を最大限に楽しんで欲しい。又、親友と言える友人を作って欲しいと思います。私自身、そう呼べる友人と卒業後25年以上経っても付き合いがあります。友人は宝です。
4年間という時間を大事に考え、勉学に励んで下さい。

表16-14 大学事務について

大学事務について
履修登録について。現在改善されていたらすみません。私が在学していた頃、履修登録する際にS-Navi上で登録を行っていたのですが、学科ごとに履修登録開始時期が異なっていました。そのため、早くに受付が開始される学科の学生は自由に講義を選択できたのに対し、開始の遅い学科は、定員に空きのある講義しか選べませんでした。公平性を保ってほしかったです。
新聞奨学生をしていて、何とか卒業させてもらったので、要望等という大それたものはありません。ただ、この苦労知らずの若者が多い中で、現在新聞奨学生をしている、気合の入った学生が居れば、是非単位等で下駄を履かせてあげてほしい。はっきり言って、4年間で卒業するのは大変です。ただし、その時の若者を思い出せばどんな困難にも耐えられると思います！
学事課はもっとスマートに仕事をするべき。
現在、私は、淑徳大学の授業、ユニバーサルキャンプの方法に、講師として参加している。このキャンプは、土井ゼミ生を中心として、卒業生のボランティアスタッフが企画をしている。今までにかかわった大学の卒業生は100名を超えている。その準備、企画にずいぶんと人が関わり、完成度の高い実習になっている。最近、参加をする学生が少なくなり、少しがっかりしている。そこで自ら積極的にPRをしたいと思っているが、その方法を大学側で提供いただけないか。
2011年3月卒業、卒業式がなかった。後日卒業の会みたいなものがあったが、あんなのでは代わりにならない。一生に一度しかない時間が行われないことはとても悲しく、思いたくはないが、大学側に強い憤りを感じる。ずっと心残りである。きちんと卒業式を挙行してほしい。大切な青春の時間を返してほしい。
任用資格が取得されているといわれ、証明までもらっていたのに、後から取得されていなかったとただ言われて腹が立った。おわびに取得できる方法も考えてくれなかった。このような事が二度おこらないようにしてほしい。

表16-15 (その1) 設備面など

設備面など
学生も使える駐車場があるとよいと思います。
今後、在学することはないが、学費をもっと安くするべきだと思います。在学中は高い学費に苦しい生活をしたことを覚えています。

表16-15 (その2) 設備面など

設備面など
在学時より設備が充実していてうらやましく思う。
駐車場を作っただけだと、卒業生としても来校しやすいのですが……車で来校できるようになると、卒業生も来校し、もっと活気がでると思います。

表16-16 その他大学への希望

その他大学への希望
自由で、活気のある校風を続けてもらいたい。
明るく、のびのびとキャンパスライフを楽しみ、学業、ボランティア活動に一生懸命に取り組む学生さんたちの支えとして、あたたかくも厳しい (!!) 大学であり続けて頂けたらと思います。
普通の所が、淑徳大学の良い所だと思います。どうぞそのまま、続けて下さい。感謝しております。
学生達の楽しそうに通学する姿をよく見かけます。若い人達の夢をかなえてあげていただけたらと思います。
子供を入学させたいと思えるような学校になってほしいです。
大学の発展を心から望んでいます。大学のスキルアップを願っています。
堅実な経営をして、生き残って欲しい。
継続的發展。
これからも、充実した学びが出来る、素晴らしい大学であってほしいです。

表16-17 (その1) その他の感想

その他の感想
スタートしたばかり、これからの大学を卒業しました。無名でした。先生方が論文を出されたり活発に動いていただいて、淑徳の名が広がり、あこがれて入る学生が出ることもうれしいことです。そこから学生も卒業生も力をもらい、淑徳を大きくしていくと思います。
精神保健福祉士をしています。学会や協会などにあまり大学が積極的でないと感じています。
各々、在学した時期、時代背景さらに、大学の創生期、拡充期など異なる中で、同じ設問のアンケート調査で何が導きだせるのでしょうか？ 四年間、お世話になりましたが、卒業後の生活で大学を意識したことはありません。大学は、できる限り多くの選択肢を用意して学生に選ばせ、自分の進路を決めさせればいいのではないのでしょうか。
届かない事を書いて意味がない十分なシステム（要望→形にする）の構築が先！
19才で初めて、千葉市に訪れた。大学はあたたかく向い入れてくれました。最初は他に合格した大学がなく、イヤイヤでの入学でしたが、4年間の先生の教え、仲間たちのきずなから、言い表すことのできないくらい多くのことを学び、「淑徳の精神」を身につけることができました。他人のつらさやせつなさを思いやる気持を持てたのも、この大学でしか学べなかったと思います。今の家庭がもてたこと、仕事に取り組めるのも、淑徳を選んだからでしょう。ほんとうに感謝しています。ありがとうございます。
遠方にいるため、卒業以来1度も足を運んだことはありませんが、時々送られてくる会報などを見る度、どんどん進化している様子が見られ、とても嬉しく思います。ますますの発展をお祈りいたします。
只、教育現場に居たとき、本学の研修に参加の教員があり、『いい内容をしているなあ!』と思っていました。
遠く離れてしまい、行く機会がなかなかなく残念。
卒業して四分の一世紀以上過ぎ、大学も新しいキャンパスや学部が出来るなど変わりつつあります。しかし、大蔵寺のキャンパスが淑徳大学の原点であり、私の思いは常に大蔵寺にあります。また、機会がありましたら千葉に行きたいです。

表16-17（その2） その他の感想

その他の感想
現在、社会福祉士として福祉施設で働いています。今後、経験を積み、キャリアアップをした際は、どんな形でも大学に恩返ししたいと思っています。
楽しい大学生活は、私の宝物です。優しい仲間に会えたこと、数々の思い出は、30年近く過ぎた今もキラキラしています。環境を与えて下さったこと、感謝！感謝!!です。
卒業後、小学校、特別支援学校の教員として、沢山の失敗もありましたが、結果としては充実した職業生活を送ることができました。退職後もH24年度まで非常勤講師として勤務いたしました。在職中は母校について感謝等、深く思うことが少なかったように思いますが、現在は淑徳大で学習したことが、今の自分につながっているという思いです。今後も多くの優秀な人材の育成を願っています。
ご無沙汰いたしております。大学で学んだ理論を基礎として、38年間仕事（教員生活）を成し遂げることができました。今は、余暇を楽しんでいます。在学中は、大変ありがとうございました。
卒業後、6年間養護学校に勤務しましたが、教科（社会科）の大切さを感じ、高校勤務を希望し、定年まで高校教員としてすごしました。今は、デイサービスで社会福祉主事の資格を生かし、老人の方々としてすごしています。淑徳大学卒をほこりにし、大変感謝しております。貴大学のますますの発展をお祈り申し上げます!!卒業後、高校教員として定年まですごしましたので、社会福祉とは一見無縁とされますが。
東京の社会福祉法人に32年、勤務しておりました。先輩、後輩共に淑徳の卒業生が多く、管理職（施設長）にも何人もなっています。淑徳の卒業生は優秀であると、評価を受けています。これからも福祉分野を担っていく人材を多く育ててほしいと思います。
サークルでのつながりや女子寮で共に過した数名とは現在も交流しています。卒論ゼミの教授とも交信しています。ありがたく思います。教官の活躍も誇りです。
今後とも淑徳大生が社会の中で益々活躍できることを願っています。
社会学部がなくなってしまって悲しいですが、福祉系、看護系など活躍される卒業生が増えるのは、うれしいです。在学中に今の新しい校舎に出会いたかったです。

問17 卒業生として淑徳大学に協力できること

問17-1 卒業生として協力できることについての回答数

「問17. 卒業生として淑徳大学に協力できること」について、設問ごとに最も「はい」の回答数が多い項目をみると図17-1に示した通りであった。最も多かったのは、「(2) 実習・インターンシップの場の提供」で157人（15.9%）、続いて、「(3) 後輩の採用」で146人（15.0%）、そして「(4) 卒業生のネットワークづくり」133人（13.8%）、「(1) 講演会・講義などの講師」107人（10.8%）という順であった。

問17-2 卒業生として協力できることについての内容

卒業生として協力できることについての回答を類似の内容毎にまとめて内容と頻度を表17-1～表17-4に示した。その内容は、表17-1 講演会・講義などの講師（テーマ内容）、表17-2 インターンシップの場の提供（職種・領域）、表17-3 後輩の採用（職種・領域）、表17-4 その他、であった。内容の後の括弧内の数値は頻度である。

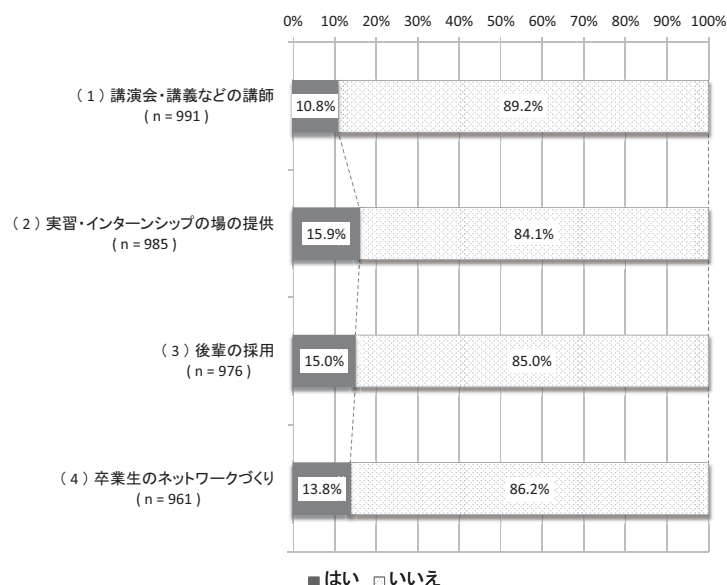


図 17-1 卒業生として淑徳大学に協力できること

表17-1 (その1) 講演会・講義などの講師 (テーマ内容)

() 頻度

共生について (5)	障害者の立場から、地域福祉
防災関連 (1)	防災・災害時の備え、対応
高齢者福祉関連 (5)	認知症について 老人介護施設の現状、家族の抱える苦痛について リハビリについて
福祉現場実務関連 (14)	福祉現場における接遇、体験談、実践事例、児童養護施設現場全般について ケアマネジャーの実務、虐待児への支援・ケア 保健医療分野ソーシャルワークについて ケースワーク、対人援助、MSW論 障害者福祉の支援員の心構え
経営・運営関連 (5)	医療機関の経営・運営、施設立ち上げのノウハウ 学校経営 経営組織論
障害者福祉関連 (14)	障害者の生活、障害者理解、重症心身障害児(者)在宅支援、福祉施設の現状について、 行動障害療育、障害者・児への性教育、性支援 知的障害者、自閉症支援に関すること、手話通訳 精神障がい者の就労について、アートセラピー
資格試験等受験対策 (5)	介護福祉士受験対策 認定こども園保育士、公立保育園保育士(公務員) 教員採用試験
就職関連 (5)	Uターン就職について 就職活動対応、企業が求める人材について
福祉制度等 (9)	成年後見制度、福祉行財政、福祉改正、生活保護法、介護保険、障害者の権利擁護

表17-1 (その2) 講演会・講義などの講師 (テーマ内容) () 頻度

その他 (8)	エイズ啓発、人権・同和教育関連、雑誌への投稿について、国際協力について 就業体験、仏の話
教育関連 (6)	特別支援教育に関すること 遊びについて 青年教育、非行防止
保育関連 (3)	保育士経験談
精神保健福祉関連 (3)	ゲートキーパーについて 学校での自殺予防教育 児童養護施設実習
実習関連 (1)	児童養護施設
ボランティア関連 (3)	災害ボランティア
保健福祉関連 (1)	生涯スポーツ

表17-2 インターンシップの場の提供 (職種・領域) () 頻度

介護関係 (26)	老人福祉施設等
看護関係 (4)	訪問看護等
障害者福祉関係 (28)	福祉施設、障害者支援、更生施設、生活介護施設、生活介護事業所など
保育関係 (9)	保育園、保育士、保育実習、
精神保健福祉士 (5)	
病院 (3)	一般病院、精神科病院
教育 (10)	学童保育指導員、特別支援学校、児童養護施設、児童相談所、学校、教育 実習
社会福祉士 (8)	社会福祉士養成、地域包括ケア、地域包括支援センター、社会福祉協議会
国際協力 (2)	
一般 (4)	自動車関連、美容関連、IT関連

表17-3 (その1) 後輩の採用 (職種・領域) () 頻度

看護師 (4)	
介護福祉士 (5)	(老健施設介護職員など)
社会福祉士 (2)	
介護職 (34)	
保育士 (7)	
障害者支援 (30)	(生活支援員、授産施設、職業指導員など)
ケースワーカー (CW) (3)	
医療 (5)	
精神保健分野 (2)	(PSW)
学校 (3)	(教員)

表17-3 (その2) 後輩の採用(職種・領域) () 頻度

児童指導員(4)	
児童養護施設(2)	
社会福祉施設全般(5)	
その他福祉サービス(2)	
一般(8)	

表17-4 その他 () 頻度

ボランティア(3)	学校行事の手伝いなど
同窓会関連(4)	県支部の活動
学生支援(1)	学習機会の提供
学生ボランティアの受入れ(4)	
就職支援(2)	

おわりに

平成27年度『総合福祉研究特集号 淑徳大学社会福祉研究所共同研究報告 特集号－卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について－』を予定通り刊行することができて、大変喜んでいる。3年前の平成25年4月から開始した共同研究は、平成27年に創立50周年を迎えることを念頭においた卒業生へのアンケート調査とし、本年9月26日に行われる創立50周年記念式典の記念品の一つとして配布される。

共同研究としてのアンケートの目的は、大学創立からこれまでの50年間の淑徳大学の教育が、卒業生の職歴、仕事観、生きがい・人生観にどのような影響をもたらしたか、淑徳大学の教育成果がどのように卒業後の生活に反映されているかを明らかにすることであった。

調査結果からは、卒業生の淑徳大学への思いがひしひしと伝わってきた。満足・不満、期待・幻滅、不安・希望など交錯する思いは様々であるが、躍進する母校、淑徳大学への期待が感じられた。一方、「福祉の淑徳」としての伝統を、4キャンパス8学部へと拡大した現在から、今後これまでの伝統を継承してどのように新たな方向性を見出していくのかの答えが求められていた。

本調査実施に当たっては、多くの方々にご助力いただいた。ここに全ての方々のお名前を記す事はできないが、特にお世話になったの方々のお名前を記して感謝の意を表したい。学祖長谷川良信先生の思想・理念に関しては長谷川匡俊理事長にご助言いただいた。対象者の選定と名簿の提供には同窓会会長多久島宏規様と淑徳大学同窓会事務局職員の方々、調査用紙の発送では㈱図書出版様に御協力いただいた。記念品として淑徳大学のロゴ入りのクリアーシートはアドミッションオフィスからご提供いただいた。回収された調査用紙のデータ処理と図表の作成には関利(株)河村純様に適切な助言と迅速で正確な作業を進めて頂いた。そして調査用紙の印刷と報告書作成には㈱正文社様の御世話になった。

この調査の実施においては現運営委員がその責務を果たしたが、平成25年度当時運営委員であった教育福祉学科教授加藤哲氏には職歴関係の調査項目選定の任を果たしていただいた。また、調査の進め方全般についてコミュニケーション学部教授山本功氏にご助言をいただいた。最後になったが、社会福祉研究所事務担当の朝倉美穂子氏には、全ての作業をスムーズに進めるために殊の外お世話になった。その労に深謝する。

ご回答いただいた皆様には、結果概要をホームページに公開してご覧いただけるようにしたいと考えている。多くの方々のご協力をさらに有効に生かすために所長川瀬良美が研究的視点から検討して『総合福祉研究第20号』に紀要論文として発表する予定にしている。そちらもご覧いただけたら幸いである。この調査報告書が、50周年を契機とした今後の淑徳大学の在り方を検討するために有効に活用されることを願っている。

淑徳大学社会福祉研究所
所長 川瀬 良美

V. 文 献

- 長谷川匡俊 1992 トゥギャザー ウィズ ヒム 長谷川良信の生涯 新人物往来社
- 長谷川匡俊 2005 一番ヶ瀬康子・津曲裕次（編）シリーズ福祉に生きる24（普及版）長谷川良信 大空社
- 厚生労働省 2011 平成23年第7回「中高年者の生活に関する継続調査票」
- 厚生労働省 2013 第12回21世紀成年者縦断調査【平成14年成年者】国民の生活に関する継続調査〔女性票〕〔男性票〕（平成25年11月6日調査）
- 内閣府 2012 内閣府による平成24年版「子ども・若者白書：特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立、就労等支援の現状と課題」
- 内閣府 2013 平成25年 内閣府「社会意識に関する世論調査」

VI. 調査実施体制

社会福祉研究所 所 長 川 瀬 良 美（教 授）
運営委員 川真田 喜代子（教 授）
運営委員 黒 川 雅 子（准教授）
運営委員 山 西 哲 也（准教授）
運営委員 伊 藤 千 尋（講 師）
運営委員 竹 下 智 美（講 師）
運営委員 池 畑 美恵子（助 教）
事務職員 朝 倉 美穂子

附 「卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について」 調査用紙

アンケート調査へご協力をお願い

淑徳大学社会福祉研究所は、変貌する社会福祉の状況に対応する研究活動を行うことを目的として設立されました。これまで福祉の現状や国際比較についてなどの調査研究を行って参りました。

この度、平成 25 年度から新たな研究をスタートさせるにあたり、淑徳大学が平成 27 年度に開学 50 周年を迎えることから、卒業生を対象とさせていただいた調査を実施することに致しました。

アンケートは、「卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について」というテーマです。

調査対象とさせていただいたのは、社会福祉学部、社会学部、総合福祉学部の卒業生のうちで、昭和 44 年卒業：第 1 期生から平成 25 年卒業：第 45 期生までの、卒業期が奇数年の方々です。

社会福祉研究所では、この調査結果が淑徳大学と卒業生をつなぎ、卒業生と大学の今後の発展に寄与できることを目的としております。公私ともにご多忙のところ大変恐縮でございますが、アンケート調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。

アンケートにご回答の後は、同封の返信用封筒にて 5 月 31 日末日までにご返送いただきたくお願い申し上げます。ご回答は無記名としており、調査結果は統計的に処理するため、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力のほど重ねてお願い申し上げます。調査に関して不明な点は、下記連絡先へお問い合わせください。

調査結果は、平成 27 年度末に概要を研究所ホームページに公開の予定です。

平成 26 年 4 月 1 日

淑徳大学 社会福祉研究所

所 長 川瀬良美（淑徳大学教授）

連絡先：淑徳大学社会福祉研究所／総合福祉研究室
〒 260-8701 千葉市中央区大巖寺町 200
直通電話／FAX：043-265-7377（直通）
大学代表電話：043-265-7331（内線：323）
E-mail：sougou@soc.shukutoku.ac.jp
事務職員 朝倉（火・木・金 在勤）

西暦入力コード一覧

卒業年および西暦年の記入においては、下記の入力コードを参考にして、西暦年の下2桁を記入ください。本調査の回答における西暦年は、全てこの入力コードによってご記入ください。

卒 業 年	卒 期	西 暦	入力コード	卒 業 年	卒 期	西 暦	入力コード
昭和44年卒・卒期 1 期生・1969 年 ……			6 9	平成 4 年卒・卒期 24 期生・1992 年 ……			9 2
昭和45年卒・卒期 2 期生・1970 年 ……			7 0	平成 5 年卒・卒期 25 期生・1993 年 ……			9 3
昭和46年卒・卒期 3 期生・1971 年 ……			7 1	平成 6 年卒・卒期 26 期生・1994 年 ……			9 4
昭和47年卒・卒期 4 期生・1972 年 ……			7 2	平成 7 年卒・卒期 27 期生・1995 年 ……			9 5
昭和48年卒・卒期 5 期生・1973 年 ……			7 3	平成 8 年卒・卒期 28 期生・1996 年 ……			9 6
昭和49年卒・卒期 6 期生・1974 年 ……			7 4	平成 9 年卒・卒期 29 期生・1997 年 ……			9 7
昭和50年卒・卒期 7 期生・1975 年 ……			7 5	平成10年卒・卒期 30 期生・1998 年 ……			9 8
昭和51年卒・卒期 8 期生・1976 年 ……			7 6	平成11年卒・卒期 31 期生・1999 年 ……			9 9
昭和52年卒・卒期 9 期生・1977 年 ……			7 7	平成12年卒・卒期 32 期生・2000 年 ……			0 0
昭和53年卒・卒期 10 期生・1978 年 ……			7 8	平成13年卒・卒期 33 期生・2001 年 ……			0 1
昭和54年卒・卒期 11 期生・1979 年 ……			7 9	平成14年卒・卒期 34 期生・2002 年 ……			0 2
昭和55年卒・卒期 12 期生・1980 年 ……			8 0	平成15年卒・卒期 35 期生・2003 年 ……			0 3
昭和56年卒・卒期 13 期生・1981 年 ……			8 1	平成16年卒・卒期 36 期生・2004 年 ……			0 4
昭和57年卒・卒期 14 期生・1982 年 ……			8 2	平成17年卒・卒期 37 期生・2005 年 ……			0 5
昭和58年卒・卒期 15 期生・1983 年 ……			8 3	平成18年卒・卒期 38 期生・2006 年 ……			0 6
昭和59年卒・卒期 16 期生・1984 年 ……			8 4	平成19年卒・卒期 39 期生・2007 年 ……			0 7
昭和60年卒・卒期 17 期生・1985 年 ……			8 5	平成20年卒・卒期 40 期生・2008 年 ……			0 8
昭和61年卒・卒期 18 期生・1986 年 ……			8 6	平成21年卒・卒期 41 期生・2009 年 ……			0 9
昭和62年卒・卒期 19 期生・1987 年 ……			8 7	平成22年卒・卒期 42 期生・2010 年 ……			1 0
昭和63年卒・卒期 20 期生・1988 年 ……			8 8	平成23年卒・卒期 43 期生・2011 年 ……			1 1
昭和 64 年 1 月 7 日まで・・・1989 年 ……			8 9	平成24年卒・卒期 44 期生・2012 年 ……			1 2
平成 1 年卒・卒期 21 期生・1989 年				平成25年卒・卒期 45 期生・2013 年 ……			1 3
平成 2 年卒・卒期 22 期生・1990 年 ……			9 0	平成26年卒・卒期 46 期生・2014 年 ……			1 4
平成 3 年卒・卒期 23 期生・1991 年 ……			9 1				

淑徳大学卒業生へのアンケート

～卒業後の動向および仕事・人生へ向きあう意識について～

実施主体：淑徳大学・社会福祉研究所

調査は、本ページを1ページとして始まり、6ページまであります。回答は、該当する番号に丸印をつけていただく、あるいは数字を記入していただくなどの方法です。また、自由にご記述いただく質問もあります。全ての設問について、西暦2014年（平成26年）4月1日現在を基準としてご回答ください。年号は全て西暦年で、前ページの「入力コード」によりご回答ください。

問1 あなたの性別の番号に○をつけてください 1. 男性 2. 女性

問2 あなたの年齢は（4月1日現在の満年齢をご記入ください） 歳

問3 あなたの卒業年は（入力コードの2桁の数字をご記入ください）

問4 あなたの卒業月に○をつけください 1. 3月 2. 9月

問5 あなたの卒業された学部と学科の番号をご記入ください。

1. 社会福祉学部 2. 社会学部 3. 総合福祉学部

1. 社会福祉学科 2. 社会学科・人間社会学科 3. 心理学科・実践心理学科

問6 現在お住まいの都道府県の番号をご記入ください（海外の場合は国名も）

- ①北海道 ②青森県 ③岩手県 ④宮城県 ⑤秋田県 ⑥山形県 ⑦福島県 ⑧茨城県
⑨栃木県 ⑩群馬県 ⑪埼玉県 ⑫千葉県 ⑬東京都 ⑭神奈川県 ⑮新潟県 ⑯富山県
⑰石川県 ⑱福井県 ⑲山梨県 ⑳長野県 ㉑岐阜県 ㉒静岡県 ㉓愛知県 ㉔三重県
㉕滋賀県 ㉖京都府 ㉗大阪府 ㉘兵庫県 ㉙奈良県 ㉚和歌山県 ㉛鳥取県 ㉜島根県
㉝岡山県 ㉞広島県 ㉟山口県 ㊱徳島県 ㊲香川県 ㊳愛媛県 ㊴高知県 ㊵福岡県
㊶佐賀県 ㊷長崎県 ㊸熊本県 ㊹大分県 ㊺宮崎県 ㊻鹿児島県 ㊼沖縄県
㊽（海外：国名 ）

問7 現在、淑徳大学同窓会の地方支部活動に参加されていますか 1. はい 2. いいえ

問8 問7で「はい」と回答された方、所属する支部の都道府県名を問6の
都道府県名の番号から選んでご記入ください

問9 現在、仕事に就いていますか 1. はい 2. いいえ

問 10 あなたの大学卒業後から現在に至るまでの職歴について、下の表から選択し、1～5の項目について必要事項をご記入ください。なお転職した場合には、現在の仕事を含めて4つまで、就労期間の長いものをご記入ください。その際、転職1回目の場合は〔1〕と回数に該当する数字をご記入ください。同一就職先内で職種や雇用形態が変更になった場合は転職として扱いご記入ください。転職理由は主となるもの1つを選んでご記入ください。

	就職先	職種	雇用形態	就労期間の西暦は入力 コードをご記入ください	転職（退職）理由
1. 大学卒業時の進路				西暦 年 月～ 西暦 年 月	
2. 転職（ 回目）				西暦 年 月～ 西暦 年 月	
3. 転職（ 回目）				西暦 年 月～ 西暦 年 月	
4. 転職（ 回目）				西暦 年 月～ 西暦 年 月	
5. 転職（ 回目）				西暦 年 月～ 西暦 年 月	
【就職（進学）先】 ①一般企業・団体 ②福祉系企業 ③福祉施設・団体 ④医療関係法人 ⑤国・地方公共団体 ⑥学校（幼稚園・大学を含む） ⑦自営業 ⑧その他（就職） ⑨大学院等（進学） ⑩就職・進学をしなかった 【職 種】 ①事務系 ②営業・販売系 ③接客・サービス系 ④技術系 ⑤専門職系 ⑥農林漁業 ⑦公務員 ⑧議員 ⑨教育関係 ⑩医療関係 ⑪福祉関係（CW・MSW・PSW・保育士等） ⑫介護関係 ⑬指導員 ⑭セラピスト ⑮自営業・自由業 ⑯専業主婦（主夫）・家事手伝い ⑰その他（進学は斜線） 【雇用形態】 ①経営者 ②会社・団体等の役員（管理職） ③正規の職員・従業員 ④派遣社員 ⑤契約社員・非常勤職員 ⑥パート・アルバイト ⑦嘱託職員 ⑧自営業の手伝い ⑨その他（進学は斜線） 【転職（退職）理由】 ①定年のため ⑧就業時間・休日等の労働条件改善のため ②倒産・解雇・希望退職・契約期間満了 ⑨視野を広げる（経験を広げる）ため ③病気や怪我の療養のため ⑩やりがいのある仕事に就くため ④家族の介護・看護のため ⑪能力を発揮できる仕事に就くため ⑤子・孫の育児のため ⑫大学で取得した免許・資格を活かすため ⑥人間関係がうまくいかなかったため ⑬卒業後取得した免許・資格を活かすため ⑦より高い賃金・収入を得るため ⑭その他					

問 11 あなたが大学在学中、あるいは大学卒業後に取得した免許・資格についておたずねします。

以下の 20 の資格について、在学中取得は〔1〕、卒業後取得は〔2〕、を○で囲み、取得年は西暦の入力コードをご記入ください。資格がない場合は、資格なし〔3〕を○で囲んでください。該当する資格がない場合は、その他（21・22）にご記入ください。

資格名	在 学 中	卒 業 後	資 格 な し	取 得 年	資格名	在 学 中	卒 業 後	資 格 な し	取 得 年
1. 社会福祉士	1	2	3		12. ホームヘルパー	1	2	3	
2. 精神保健福祉士	1	2	3		13. 幼稚園教諭	1	2	3	
3. 保育士	1	2	3		14. 小学校教諭	1	2	3	
4. 社会教育主事	1	2	3		15. 中学校教諭	1	2	3	
5. 図書館司書	1	2	3		16. 高等学校教諭	1	2	3	
6. 認定心理士	1	2	3		17. 養護学校(特別支援学校)教諭	1	2	3	
7. 福祉心理士	1	2	3		18. 盲学校又は聾学校(々)教諭	1	2	3	
8. 産業カウンセラー	1	2	3		19. PT・OT・ST のどれか	1	2	3	
9. 社会調査士	1	2	3		20. 運転免許	1	2	3	
10. 介護福祉士	1	2	3		21. その他 ()	1	2	3	
11. ケアマネージャー	1	2	3		22. その他 ()	1	2	3	

問 12 現在の仕事について感じていることを、次の一覧表の項目ごとに、〔思う：5〕から

〔思わない：1〕までの5段階で考えて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

また、現在、仕事に就いていない方は、仕事をしていた当時の気持ちを思いだして回答してください。離職期間が長くて回答が困難な方は、問 13 へお進みください。

【仕事について感じていること】	思 わ な い	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら で も な い	や や 思 う	思 う
1. 大学で学んだ理論が仕事に活かされている	1	2	3	4	5
2. 実習・演習で学んだことが仕事に活かされている	1	2	3	4	5
3. 「実学」の精神が仕事に従事する中で生きている	1	2	3	4	5
4. 「共生」の理念が仕事に従事する中で生きている	1	2	3	4	5
5. ボランティア活動等の学外体験が仕事に活かされている (体験がない場合は斜線を引いてください)	1	2	3	4	5
6. 現在の仕事は自分に向いている	1	2	3	4	5
7. 自分の能力が活かされて、やりがいのある仕事である	1	2	3	4	5
8. 職場の人間関係は良い	1	2	3	4	5
9. 賃金・収入は自分の仕事に見合っている	1	2	3	4	5
10. 就業時間・休日等の労働条件には満足している	1	2	3	4	5
11. 自分の仕事ぶりは職場のみんなから認められている	1	2	3	4	5
12. 「他者とともに生きる」ことを意識して仕事をしている	1	2	3	4	5
13. 仕事をする上で、周りの人に支えられている	1	2	3	4	5
14. 仕事をするときは常に相手のことを考えている	1	2	3	4	5
15. 大学時代の仲間との繋がりが仕事の役に立っている	1	2	3	4	5
16. 自分は人(社会)の役に立っている	1	2	3	4	5
17. 現在の仕事を長く続けたい	1	2	3	4	5

問 13 人生観について：あなたが生きていく上での意識についておたずねします。次の一覧表の項目ごとに、〔思う：5〕から〔思わない：1〕までの5段階で考えて、当てはまる番号1つに○をつけてください。淑徳大学時代の学び・活動についても合わせてご回答ください。

【人生観について】	思 わ な い	あ ま り 思 わ な い	ど ち ど ち も な い	や や 思 う	思 う
1. 国を愛するという気持ちは強い方だと思う	1	2	3	4	5
2. 国民は、国や社会のことにもっと目を向けるべきだ	1	2	3	4	5
3. 日本人は、個人生活の充実をもっと重視すべきだ	1	2	3	4	5
4. 社会の一員として、日頃、何か社会のために役立ちたいと思う	1	2	3	4	5
5. 東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思う	1	2	3	4	5
6. 社会の一員として、支えられているという気持ちは強い方だと思う	1	2	3	4	5
7. 社会は制度だけでは支えきれないので、ボランティア精神を重視することが必要だと思う	1	2	3	4	5
8. 社会を支えるのには、専門家と隣接領域の関係者が協働することが重要だと思う	1	2	3	4	5
9. 与えられた命に感謝して生きる気持ちが強い方だと思う	1	2	3	4	5
10. 社会の一員として使命感をもって生きたい、という気持ちが強い方だと思う	1	2	3	4	5
11. 人間の本性は、本質的に「善」なる心性をもつと思う	1	2	3	4	5
12. 自分にできることを、他者のために優先的に考えて行動したいと思う	1	2	3	4	5
13. 自分は生かされていると感じて生きる気持ちが強い方だと思う	1	2	3	4	5
14. どのような成果でも、自分一人で独占せず、関係した者で分かち合うべきだと思う	1	2	3	4	5
15. 他者の成長や人格形成に関わるような生き方をしたいと思う	1	2	3	4	5
【淑徳大学時代の学びについて】	履修した	履修しなかった	科目が無かった	覚えていない	
16. 在学中に「共生論」という科目を履修しましたか	1	2	3	4	
17. 在学中に「長谷川良信の思想と生涯」という科目を履修しましたか	1	2	3	4	
【淑徳大学での活動】	参加した	参加しなかった	機会が無かった	覚えていない	
18. 降誕会、成道会などの宗教行事、あるいは接心会などに参加しましたか	1	2	3	4	

問 14 人生において重要だと考えること：あなたが人生において重要だと考えていることについて
おたずねします。次の一覧表の項目ごとに、〔思う：5〕から〔思わない：1〕までの5段階
で考えて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

【人生において重要だと考えること】	思 わ な い	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら で も な い	や や 思 う	思 う
1. お金持ちになること	1	2	3	4	5
2. 自由にのんびり暮らすこと	1	2	3	4	5
3. 世界で活躍すること	1	2	3	4	5
4. 多くの人の役に立つこと	1	2	3	4	5
5. 有名になること	1	2	3	4	5
6. 結婚して家庭をもつこと	1	2	3	4	5
7. 子どもを育てること	1	2	3	4	5
8. 親や家族を大切にすること	1	2	3	4	5
9. 健康であること	1	2	3	4	5
10. 常に学び続けること	1	2	3	4	5
11. 自分が専門としている領域で、有用な仕事をする	1	2	3	4	5
12. 社会人として、同僚から高い評価を得られる人間である	1	2	3	4	5
13. 一人ひとりが、自己実現を果たすことができるような社会 づくりに貢献すること	1	2	3	4	5
14. 全ての人が平等な、偏見のない社会づくりに貢献すること	1	2	3	4	5
15. 利己主義ではなく、利他主義、共生の精神で生きること	1	2	3	4	5
16. 母校である淑徳大学を愛する気持ちをもって生きること	1	2	3	4	5
17. 淑徳大学で学んだことに誇りをもって生きること	1	2	3	4	5
18. 淑徳大学卒業生としての、連携やつながりを継続すること	1	2	3	4	5
19. 淑徳大学の卒業生としての、仲間意識や帰属意識をもつこと	1	2	3	4	5

問 15 母校である淑徳大学を誇りに思うことはどんなことですか。次の一覧表の項目ごとに、〔思う：5〕から〔思わない：1〕までの5段階で考えて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

【淑徳大学を誇りに思うこと】	思 わ な い	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら も な い	や や 思 う	思 う
1. 福祉系大学としての歴史と伝統	1	2	3	4	5
2. 充実したカリキュラムと教育体制	1	2	3	4	5
3. 教育内容の水準の高さ	1	2	3	4	5
4. 施設の充実	1	2	3	4	5
5. 美しい自然のあるキャンパス	1	2	3	4	5
6. 就職率の高さ	1	2	3	4	5
7. 自由で、活気のある校風	1	2	3	4	5
8. 学生の勤勉さ	1	2	3	4	5
9. 安定した経営と将来性	1	2	3	4	5
10. 卒業生の大学への帰属意識と絆の強さ	1	2	3	4	5

問 16 卒業生として、現在の淑徳大学へのご要望などございましたらお書きください。

問 17 卒業生として、ご自身のご経験、社会的立場や専門性を生かして、淑徳大学に協力いただけることがありますか。該当する番号に○をつけて、必要事項をご記入ください。

- (1) 講演会・講義などの講師 1. は い 2. いいえ
内 容 ()
- (2) 実習・インターンシップの場の提供 1. は い 2. いいえ
職種・領域 ()
- (3) 後輩の採用 1. は い 2. いいえ
職種・領域 ()
- (4) 卒業生のネットワークづくり 1. は い 2. いいえ
- (5) その他 ()

ご協力いただけると回答された方は、恐れ入りますが、社会福祉研究所まで連絡先をお知らせください。また、お差し支えなければ、以下のいずれかの連絡先をご記入ください。記入された情報は、上記の目的以外には使用しません。

氏名_____電話番号_____メールアドレス_____

《淑徳大学社会福祉研究所運営委員会・平成25年度－平成27年度》

所 長 川 瀬 良 美

運 営 委 員 川 眞 田 喜 代 子

加 藤 哲（－平成26年3月）

黒 川 雅 子

山 西 哲 也

伊 藤 千 尋

竹 下 智 美（平成26年4月－）

池 畑 美 恵 子

事 務 職 員 朝 倉 美 穂 子

平成27年度
総合福祉研究 特集号
ISSN 1881-8315

2015年9月15日 印 刷

2015年9月15日 発 行

編集・責任者 淑徳大学社会福祉研究所
総合福祉研究室

発 行 淑 徳 大 学

〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200

電 話 043-265-7331

印 刷 (株) 正 文 社

〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6

電 話 043-233-2235